

日本水泳連盟機関誌

水泳

第 1 3 3 号

昭和 35 年 6 月

水

No. 133 "SUIEI" April 1960

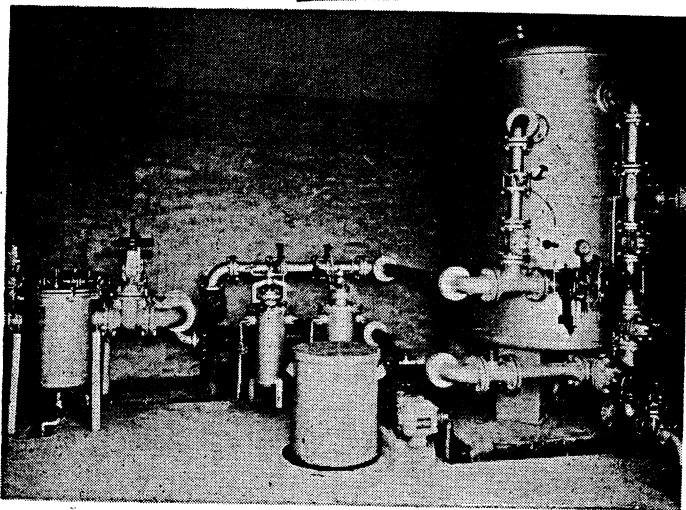
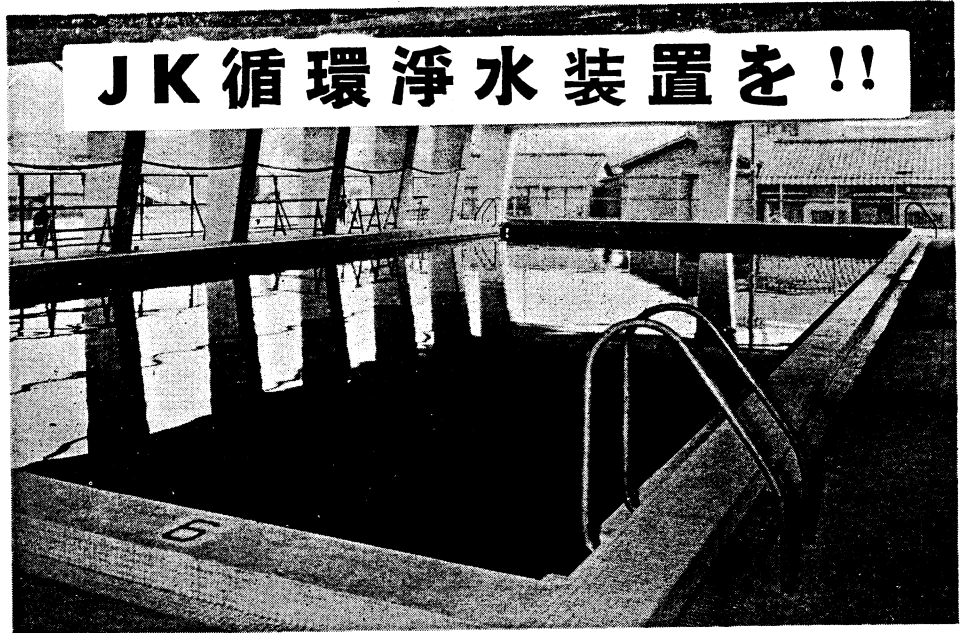
NIPPON SUIEI RENMEI

(Amateur Swimming Federation of Japan)

きれいなプールにはぜひ

JK循環浄水装置を!!

1日に3回プールの水を循環濾過させ、その上完全滅菌を施しますので、シーズン中澄み切つたきれいな、しかも衛生的な水で泳ぎが楽しめます。



50m 競泳用プール
25m

学 校 プ ー ル
娛 楽 プ ー ル
室 内 温 水 プ ー ル
そ の 他 各 種 プ ー ル

設 計 . 施 工 .

★★★ JK式水泳プール循環浄水装置は

- ◎ ヘヤーキャッチャー
- ◎ 循環ポンプ
- ◎ 薬品自動注入装置
- ◎ 濾過機
- ◎ 塩素滅菌装置

等からなり、濾過剤にはシリコン・アンスライトを使つていますので濾過機は素晴らしい濾過能力を持ち施設場所が狭くて経済的です。

★★★

株式会社 浄水工業所

本 社 尼 崎 市 浜 字 十 二 Tel. 大阪 (48) 7125
本 店 東 京 都 千 代 田 区 神 田 駿 河 台 3 の 6 Tel. 東京 (25) 3857
各 営 業 所 札 幌 ・ 福 岡 ・ 広 島 ・ 小 倉
総 代 理 店 安 宅 産 業 株 式 会 社

目

次

| | | |
|--------------------------------|----------------|------|
| ローマ・オリンピック大会を迎えて..... | 小 出 晴 彦..... | (2) |
| ローマへの準備..... | 太 田 光 雄..... | (4) |
| ローマ・オリンピック大会水球第三次強化合宿日記..... | 神 田 明 喜..... | (5) |
| ローマ・オリンピック大会飛込第三次強化合宿を顧みて..... | 柴 原 恒 雄..... | (7) |
| ローマ・オリンピックコーチングスタッフ..... | | (8) |
| 第2回室内選手権大会をみて..... | 古 橋 広 之 進..... | (9) |
| 第2回末弘記念日本室内選手権水上競技大会記録..... | | (11) |
| 第1回中央指導者講習会に出席して ——座談会—— | | (15) |
| 小中学校標準プール公認規定について..... | 深 谷 俊 明..... | (23) |
| ブラジル水泳界の現状..... | 真 木 昌..... | (25) |
| 陸上トレーニングについて..... | 宮 下 充 正..... | (28) |
| 指導者講習会研究報告 | | |
| 座談会「インターバルをかえりみて」..... | | (31) |
| 昭和35年春期定例代議員会議事録 | | (39) |
| 日本史上競泳100傑 (5)..... | | (46) |
| 海外ニュース..... | | (52) |
| 連盟日誌..... | | (56) |

表紙写真は、第2回室内選手権大会の男子100m平泳決勝におけるせり合い。

(都営室内プール)

「ローマ・オリンピック大会を迎えて」

ローマ・オリンピック大会監督 小 出 靖 彦

ローマオリンピック大会もあと二ヶ月余を残すこととなり、世界の視聴も遙かなるスポーツの聖地へと一様に注がれるに至った。去る四月の臨時代議員会においてローマ大会のコーティングスタッフは会長一任と決定、続く常務理事会において私以下の役員が会長より指名、承認されたが、ローマ大会の置かれた意義の重大性を考えれば、今更職責の重大なるを痛感せざるを得ない。

幸い太田コーチ以下水球、飛込を含めコーチ陣には夫々得がたいベテランが決まり、私としてはその点洵に心強いものがあるが、この上は選手団、コーチ陣が一丸となり技術的にも精神面においてもフルな力を発揮しうよういわば車の両輪をつなぐ軸となり努力を傾けたい所存である。

水連としては、ローマ・オリンピックに備え一昨年から着々態勢を整え、日豪大会から第5回日米大会の勝利を経て、数次にわたる強化合宿練習を実施したほか、第一線指導者各位に対する講習会を開催し、選手育成の科学的管理はもち論泳法理論の解説から練習方法に対する習熟等各般にわたり強化を期してきた。就中一昨年の米国遠征を初め日豪大会を契機として、インターバル練習法を練習方法にとり入れた結果は、それ自体検討を要すべき問題点は残っているにせよ、選手のスピリットの養成、スタミナの配分に非常な好結果を齎し得たものと考えられる。この間次代を背負うべき中学生の強化対策としては、ジュニア指導講習会や中学校通信競

技大会の規模、内容をできるだけ充実させ強化を期した。更にオフシーズンの有効な活用を図るため昨年度から室内選手権大会を開催したが、特に本年4月の第2回大会は質量ともに飛躍的な向上を見せたことは、ローマ大会へ大きな希望を抱かせるものとして喜びに堪えないところである。

もとよりこれら一連の強化策は、早急な効果を求めることは望めないにしても、ローマ大会への準備の一段階たると同時に今後その態勢を整備することにより、それが東京オリンピックへつながる意義は極めて大きいものとする。

偖、ローマ大会を目指し第一線選手諸君は既に猛練習に或は整調に懸命な精進を続けているが、山中君を頂点とし若手選手も好調を持っていることは洵に心強い限りである。7月22日からの最終予選会の結果により晴れの代表選手が選ばれるわけであるが、水泳は既に周知の通り競泳は男子14名、女子7名、飛込は男女5名、水球11名計37名の選手団が決定されることになる。従ってこれらの顔ぶれが正式決定を見ない現在、ローマ大会での予想は軽々には論ぜられないが、われわれとしては、東京オリンピックもさることながら目前に迫まったローマ大会こそ日本水泳陣の真価を発揮すべき好機と考え全力を結集し大会に望みたい。

何といってもオリンピックは、スポーツマンにとって栄光の場であり、晴れの舞台である。選手個人としても全能力を振りしぼることは当然ではあるが、緊張と責任感から日頃の鍛錬が

実を結ばないことのないよう練習計画と健康管理には過去の経験や実績を十分反映させ、選手に思い切った活躍をさせたいものと考えている。

周知のとおり世界の水泳界は、記録的に見てもメルボルン大会以降急激に上向きを示しているが、それは既に日豪、日米両大会で実証されたばかりでなく、その後における躍進振りは目を見張らせるものがあり、特に米、豪、英各国の若手無名選手の進出、就中米国のエイグルーブより優秀選手がローマ大会を目指し名乗りをあげていることは日本にとっても大いに警戒を要するところである。しかしながら、山中君の最近の好調は200mで2分を切り、400mでも4分14秒以内、1500mでは17分20秒台を目標に実力十分が期待されるだけに、400m・1500m 2種目優勝も決して夢ではない。800mリレーも山中君を筆頭に福井、藤本君等の活躍があれば米・豪を相手に十分勝算は考えられる。平泳は、40秒の関門はまだ切っていないが、日本の誇る伝統にかけて最も望みが託されるわけであり、この意味でも人材豊富な若手選手を中心とした奮起が大いに期待される場所である。バタフライは最近英国のブラック等新進の好調が伝えられ、加えて依然好調のトロイをはじめ多くのベテランが控えているだけに苦戦は免れまい。

女子は何といっても田中嬢の背泳であるが、200mでは4月の室内選手権で再度世界新記録を出し、全くの好調振りを発揮していることは頼もしい限りである。しかし、オリンピック種目は100mであるため率直に言って優勝を争うには全くの未知数というほかはないが、レース毎に力を増している現在、何とか栄ある金字塔を打ちたてさせたいものである。こうしてみる

と全種目とも決して楽観はできないが、勝敗は水のものであり、会長もいわれるとおり最後は精神力とあくなき闘志が勝敗を左右することは必然である。もち論、優勝をさらう多くの決勝進出、入賞を得ることがわれわれに与えられた課題ではあるが、これを成しとげるには従来までに累積された強化合宿練習の成果を大会までの合理的かつ慎重な練習計画と調整の上に結実させ、ベストコンディションに持ちこむことにあると確信する。

水球はベルリン大会以来20数年振りの参加であるが、ヨーロッパ諸国の水準は一頭地を抜いているため、日本チームも余程頑張らないと決勝進出は至難であろう。しかしながら体力に劣る日本にとってはの唯一の活路は、それを補うスピードの駆使とそれに伴う技術の修得、更に旺盛な闘志とによって堂々と果敢に闘い抜くばかりである。

飛込は、メルボルン大会やその後の情勢から見て男女とも決勝進出は十分望みがあるが、大会当日のコンディションに支配されやすい種目であるだけにこの点十分留意致したいと思う。

とにかく選ばれた精鋭をもって、最大の効果をあげるべく物心両面にわたり全力を尽したい。それには全国の水泳関係者はもとより諸先輩の貴重な御意見なり御体験はこれを謙虚に採り入れるとともに、施策に十二分に反映せしめ、遺憾なきを期したい所存であるので関係者各位の一層の御協力、御支援を切望する次第である。

(筆者は本連盟専務理事)



「ローマへの準備」

ローマ・オリンピック大会コーチ

太田光雄

待望のローマ大会も愈々後3ヶ月後に迫った。各競技団体とも華々しく、東京大会強化対策と銘打って、出発しているようだが、吾々としては、ローマ大会に全力を傾けて、ここで、覇権奪回の足掛りを掴み、この勢いに、地方強化に依って伸びてくる第二陣を加え一気に東京大会への計画の下に、候補選手中心の強化練習のスケジュールを組んだ。

、 昨年11月からの3回の強化合宿の成果を試す室内選手権は、予想通り、レベルを大きく上げることができたと思う。殊に山中を中心とした自由形陣は、昨年の日米対抗以来実力をしっかりと身に付け、長短共、揃って来たことは大いに心強い。難を云えば、短距離の石原が、まだ試合に実力を出し切らないうらみがあることと、中心選手と思われた、梅本と清水が、体の故障のため、その成長を見ることができなかったことであろう。

平泳陣は愈々オーソドックス泳法をマスターし、実力紙一重の者がひしめき合い、代表選手を予想することは全くできないようなうれしい状態になってきた。そして水準も大きく上って有望な種目の一つになってきたことは大きな収穫である。これからオープンに出て、各自のチームでの練習も一段と身の入ることと頼もしい限りだ。

バタフライは那須が練習不足で予想を裏切ったようであるが、これもカムバックした増永と、開田、吉無田等と共に激しい争いになるだろう。併し、この処、米、豪共に2分17.8秒の選手が多くなってきたので、余程の奮起が必要だ。

男子の中では背泳が何としても見劣がする。400mメドレーもオリンピック種目にあることだから、老練の長谷、富田をしのぐ泳者として、広瀬、中原、石橋等更に頑張らなくてはならない。

女子陣は依然として第一線と第二線との差が大き過ぎて、層の薄いのが気掛りだ。この中で田中が、自己の200mの世界記録を更新して、着々と成長してきていることを示したのは心強い。合宿中も、オリンピック種目の100mを中心にして練習をしたため、ズプリントが付いてきて、200mは余り期待しなかったが、大記録を物にしたのは、100mにも大きな希望が持てる。最終予選

迄には100mの世界新を望みたいものだ。

五月の声と共に、インドアから戸外に出た練習もはじまり、最終予選前の対抗戦も始まるが、各チーム共目前のレースのためにどうしても、練習が不足する傾向はあると思うが、一番大切な時期であり、ローマ迄には大きく伸びて貰わなくてはならないので、最終予選を目標として、大きな眼で練習計画をたて、貰いたい。

7月の22日より3日間、ローマへの代表者を選ぶ最終予選会が開かれ、24日の夜には代表選手が発表になる。4年間の努力をこの3日間に懸ける選手も各監督も大変な事と思うが、選ばれる選手の枠は男子は各種目2名宛のフルエントリー、女子は約7名位ときめられている。これはあく迄予想であって、記録の非常によい者、悪い者は、この枠に縛られないで、ローマで最も効果を上げ得る人選がなされることと思われる。チームとして参加した選手が皆決勝に残れるような強力なものになって貰いたいものである。

終って25日には、選手全員集合して、出発予定日の3月12日迄、合宿練習が始まる。この期間は渡欧の準備等で選手も落付かない日日だろうが、あく迄ローマをねらう意味で、外からの雑音を避けて、じっくり腰を落付けた練習と休養とを実行したい。

ローマに到着してから試合開始迄、約2週間の練習期間はあるが、いつもの例で、中々思うような練習時間をとることができないので、この意味でも、出発前の練習は非常に大切なものとなる。

尚今度のローマ大会は恒例を破って、水泳競技が前半に行われる。今迄は前半に陸上競技が行われ、大会そのものの零囲気が、秋風が浸みするような感じのする後半、レースがあつてどうもやり難かったが、今度は、開会式から引続いて水泳があるので、意気の盛上った中でレースができるのは幸である。

今大会もメルボルンに引続いて、豪州が強力なチームで参加するし、米国勢もこれに劣らない力を持っている。吾々としては、昇り坂を利用して、何としても一泡吹かせなくてはならないと思う。そして水泳日本の再現の足掛りを掴みたい。

(筆者は本連盟常務理事・競泳委員長)

ローマ・オリンピック大会水球第三次強化合宿日記

強化合宿コーチ 神田 明 善

場 所 長野県野沢温泉プール

期 日 自昭和35年4月29日 至同年5月9日

1. 本合宿練習目標

第1回、第2回の合宿練習の経験と成果に鑑み今回の練習目標を下記の通りとした。

1. 基本、技術の再強化
2. 泳力増強 特にダッシュ
3. 攻防戦術の体得 特に国際試合向きに
4. 体格差ある外国選手相手のボールワーク
5. ゲームセンスの養成

2. 日 課

| | | | |
|------------|-------|-------------|-------|
| 7.00 | 起床 体操 | 15.00~18.00 | 練習 |
| 7.30 | 朝食 | 18.15 | 夕食 |
| 9.30~12.00 | 練習 | 19.30~21.00 | 座学 |
| 12.15 | 昼食 | 21.30 | 就寝,消灯 |

3. 練習要点の日程分配 100%率

4月29日~5月3日

| 泳力 | ハンドリング | アタック コンビネーション | ディフェン スコンビネーション | ゲーム |
|-----|--------|------------------|--------------------|-----|
| 20% | 10% | 25% | 25% | 20% |

5月4日~5月8日

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|-----|
| 10% | 5% | 30% | 30% | 25% |
|-----|----|-----|-----|-----|

4月28日 晴

8.00 上野駅集合 9.10 上野駅発 15.40 野沢着。到着後部屋割。総員に明日よりの練習要点を達し、気候環境の変更により身体の調子に留意するよう注意す。毎朝起床後体重表に各自の変調を記入すること。

4月29日 快晴 気温 午前 18度 午後 16~12度
水温 22度

午前 400 タイム

A組(8名)概ね初期の目標(5分10秒前後)に近し

B組(5名GK3名)少々の向上奮起を望む
ダッシュ 50×6

タイムとしてはもう少し向上を望むが回数による変化が少なくなったことは非常によい。

ハンドリング 初日のため少々手につかず。

シュート(マーク付ドリブルシュート パスする方もマーク付)最後の球に手を出す時の身体のこなし方の要領が悪い

午後 ワンサイドゾーンディフェンス(以下ゾーンという)

従来の防禦練習を其儘延長し逆サイドのゴールまで攻撃プレーを続ける。

ワンサイド アタックフォーメーション(以下アタック)

GKを振る逆サイドパスによる攻撃の場合タイミング(シューター・ハッサー両方)が非常に重要である。出足が充分でない。感を養生するためゲームを行う。

青組 加藤, 荒川, 浅沼, 青山, 高木, 佐藤, 宮村

白組 山本, 中川, 松岡, 村川, 清水, 本田, 内田

夕刻(17.00 以后)になると大変気温が下るため注意する。故障者なし。予定より本日は少々強い練習を行う。

座学 ワンサイドアタックフォーメーションの際の注意

1. 正確なるパス
2. 突込みのタイミング
3. 出足の鋭さ特にシュート圏内における出足
4. シュートは必ず泳ぎ乍ら
5. ゴール前で止まらぬ2m線につかえたら横え切れる
6. 身の替しとパスのタイミング

4月30日 薄雲り 気温 16度 水温 22度

午前 400 タイム 初日の猛練習のため少々疲れを見せたがタイムは殆んど変わらず5分20秒前後

ダッシュ 2,3の者は非常によいスプリングをしている全員最後までタイムの変らぬのは強み、OB連が真面目に頑張ってるよしい

シュート(ドリブルマーク付)

パスのタイミング, シュートの時の身のこなし昨日より大分よくなった。

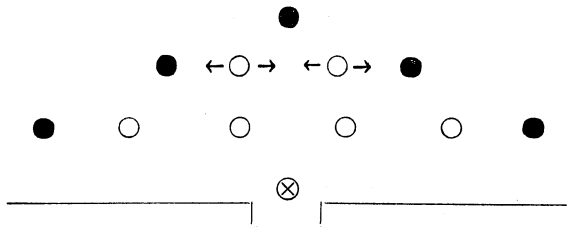
パスのボールの緩急に一研究を要す

GK 飛び出しは大分よくなったが, シュートを止めたり, はねかえったボールの後処理悪

し、返球も今一步。

午後 ゾーンディフェンス 代表チームがこのシステムを取入れる原因と理由

- ① 相手チームに強力なるフローティングホワードが来た時、現能力では防禦はこれより他にない。
- ② 現国際審判法方では退水のケースが非常に多いこの時の防禦法として
- ③ 相手を引付けておいて速攻に移る
- ④ GKの防禦の欠点をカバーする



二段目の動きに重点を置き左右に当りながら必ず手を上げてゆく。速攻に移る場合のパスの送り方受け方、最前線には最後的にボールを渡せばよいのであって、それまでは中盤で球を確保したりドリヴルする。逆サイドに突込んでいる者を如何に利用するか要は頭を上げてのダツシュ。

アタック シューター或は逆サイドに突込む者は出来るだけ遅らせる。勿論パスサーとのタイミングを考えた上で、2m線の利用。単なるゴール前のパスだけではなく必ずGKを振るようにする。

ゲーム チャンスをつかむポイント及び利用、逆チャンスに対する身のこなし。

未だ頭を上げての泳ぎが不足

座学 ゾーン、アタックに付いて各自より活発なる意見を聞く、お互同志可成の癖があるので注文を付け合うのもよろしい。要は原則に対してもう少し忠実に動くことにより更に応用動作にも適用できる。

5月1日 快晴 気温 18度 水温 22度

午前 400 タイム そろそろ軌道に乗って来た

ダツシュ 疲労のため向上はみられぬが、差が少なくなって来た。

シュート パスサーとシューターのタイミング今一步、シュートの時の身の切换えしが非常にようになった。

サイドからのシュートの時未だチャンスの作り方が下手。

午後 ゾーン 二段目の動きに変化を持たせる。併し

あまり動かさせたのでは速攻に移る場合の力不足になる。GK前の2名が手を上げて或度カバーしてやる。

アタック 最初の改撃が終った後第2回目の撃までの間のとり方、実戦化が大切。

ゲーム 40分

5月2日 午前 雲 午後 雨 気温 13度 水温 22度
午前 午後休養のため入替える。

ゾーン 間隙が非常に少なくなった。但しパスを速く渡った時に如何にカバーするか。

原則は敵が強力なるフローティングシステムで来た時に使うのであってゴール前に敵が居ない時はマンツーマンで行く。

アタック 突込みのタイミングがよくなった。パスは今一步、逆モードの守り及び追かけが弱い。

午後 休養

5月3日 快晴 気温 18度 水温 23度

起床後計量昨日午後休養のため全員増量 0.5kg~2kg
故障者なく全員健康

午前 400 タイム } 好記録はないが全員好調今後頭をダツシュ } 上げたダツシュを励行

シュート ドリヴルマーク付の基本は殆んどマスターしたようであるが応用変化の研究未だ突込みのコース、のふり方。

パスが来る方角に対応する身のこなし。

パスする者の角度及びカット。

午後 アタック、コースのとり方、ハンドオフの方法。

ゾーン 変型に難あり

ゲーム 成城大学と練習ゲーム

相手方ゾーンをくづす攻撃一考

荒川右腕関節痛、ゲーム休み

5月4日 晴 気温 15度 水温 23度

午前 ダツシュ 50×6 } 極力頭を上げる
25×10 }

シュート、パスのタイミング、ボールの強さ、角度、要研究。

午後 アタック ゴール前のフリースローの応用

ゾーン 変型に対する処置

ゲーム 40分

5月5日 休養 パス遊行 快晴

木島——千曲川——湯田中——渋温泉——丸池——噺甫——熊の湯——帰路

有意義なレクリエーションの一日でした。さあ、明日からまた頑張ろう。

5月6日 曇 気温 15度 水温 23度
 午前 50×6 } 非常によろし
 25×10 }
 シュート パスの強弱, コース
 午後 雨
 アタック 突込みはよくなったが次のチャンス
 に対応する動作が未だ。
 ゾーン 変型の研究
 ゲーム 味方のアタック型にあてはめるま
 の間

5月7日 雨 気温 10度 水温 22度
 午前 50×6
 シュート GKのふり, 逆サイドの更利用。
 午後 アタック

原型90点
 ゲーム 第二回攻撃までの間
 宮村選手実家(義兄)不幸のため帰京。

5月8日 晴 気温 16度 水温 23度
 午前 50×6 初期の目標タイムには近し
 シュート 仕上げのため幾分豪快さに欠く。
 午後 ゲーム 紅白試合
 成城大学との練習試合
 2, 3の者が非常に進歩の跡を見せた。

5月9日 帰京 解散
 今合宿において故障者が非常に少く, その成果が充分
 果されたことは選手の心構えに見るべきものがあり,
 今後大いに期待できるものと思います (了)
 (筆者は本連盟水球委員)

ローマ・オリンピック大会飛込 第三次強化合宿を顧みて

ローマ・オリンピック, コーチ 柴原恒雄

過る4月29日より, 5月8日に到る10日間のオリンピック候補第三次強化合宿における, 選手の練習状況を記して見たいと思う。

今回の強化合宿は仕事の都合で得止ず参加出来なかった馬場君を除いては, 男子では現地の馬淵君を始め, 日大OBの山野君, 日大の金戸君, 女子では関東の渡辺君, 関西の津谷君と何れも元氣一杯で参加した。

先づ第一に都会での練習と異って, 人里離れたと云ってよい野沢温泉プールは, 交通の便がどうか, 練習時間の組合せがどうかというようなことは一切おかまもなく, 毎日毎日が練習と直結しているという状況は, 合宿練習としては誠に恵まれたものであった。

選手の技倆については全般的に見れば, 飛板, 高飛込を通じて昨年シーズン中のことは一挙に取戻した感がある。女子飛板における津谷君の逆飛もの, 踏切り, 後宙



プールサイドにて 左より柴原コーチ, 山野, 馬淵, 津谷, 渡辺, 坂本, 金戸の各選手。



大氣を一杯に吸って予備体操

返り一回半の安定感, 渡辺君の後踏切前宙返り一回半の踏切りと全般的な確実感, 男子における馬淵君の高飛込における確実感, 山野君の平均した飛び方の自然美, 金戸君のダイナミックな味, 何れも各々の持ち味を充分生かした飛び方に一生懸命であった。

各選手の弱点とでもいうか, 特に技術面における不足といったような面は, 余り問題が今後に残される事は先づなくなったように思うし, 続く強化合宿において充分解決がつくと思う。

問題は競技に対する各選手の精神力というか, 気力の点に凡ゆる角度からの刺激が大いに必要となって来た。後, 最終予選迄には50日しか余っていない。

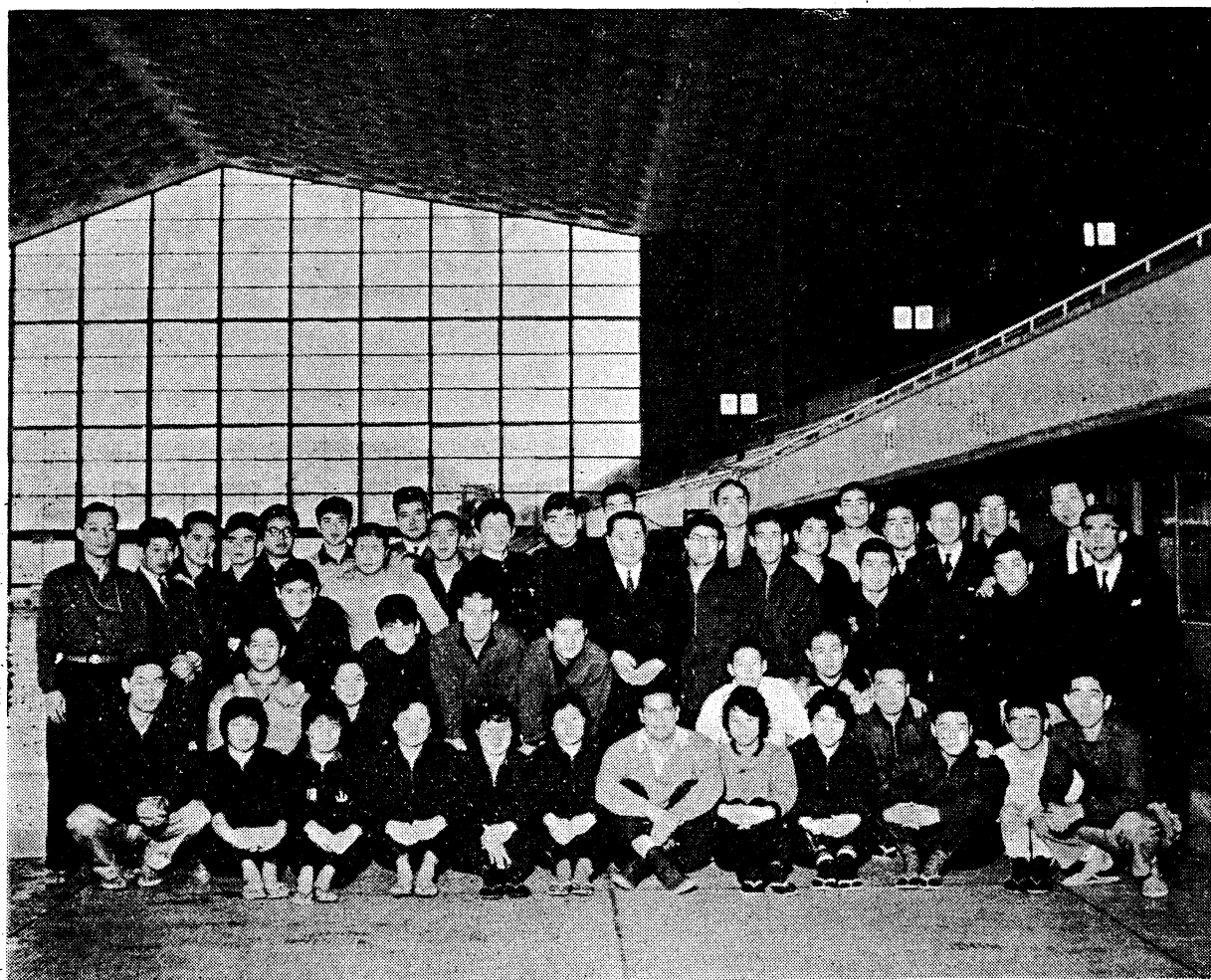
ローマ大会迄には80日しかない。練習量, 練習方法のみを考えて進めるだけの体力に各選手は充分注意をして頑張ってもらいたい。

(筆者は本連盟常務理事・飛込委員長)

ローマ・オリンピック大会の監督、コーチ決定す

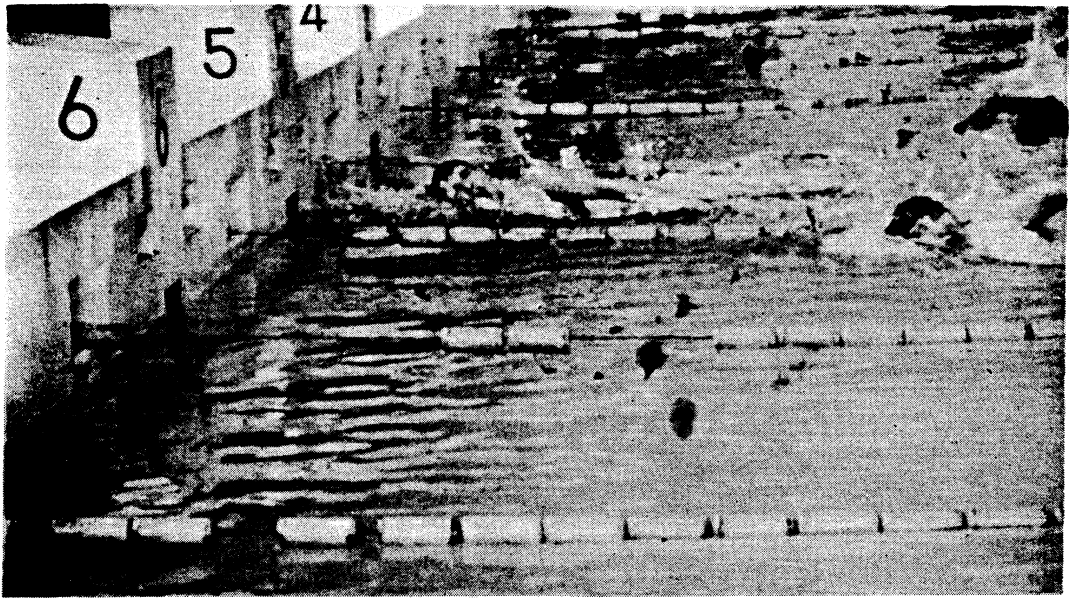
4月2日の代議員会において会長一任となっていたコーチングスタッフは4月7日の常務理事会において下記のとおり会長より発表された。

| | | |
|-------|-------|-----------------|
| 監督 | 小出靖彦 | (専務理事) |
| コーチ | 太田光雄 | (常務理事・競泳委員長) |
| コーチ | 赤樫卓爾 | (常務理事・学生部会名誉主事) |
| 飛込コーチ | 柴原恒雄 | (常務理事・飛込委員長) |
| 水球コーチ | 鵜田武 | (常務理事・水球委員長) |
| マネジャー | 志村文一郎 | (常務理事) |



ローマ・オリンピック大会強化合宿記念撮影 於：都営室内プール

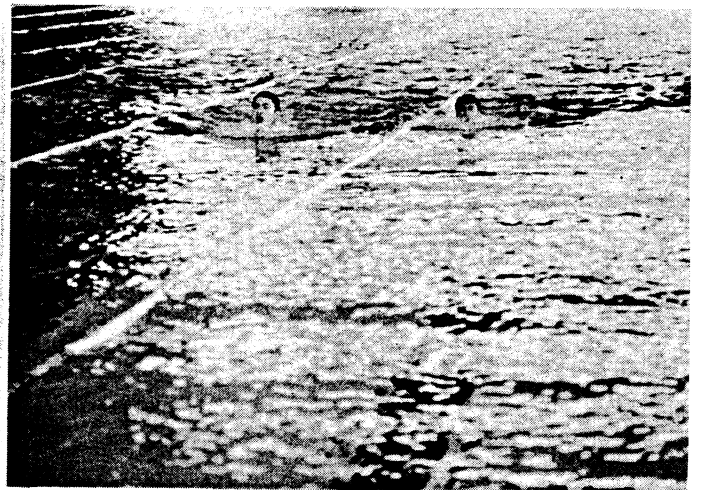
室内選手権水上競技大会



男子 400 m 自由形決勝 250 m ターン附近のせりあり
手前より福井, 山中



男子 400 m 自由形に優勝し, 末弘杯を
受ける山中 中央は末弘未亡人

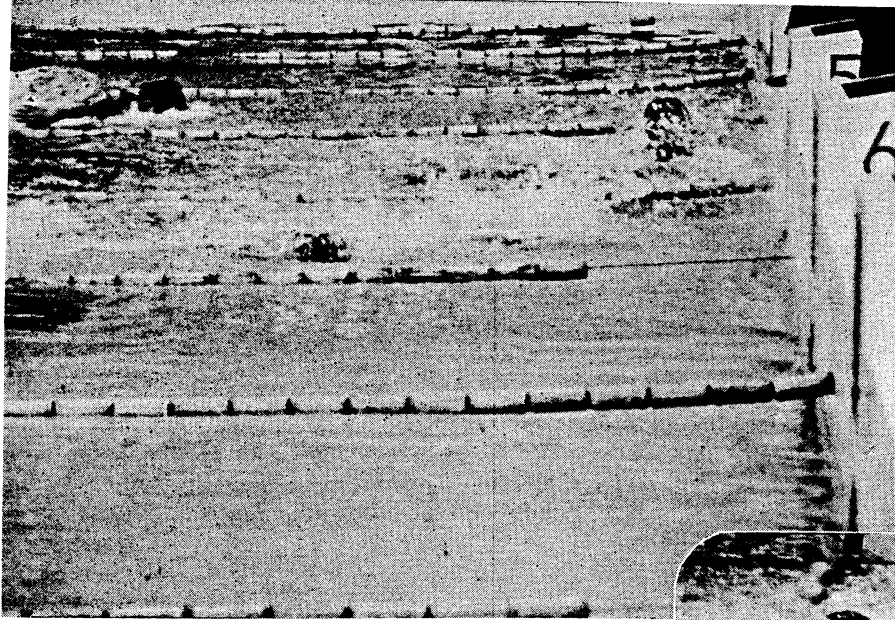


男子 200 m 平泳決勝におけるせりあい
右より増田 (1着) 篠田 (3着)

女子 200 m 背泳決勝のゴール
プールを上る田中嬢

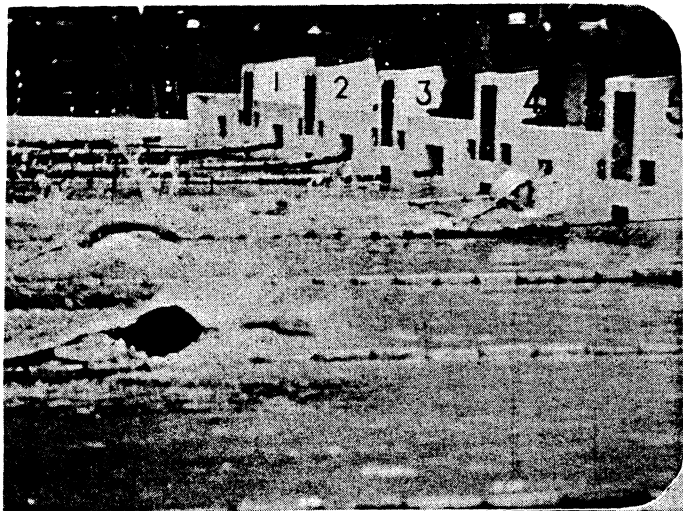
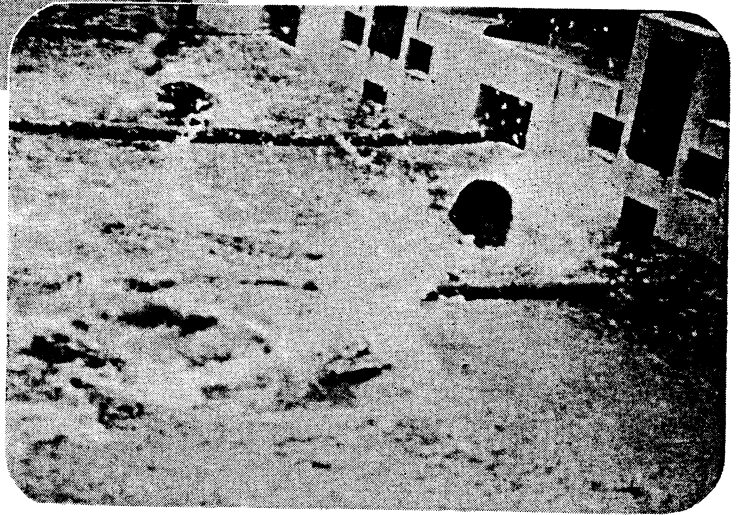


てれる田中嬢



男子 100 m 自山形決勝のゴール
7コース1着石原
6コース2着福井

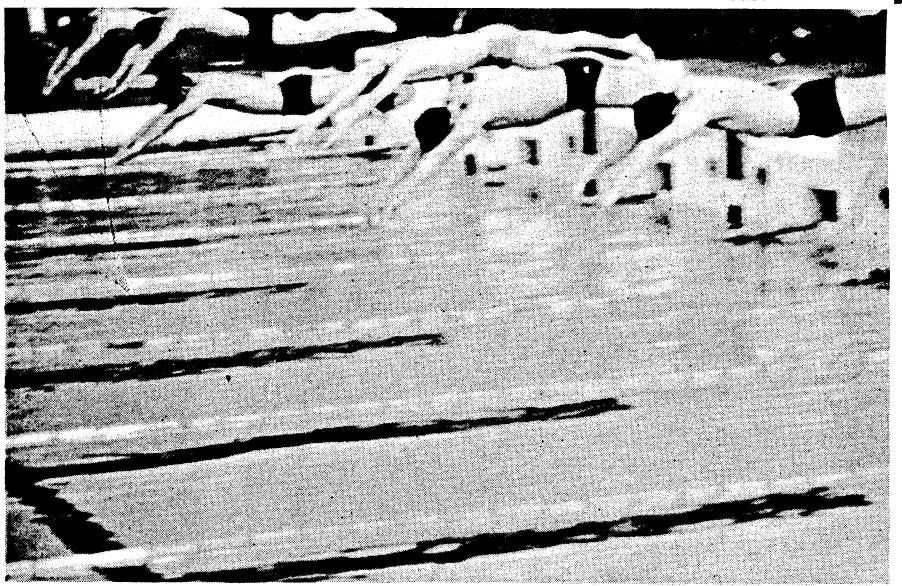
↑ 男子 200 m バタフライ決勝のゴール
手前より増永(2着), 開田(1着)
吉無田(3着)の各選手



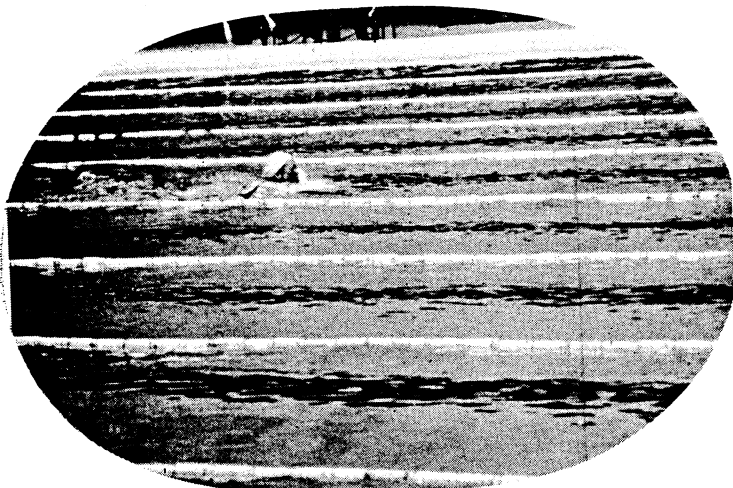
男子 200 m 自由形決勝で表彰を受ける
右より山中, 福井, 石井の各選手 ↓

↑ 女子 100 m 自由形決勝の
ゴール 手前より江坂(3着)
神野(2着), 佐藤(1着)





男子 200 m 決勝のスタート。左より石原，竹本，見上，石井，山中，福井，丸山の各選手



女子 200 m 平泳決勝で優勝した高松嬢の力泳振り



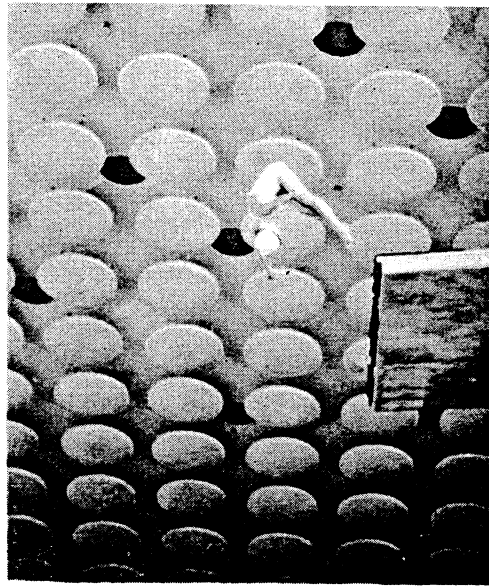
男子 800 m 自由形決勝
300 m 附近のせりあい
手前より山中，庄司，藤本の各選手

惜しくも，シュートならず，水球決勝戦





男子高飛込決勝に優勝した
金戸選手の見事なフォーム



女子高飛込に優勝した
津谷嬢の美しいフォーム

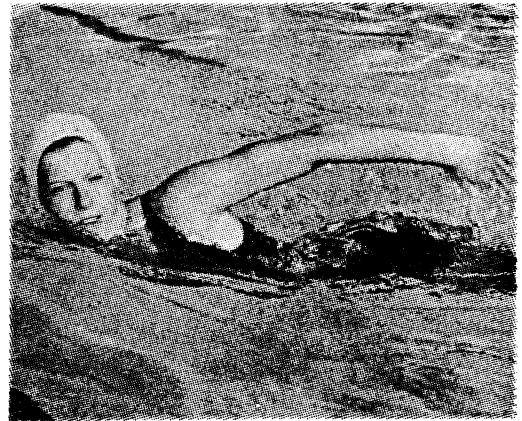


アメリカの万能選手
シルヴィア・ルースカ
(アマチュア・アスリートより)



イギリスのホープ
ナタリー・ステュワード
(スキミング・タイムズより)

アメリカの万能選手
クリス・フォン・ソルツァ
(アマチュア・アスリートより)



完成したローマ・オリンピック・プール (アマチュア・アスリートより)



第2回室内選手権大会をみて

古橋 廣之進

昨年に引続く第2回末弘記念室内水上選手権大会は去る4月2、3日の2日間都室内プールで行われた。

昨年本大会を開催するに当っては賛否両論だったと思う。施設、時期から見て充分トレーニングを積み得ないで選手がこうした選手権に出場するのは或る意味で反ってマイナスにはならないだろうか。或はもっと慎重に検討して決論を出したら如何とか、何れにせよ一部に時期尚早論的な心配を寄せられる向もあった。それに対して出来るだけ多く泳ぐ機会を持つ方がプラスである。従って開催時期については検討する必要があるが実行に移すべきだとの意見であったと思う。

然し賛否両者に共通した意見は、冬の間に細い泳ぎの技術的な面を研究する機会としては確かに有意義であるとの事だったと記憶している。

要するに本大会を選手権と名打って何かしら記録的なものと結びつけようとする点に疑問が湧いてくるのだと思う。

何れにせよ本大会が日本の新しい企画として出発した事は誠に喜ばしい事で、この大会を持つ事によって更に日本の水泳界が前進してくれる事を望んでやまない。

本年は昨年の例からして開催期日を多少ずらして4月早々に持って来たこと、或は出場出来るような準備体勢も早くから整えて来たことそれに本年はローマ・オリンピックの年とあって参加者は第1回に較べ大幅に多くなって来たことは本大会を意義づけるものとして注目している。

然し、本年も特に女子に棄権選手の多かったがこれも当分の間種々の事情で致し方ないと思う。

扱って、本大会は以上述べたような意味も含んで、私は記録的なものにはそれ程の期待も寄せず、むしろシーズンの蓋開けとして各選手の泳ぎの方向、シーズンを通しての活躍の状態を探るのに大いに役立つ試合だと思っている。今シーズンもどうやら男子では山中、女子で田中を中心に日本の水泳界も進んで行きそうに思う。

それにローマ大会だけに、そろそろ新人の台頭を望みたいところである。

本大会を通じての収穫は果せるかな山中が本年も健在であること。福井、藤本の進況に石井の200mへの進出によって日本の本命と思はれる800mリレーに更に希望を持たせたこと。平泳の新旧入り乱れての激突による躍進、女子では背泳の田中が大きく飛躍、100mにもその

傾向が伺われて来た事等で期待された選手は何れもローマ大会への決意に燃えている点であったと思う。

一方期待された男子短距離、バタフライには相変わらず不安が残り、女子に於ては田中以外は全く不振であるようにも思える。

中でも最も心配なのは期待された新人が何れも伸びなやんでいることで、この調子では既成選手以外に新人の活躍はそれ程望めそうにもない。

男子競泳を種目別にみると先づ100m自由形では石原の泳ぎが一極目立ってよく以前よりもスプリントがついて来た感じだが、しいて云えばこのスプリントを泳ぎの中に生かして居らず特に飛出しは肩に必要以上の力が入って、折角のノーブレッシングが何か、からかきに終わっている。これは浮上りから泳ぎに移る動作と、腰とアゴの引きに問題があるように思える。然し泳ぎ全体は昨年より大きな進歩で、スピード感がついて来た感じである。恐らく今シーズンの最盛期には56秒台への突入が見られそうである。又石原の泳ぎは体が負けている感じでもう少し重量感も欲しいところである。

続いて福井、中谷、十河、見上、竹本が入賞したが、何れもまだスプリンターとしてのスピードと泳ぎそのものにも問題があるようだ。然し福井あたりの泳ぎが本格的な短距離の鍛錬さへつめば相当なところ迄行けそうな気がする。

中谷、見上はこのところ伸びなやんだ感じで十河も体力的に将来性が乏しい。この種目での新人竹本も又入賞を逸した池田もまだまだすぐ使える選手ではないようだ。

200mはこのところすっかりつづが揃った感じのする



男子200m自由形決勝におけるせり合い。

種目で、山中これを追う福井の泳ぎは今のところ申し分なく、山中には今シーズン十分、2分のラインを切る実力が備って来たようだ。それにはもっと思い切った前半の飛出しが必要となって来よう。福井はよく山中を追ってあわやと思わせたが、目下のところ実力の差がはっきりしていた。然しこの分だとシーズンの最盛期には持って行き方如何によっては山中との対等の試合も望めそうだ。続いて石井が800mを捨てこの種目に登場し3位を占めたが、長距離では或る程度前の分った石井にしてみれば本格的な中距離泳者としてその泳ぎを身につけるのも面白いと思った。相変らずの早いピッチで泳げば後半は長距離で鍛えているだけに或は楽しめる選手になれるかも知れない。4位以下の丸山、石原、池田はまだまだ上位三者には遠く及びそうにない。

尚、今夏の藤本を加えてこの種目は、ローマでの800mリレーをねらう日本の期待する種目だけに熱戦が見られそうだ。

400mは200m同様、山中、福井の白熱したレースで相譲らぬものがあったが、現状では山中に一日の長があり優勝をさらった。

山中はこの種目にコンラッズとの対戦を控えてをり、前半から飛出す思い切ったレースさえ自分のものにすればチャンスも充分伺える。

福井は目覚しい進況を示し従来よりも手、足のコンビネーションそれに体に浮きが出て来た感じで、今夏は山中の好敵手になりそうだ。

3位藤本、4位石井、続いての庄司、丸山と中々充実した種目の一つで、各選手ともまだまだ進況を示しそうだ。

800mは予想通り山中、藤本、庄司が上位を占めたが、何れもシーズンの浅い事と200、400に夫々力を入れたレースを始めから考えていただけに、それ程力の入った泳ぎぶりは見られなかった。

藤本の長距離への転向、それに庄司は泳ぎに欲さえつぎ込めば立派な泳ぎをしているだけに将来性がありそうだ。

平泳は中川、篠田、敷石の新鋭、増田、大崎のベテランが顔を揃え期待の種目だけに早くも力が入ったレースが見られた。何れも夫々特長をもった泳ぎであるが、中川、篠田、敷石の新鋭組にもう少しスプリントさえ備われば100mに11秒台、200mに40秒のラインはコンスタントに破れそうだ。今回は100、200で順位は異なったが目下力としては全くの五分で、泳ぎにスピードをつけた者が優位に立ちそうだ。

バタフライは那須の不調で興味をそがれたが、開田、増永がよく健闘していた。然し那須を除いたこの種目は

余程飛出しのよい泳ぎをしないと100は別にして200では2分15秒のラインは望めそうにない。泳ぎにもう少し力を抜いて滑らかなスベリが生れて来ないものだろうか。

この種目にもこれと云った新人の台頭は期待出来そうにない。

背泳は全くの閑散とした感じで相変らず今シーズンのウイークポイントになりそうだ。長谷、二宮、富田のベテランが出場しなかったので、唯できえ低調な種目だけに見どころはなかった。

もう少し大きな立ちぎみにそった泳ぎをこなせるものが出て来ないと永遠に遅れた種目の一つになってしまいうる。

女子では短距離の佐藤の力泳、平泳の高松、或はバタフライの宮部がベテランらしい泳ぎぶりを示したが、も早や彼女等には正直なところ記録的な飛躍を望めず早くこれを追い抜く新人が出て来て欲しいものだ。



女子100mバタフライにおける宮部嬢の力泳。

この中にあって一人田中が100、200とも気をはいて今夏のローマに大きな期待をもたせてくれたが、しいて云えばもう少し出足が欲しい感じである。これさえ身につければ、後半にすばらしい泳ぎを見せる彼女だけに相当な期待がもてよう。

今度の室内選手権から私は今夏のこうした予想をたててみたがこれが目下考えられ順当なところだと思う。こうした予想を上廻るような或は全然はづれる様な結果になればローマ大会は更に期待のもてるものになりそうだ。(筆者は本連盟常務理事・学生部会名誉会計)

第2回 末弘記念日本室内選手権水上競技大会

4月 2日 3日

東京都屋内プール(50m)公認

男子の部

100m 自由形

予選

| | | |
|----|--------------|--------|
| A1 | 十河 英記(稲泳会) | 59.3 |
| 2 | 遠藤 陸夫(法泳会) | 59.9 |
| 3 | 松永 健二(日大) | 1:00.9 |
| B1 | 福井 清(稲泳会) | 58.6 |
| 2 | 中村 良三(駿台ク) | 59.4 |
| 3 | 近藤 至男(勝村建) | 59.8 |
| 4 | 池田 芳玄(天理高) | 1:00.4 |
| 5 | 森田 公人(日大) | 1:00.4 |
| C1 | 中谷 庸彦(白水会) | 58.5 |
| 2 | 石原 勝記(日大) | 58.7 |
| 3 | 杉本 汎史(〃) | 1:00.2 |
| 4 | 上田 尚孝(法泳会) | 1:00.8 |
| D1 | 見上 勝紀(白水会) | 58.6 |
| 2 | 竹本 昭和(高知商OB) | 59.3 |
| 3 | 松岡 義郎(日大) | 1:00.0 |
| 4 | 末永 豪(法泳会) | 1:00.4 |
| 5 | 北原 一彦(稲泳会) | 1:00.5 |

決勝

| | | |
|---|--------------|------|
| 1 | 石原 勝記(日大) | 57.9 |
| 2 | 福井 清(稲泳会) | 58.3 |
| 3 | 中谷 庸彦(白水会) | 58.5 |
| 4 | 十河 英記(稲泳会) | 58.7 |
| 5 | 見上 勝紀(白水会) | 58.9 |
| 6 | 竹本 昭和(高知商OB) | 59.1 |
| 7 | 中村 良三(駿台ク) | 59.6 |

200m 自由形

予選

| | | |
|----|---------------|--------|
| A1 | 丸山 長敏(B・Sタイヤ) | 2:11.0 |
| 2 | 見上 勝紀(白水会) | 2:11.5 |
| 3 | 竹本 昭和(高知商OB) | 2:13.1 |
| 4 | 石原 勝記(日大) | 2:13.6 |
| B1 | 石井 宏(日大) | 2:07.8 |
| 2 | 池田 芳玄(天理高) | 2:13.0 |
| 3 | 吉村 喜平(旭化成) | 2:14.4 |
| C1 | 山中 毅(稲泳会) | 2:01.6 |
| 2 | 中谷 庸彦(白水会) | 2:13.7 |
| D1 | 福井 誠(八幡製鉄) | 2:06.9 |

| | | |
|---|------------|--------|
| 2 | 十河 英記(稲泳会) | 2:13.2 |
| 3 | 遠藤 陸夫(法泳会) | 2:14.1 |
| 4 | 三栖 兼造(白水会) | 2:15.0 |

決勝

| | | |
|---|---------------|--------|
| 1 | 山中 毅(稲泳会) | 2:03.5 |
| 2 | 福井 誠(八幡製鉄) | 2:04.9 |
| 3 | 石井 宏(日大) | 2:07.3 |
| 4 | 丸山 長敏(B・Sタイヤ) | 2:09.2 |
| 5 | 石原 勝記(日大) | 2:11.1 |
| 6 | 池田 芳玄(天理高) | 2:12.9 |
| 7 | 竹本 昭和(高知商OB) | 2:14.4 |
| 8 | 見上 勝紀(白水会) | 2:15.0 |
| 9 | 十河 英記(稲泳会) | 2:15.6 |

400m 自由形

予選

| | | |
|----|---------------|--------|
| A1 | 福井 誠(八幡製鉄) | 4:33.7 |
| 2 | 松木登八郎(三瀬高OB) | 4:46.8 |
| 3 | 中坊 昌美(B・Sタイヤ) | 4:51.8 |
| 4 | 吉村 喜平(旭化成) | 4:53.7 |
| 5 | 三栖 兼造(白水会) | 4:54.2 |
| B1 | 石井 宏(日大) | 4:41.4 |
| 2 | 庄司 敏夫(B・Sタイヤ) | 4:41.5 |
| 3 | 古木 輝己(白水会) | 4:46.5 |
| 4 | 阿部紀夫(法政二高OB) | 4:52.6 |
| C1 | 藤本 達夫(白水会) | 4:38.9 |
| 2 | 丸山 長敏(B・Sタイヤ) | 4:39.2 |
| 3 | 一色 讓(日大) | 4:46.4 |
| 4 | 坂元 昭紀(法泳会) | 4:46.8 |
| D1 | 山中 毅(稲泳会) | 4:25.9 |
| 2 | 石田 修一(白水会) | 4:52.8 |

決勝

| | | |
|---|----------------------|--------|
| 1 | 山中 毅(稲泳会) | 4:24.9 |
| | 1:01.1 2:07.2 3:16.6 | |
| 2 | 福井 誠(八幡製鉄) | 4:27.9 |
| | 1:01.5 2:09.0 3:18.0 | |
| 3 | 藤本 達夫(白水会) | 4:31.9 |
| | 1:01.2 2:10.3 3:21.0 | |
| 4 | 石井 宏(日大) | 4:35.8 |
| | 1:03.7 2:13.8 3:25.5 | |
| 5 | 庄司 敏夫(B・Sタイヤ) | 4:37.4 |
| 6 | 丸山 長敏(〃) | 4:42.3 |

| | | |
|---|------------|--------|
| 7 | 一色 讓(日大) | 4:46.5 |
| 8 | 坂元 昭紀(法泳会) | 4:48.3 |
| 9 | 古木 輝己(白水会) | 4:48.4 |

800m 自由形

予選

| | | |
|----|---------------|---------|
| A1 | 藤本 達夫(白水会) | 9:45.2 |
| 2 | 庄司 敏夫(B・Sタイヤ) | 9:53.6 |
| 3 | 一色 讓(日大) | 10:11.3 |
| 4 | 浅野 純孝(白水会) | 10:28.9 |
| B1 | 山中 毅(稲泳会) | 10:03.0 |
| 2 | 松木登八郎(三瀬高OB) | 10:03.5 |
| 3 | 古木 輝己(白水会) | 10:05.5 |
| 4 | 中坊昌美(B・Sタイヤ) | 10:22.0 |
| 5 | 阿部紀夫(法政二高OB) | 10:23.0 |
| C1 | 坂元 昭紀(法泳会) | 10:02.1 |
| 2 | 坪田 暲(白水会) | 10:17.6 |
| 3 | 北条 進一(駿台ク) | 10:20.2 |
| 4 | 石田 修一(白水会) | 10:20.5 |

決勝

| | | |
|---|-----------------------------|---------|
| 1 | 山中 毅(稲泳会) | 9:20.9 |
| | 1:04.4 2:15.2 3:25.6 4:36.6 | |
| | 5:48.3 7:00.3 8:12.6 | |
| 2 | 藤本 達夫(白水会) | 9:35.1 |
| | 1:04.1 2:15.5 3:27.1 4:41.1 | |
| | 5:54.8 7:08.9 8:22.6 | |
| 3 | 庄司敏夫(B・Sタイヤ) | 9:47.0 |
| | 1:04.4 2:16.2 3:30.7 4:46.5 | |
| | 6:02.5 7:17.9 8:33.6 | |
| 4 | 松木登八郎(三瀬高OB) | 9:53.8 |
| 5 | 坂元 昭紀(法泳会) | 9:54.7 |
| 6 | 一色 讓(日大) | 10:00.1 |
| 7 | 古木 輝己(白水会) | 10:04.0 |
| 8 | 坪田 暲(〃) | 10:21.4 |
| 9 | 北条 進一(駿台ク) | 10:29.7 |

100m 平泳

予選

| | | |
|----|--------------|--------|
| A1 | 篠田 博史(白水会) | 1:15.3 |
| 2 | 大崎 剛彦(稲泳会) | 1:15.4 |
| 3 | 高木 憲一(旭化成) | 1:17.5 |
| 4 | 中田馨二郎(東筑高OB) | 1:17.6 |
| B1 | 山中 堂志(白水会) | 1:15.0 |

- 2 和気 統(瀬戸田高OB)1:15.7
 3 重松 盛人(今治北高)1:15.8
 4 樋口 裕(高知商OB)1:16.5
 C1 中川 清(稲泳会) 1:15.2
 2 敷石 義秋(山鹿高OB)1:15.2
 3 増田 勲(日本通運)1:15.4
 4 中村 昌彦(日大) 1:17.0
 5 名倉健藏(B・Sタイヤ)1:17.9
 6 溝口 啓輔(駿台ク) 1:17.6
 D1 宮下 宗重(日大) 1:15.6
 2 衛藤 孝(臼杵高OB)1:16.7
 3 木村 智彦(掛川西OB)1:17.8
決勝
 1 篠田 博史(白水会) 1:14.6
 2 中川 清(稲泳会) 1:14.6
 3 敷石 義秋(山鹿高OB)1:14.9
 4 増田 勲(日本通運)1:15.1
 5 山中 堂志(白水会) 1:15.3
 6 大崎 剛彦(稲泳会) 1:15.4
 7 宮下 宗重(日大) 1:15.6

200m 平 泳

予 選

- A1 敷石 義秋(山鹿高OB)2:43.2
 2 山中 堂志(白水会) 2:46.4
 3 末竹 国夫(B・Sタイヤ)2:46.6
 4 重松 盛人(今治北高)2:47.2
 5 樋口 裕(高知商OB)2:47.5
 B1 篠田 博史(白水会) 2:42.9
 2 増田 勲(日本通運)2:44.0
 3 和気 統(瀬戸田高OB)2:44.5
 4 大崎 剛彦(稲泳会) 2:47.0
 5 東 英明(駿台ク) 2:49.2
 C1 中川 清(稲泳会) 2:42.7
 2 名倉 健藏(B・Sタイヤ)2:47.3
 3 高木 憲一(旭化成) 2:47.7
 4 中村 昌彦(日大) 2:48.3
 D1 宮下 宗重(日大) 2:45.2
 2 木村 智彦(掛川西) 2:48.2
 3 中田馨二郎(東筑高OB)2:49.1

決勝

- 1 増田 勲(日本通運)2:41.9
 2 大崎 剛彦(稲泳会) 2:41.9
 3 篠田 博史(白水会) 2:42.9
 4 中川 清(稲泳会) 2:43.0
 5 敷石 義秋(山鹿高OB)2:43.5
 6 和気 統(瀬戸田高OB)2:46.1

- 7 山中 堂志(白水会) 2:46.6
 8 宮下 宗重(日大) 2:46.6
 9 末竹 国夫(B・Sタイヤ)2:46.8

100m バタフライ

予 選

- A1 増永 文昭(楓泳会) 1:02.3
 2 吉無田春男(稲泳会) 1:03.4
 3 小戎 紀一(白水会) 1:06.0
 4 鈴木竜三(中大杉並OB)1:08.0
 B1 那須 純哉(聖ポール)1:05.3
 2 井筒 賢造(輪島高OB)1:06.2
 3 宮脇 隆史(法泳会) 1:06.2
 4 近藤 正博(観音一OB)1:07.0
 C1 開田 幸一(白水会) 1:04.0
 2 武市 啓志(日大) 1:05.0
 D1 三好 恭弘(白水会) 1:05.8
 2 富安 守弘(三瀬高OB)1:05.9
 3 井上 敦雄(日大豊山)1:06.7
 4 富田紀久男(日大) 1:07.6

決勝

- 1 増永 文昭(楓泳会) 1:01.8
 2 開田 幸一(白水会) 1:02.6
 3 吉無田春男(稲泳会) 1:02.9
 4 那須 純哉(聖ポール)1:04.6
 5 三好 恭弘(白水会) 1:05.9
 6 武市 啓志(日大) 1:06.1
 7 富安 守弘(三瀬高OB)1:06.6

200m バタフライ

予 選

- A1 増永 文昭(楓泳会) 2:22.2
 2 吉無田春男(稲泳会) 2:25.2
 3 須藤 洋一(秋田商OB)2:30.4
 4 小戎 紀一(白水会) 2:34.5
 5 宮脇 隆史(法泳会) 2:34.6
 B1 那須 純哉(聖ポール)2:24.3
 2 富田紀久男(日大) 2:24.9
 3 三好 恭弘(白水会) 2:25.7
 4 井筒 賢造(輪島高OB)2:28.1
 5 富田 幸人(楓泳会) 2:36.0
 C1 開田 幸一(白水会) 2:24.3
 2 吉田 弘(稲泳会) 2:34.4
 3 武市 啓志(日大) 2:34.5
 4 小島 英光(法泳会) 2:37.3

決勝

- 1 開田 幸一(白水会) 2:20.3
 2 増永 文昭(楓泳会) 2:21.9

- 3 吉無田春男(稲泳会) 2:22.3
 4 富田紀久男(日大) 2:25.3
 5 三好 恭弘(白水会) 2:25.8
 6 那須 純哉(聖ポール)2:26.4
 7 井筒 賢造(輪島高OB)2:28.7
 8 須藤 洋一(秋田商OB)2:31.3
 9 吉田 弘(稲泳会) 2:36.6

100m 背 泳

予 選

- A1 石橋 幸男(八幡製鉄)1:07.5
 2 広瀬 俊之(成城大) 1:07.8
 3 坂口 達也(山鹿高OB)1:10.5
 B1 中原 紀(福山高) 1:08.2
 2 藤原 浩(法泳会) 1:08.4
 3 伊藤 圭祐(中京商) 1:09.9
 4 大滝 政勝(駿台ク) 1:09.9
 5 国清 勲(柳井商OB)1:10.8
 C1 渡辺 和夫(日大) 1:06.9
 2 勝又 宗一(駿台ク) 1:09.1
 3 酒井 良明(B・Sタイヤ)1:09.2
 4 徳武 茂(白水会) 1:09.8

決勝

- 1 渡辺 和夫(日大) 1:06.9
 2 広瀬 俊之(成城大) 1:07.9
 3 藤原 浩(法泳会) 1:08.0
 4 石橋 幸男(八幡製鉄)1:08.3
 5 中原 紀(福山高) 1:08.6
 6 酒井 良明(B・Sタイヤ)1:08.6
 7 勝又 完一(駿台ク) 1:08.9

200m 背 泳

予 選

- A1 中原 紀(福山高) 2:29.4
 2 勝又 完一(駿台ク) 2:31.4
 3 藤原 浩(法泳会) 2:33.2
 4 福島 滋雄(日大豊山)2:34.1
 B1 渡辺 和夫(日大) 2:30.4
 2 石橋 幸男(八幡製鉄)2:32.9
 3 中島 勝昭(駿台ク) 2:34.3
 4 国清 勲(柳井商工)2:35.1
 5 高木 忠之(稲泳会) 2:35.5
 C1 広瀬 俊之(成城大) 2:28.9
 2 酒井 良明(B・Sタイヤ)2:29.6
 3 坂口 達也(白水会) 2:32.4
 4 大滝 正勝(駿台ク) 2:33.0
 5 古賀 宣樹(楓泳会) 2:35.3

決勝

- 1 渡辺 和夫 (日 大) 2:28.3
- 2 広瀬 俊之 (成城大) 2:28.8
- 3 酒井 良明 (B・S タイヤ) 2:29.8
- 4 勝又 完一 (駿台ク) 2:29.9
- 5 石橋 幸男 (八幡製鉄) 2:31.3
- 6 中原 紀 (福山高) 2:31.8
- 7 大滝 正勝 (駿台ク) 2:32.8
- 8 坂口 達也 (白水会) 2:33.1
- 9 藤原 浩 (法泳会) 2:34.1

400 m 個人メドレー

決勝

- 1 森江 重雄 (法泳会) 6:04.1
- 2 久保田宗利 (自由丘高) 6:13.3

女子の部

100 m 自由形

予選

- | | | |
|----|--------------|--------|
| A1 | 佐藤 喜子 (天理ク) | 1:06.0 |
| 2 | 神野 眸 (淑徳教) | 1:08.3 |
| 3 | 和田 映子 (天理大) | 1:09.6 |
| 4 | 森沢 桂子 (二階堂高) | 1:15.9 |
| B1 | 江坂 君子 (椋山高) | 1:10.9 |
| 2 | 虎野 昭子 (帝塚山高) | 1:13.4 |
| 3 | 島川 浩子 (二階堂高) | 1:13.7 |
| 4 | 殿上 玲子 (成女ク) | 1:15.0 |
| 5 | 中岡 角子 (白木屋) | 1:16.1 |

決勝

- 1 佐藤 喜子 (天理ク) 1:05.9
- 2 神野 眸 (淑徳教) 1:07.9
- 3 江坂 君子 (椋山高) 1:08.3
- 4 和田 映子 (天理大) 1:08.4
- 5 島川 浩子 (二階堂高) 1:13.3
- 6 殿上 玲子 (成女ク) 1:14.2
- 7 虎野 昭子 (帝塚山高) 1:14.3

200 m 自由形

予選

- | | | |
|----|--------------|--------|
| A1 | 佐藤 喜子 (天理ク) | 2:39.7 |
| 2 | 和田 映子 (天理大) | 2:41.0 |
| 3 | 殿上 玲子 (成女ク) | 2:45.7 |
| 4 | 川村ヨネ子 (白木屋) | 2:50.7 |
| 5 | 浅沼はる美 (横浜学) | 2:51.2 |
| 6 | 森沢 桂子 (二階堂高) | 2:51.3 |
| B1 | 芝原 笑子 (天理高) | 2:33.1 |
| 2 | 江坂 君子 (椋山女高) | 2:37.9 |
| 3 | 島川 浩子 (二階堂高) | 2:42.2 |

決勝

- 1 佐藤 喜子 (天理ク) 2:25.3
- 2 芝原 笑子 (天理高) 2:31.5
- 3 江坂 君子 (椋山女高) 2:32.8
- 4 和田 映子 (天理大) 2:36.2
- 5 島川 浩子 (二階堂高) 2:40.4
- 6 殿上 玲子 (成女ク) 2:44.2
- 7 川村ヨネ子 (白木屋) 2:51.5
- 8 森沢 桂子 (二階堂高) 2:51.9
- 9 浅沼はる美 (横浜学) 2:52.8

400 m 自由形

決勝

- | | | |
|---|--------------|----------------------|
| 1 | 芝原 笑子 (天理高) | 5:23.4 |
| | | 1:15.6 2:37.3 4:00.6 |
| 2 | 虎野 昭子 (帝塚山高) | 5:43.3 |
| 3 | 浅沼はる美 (横浜学) | 6:07.1 |
| 4 | 藤井 宏子 (二階堂高) | 6:21.2 |
| 5 | 島山 重子 (湯口中ク) | 6:37.9 |

100 m 平泳

予選

- | | | |
|----|--------------|--------|
| A1 | 高松 好子 (天理大) | 1:23.7 |
| 2 | 古賀 春恵 (日本女大) | 1:29.7 |
| 3 | 水本 栄子 (成徳ク) | 1:30.8 |
| 4 | 岩田 靖子 (成女高) | 1:34.8 |
| B1 | 山崎 幸子 (成女高) | 1:29.3 |
| 2 | 那知 宏子 (二階堂高) | 1:30.1 |
| 3 | 田中 清恵 (天理高) | 1:30.7 |
| 4 | 村島仔志乃 (白木屋) | 1:34.8 |
| 5 | 浜中 翠 (椋山高) | 1:35.0 |

決勝

- 1 高松 好子 (天理大) 1:23.5
- 2 山崎 幸子 (成女高) 1:29.1
- 3 田中 清恵 (天理高) 1:29.4
- 4 古賀 春恵 (日本女大) 1:29.4
- 5 那知 宏子 (二階堂高) 1:30.6
- 6 水本 栄子 (成徳ク) 1:30.8
- 7 岩田 靖子 (成女高) 1:34.1

200 m 平泳

予選

- | | | |
|----|--------------|--------|
| A1 | 田中 清恵 (天理高) | 3:10.6 |
| 2 | 那知 宏子 (二階堂高) | 3:12.8 |
| 3 | 水本 栄子 (成徳ク) | 3:19.1 |
| 4 | 浜中 翠 (椋山女高) | 3:19.8 |
| 5 | 秋山 幸子 (成女高) | 3:22.0 |
| B1 | 高松 好子 (天理大) | 2:55.2 |
| 2 | 山崎 幸子 (成女高) | 3:13.1 |
| 3 | 古賀 春恵 (日本女大) | 3:15.6 |

- 4 村島仔志乃 (白木屋) 3:23.7

決勝

- 1 高松 好子 (天理大) 2:57.0
- 2 山崎 幸子 (成女高) 3:12.1
- 3 那知 宏子 (二階堂高) 3:13.0
- 4 田中 清恵 (天理高) 3:13.0
- 5 古賀 春恵 (日本女大) 3:15.2
- 6 水本 栄子 (成徳ク) 3:19.1
- 7 秋山 幸子 (成女高) 3:19.7
- 8 浜中 翠 (椋山女学) 3:20.2
- 9 村島仔志乃 (白木屋) 3:25.0

100 m バタフライ

決勝

- 1 宮部シズエ (天理ク) 1:15.3
- 2 松中佐江子 (帝塚短大) 1:18.7
- 3 黒田 栞子 (二階堂高) 1:20.4
- 4 森下多恵子 (天理高) 1:20.7
- 5 宮原真紀子 (白木屋) 1:24.2
- 6 山口美恵子 (成女高) 1:26.2
- 7 小藪紀代子 (白木屋) 1:30.0
- 8 高橋 清子 (谷村学園) 1:38.8

200 m バタフライ

決勝

- 1 宮部シズエ (天理ク) 2:52.9
- 2 黒田 栞子 (二階堂高) 2:55.5
- 3 松中佐江子 (帝塚短大) 2:56.2
- 4 宮原真紀子 (白木屋) 3:04.8
- 5 森下多恵子 (天理高) 3:05.4

100 m 背泳

予選

- | | | |
|----|--------------|--------|
| A1 | 田中 聡子 (筑紫女) | 1:13.8 |
| 2 | 松永 凉子 (天理高) | 1:22.7 |
| 3 | 小池 久子 (白木屋) | 1:25.8 |
| 4 | 佐藤 礼子 (") | 1:27.1 |
| 5 | 山中サカエ (成徳ク) | 1:28.0 |
| B1 | 四本 博美 (旭化成) | 1:22.8 |
| 2 | 大岩 香苗 (椋山女高) | 1:24.0 |
| 3 | 三木富俱子 (白木屋) | 1:28.0 |
| 4 | 岡本 節子 (") | 1:28.6 |
| 5 | 松井 明子 (成女高) | 1:28.6 |

決勝

- 1 田中 聡子 (筑紫女高) 1:13.2 (日本新)
- 2 四本 博美 (旭化成) 1:20.9
- 3 松永 凉子 (天理高) 1:23.3
- 4 大岩 香苗 (椋山高) 1:24.6

- 5 佐藤 礼子 (白木屋) 1:26.5
- 6 小池 久子 (白木屋) 1:26.8
- 7 山中サカエ (成徳ク) 1:27.3

200m 背 泳

決 勝

- 1 田中 聰子 (筑紫女高) 2:34.8
- 35.7 1:14.0 1:55.0 (世界新)
- 2 松永 涼子 (天理高) 2:55.4
- 3 四本 博美 (旭化成) 2:55.8
- 4 小池 久子 (白木屋) 3:05.7
- 5 佐藤 礼子 (") 3:06.8
- 6 浜岡 育美 (二階堂高) 3:09.0
- 7 大岩 香苗 (椋山女高) 3:09.3
- 8 田辺 絢子 (二階堂高) 3:15.0
- 9 瀬川 静子 (谷村学) 3:20.6

飛 込

男 子 の 部

1 m 飛 板

- 1 諸田 健朗 (桜丘高ク) 46.36
- 2 小林 義範 (国学院大) 44.13
- 3 堀岡 茂夫 (桜丘高ク) 39.98
- 4 外山 雅之 (浜松商ク) 36.50
- 5 堂 久八 (桜丘高ク) 30.40

3 m 飛 板

- 1 金戸 俊介 (日 大) 85.72
- 2 中島 貞夫 (日 大) 73.81
- 3 山内 正夫 (中 大) 70.12
- 4 徳田 行弘 (中 大) 63.70
- 5 荻原 正光 (慶 大) 59.94
- 6 三石 忠雄 (中 大) 57.06

高 飛 込

- 1 金戸 俊介 (日 大) 78.66
- 2 三石 忠雄 (中 大) 74.28
- 3 岡田 良平 (日 大) 68.73
- 4 伊藤 勝 (日 大) 60.73
- 5 徳田 行弘 (中 大) 59.43

- 6 山内 正夫 (中 大) 49.82

女 子 の 部

1 m 飛 板

- 1 菊地 治子 (日本女大) 43.97
- 2 三沢 寛子 (") 35.91
- 3 菊地 松美 (") 29.38

3 m 飛 板

- 1 津谷鹿乃子 (倉敷レ) 71.68
- 2 渡辺久美子 (リッカーミシン) 68.99
- 3 角田 良子 (日体大) 55.83
- 4 常盤美千子 (青学大) 51.28
- 5 小野ゆかり (藤村高ク) 50.64
- 6 高橋 晴美 (日体大) 48.83

高 飛 込

- 1 津谷鹿乃子 (倉敷レ) 51.77
- 2 渡辺久美子 (リッカーミシン) 50.38
- 3 角田 良子 (日体大) 44.39
- 4 菊地 治子 (日本女大) 39.33
- 5 小野ゆかり (藤村高ク) 38.59
- 6 葛目千鶴子 (日体大) 33.61

水 球

4月2日 (第1試合)

成城クラブ—中央大学

| | | | | |
|---|---|----|---|---|
| 檀 | 野 | GK | 飯 | 田 |
| 堀 | | LB | 西 | 条 |
| 本 | 郷 | RB | 横 | 山 |
| 桑 | 原 | HB | 古 | 川 |
| 前 | 田 | LF | 篠 | 田 |
| 阿 | 部 | CF | 浜 | 野 |
| 本 | | RF | 田 | 中 |

$$0 \left\{ \begin{array}{l} 0-2 \\ 0-2 \end{array} \right\} 2$$

審 判 名 取

4月2日 (第2試合)

全 慶 応—日本大学

| | | | | |
|---|---|----|----|-----|
| 山 | 本 | GK | 猪 | 口 |
| 大 | 河 | 内 | LB | 原 崎 |
| 井 | | 上 | RB | 柴 田 |
| 竹 | 野 | 内 | HB | 本 田 |
| 清 | | 水 | LF | 青 山 |
| 佐 | 藤 | | CF | 藤 本 |
| 小 | 山 | | RF | 酒 井 |

$$1 \left\{ \begin{array}{l} 0-2 \\ 1-0 \end{array} \right\} 2$$

審 判 丸 笹

4月3日 (3位決定)

全 慶 応—成城クラブ

| | | | | |
|---|---|----|----|---------|
| 山 | 本 | GK | 檀 | 野 |
| 大 | 河 | 内 | LB | 本 郷 |
| 井 | | 上 | RB | 篠 原 |
| 竹 | 野 | 内 | HB | 前 田 |
| 清 | | 水 | LF | 桑 原 (和) |
| 佐 | 藤 | | CF | 桑 原 (重) |
| 小 | 山 | | RF | 本 |

$$6 \left\{ \begin{array}{l} 3-0 \\ 3-1 \end{array} \right\} 1$$

審 判 鴉 田

4月3日 (決勝戦)

中央大学—日本大学

| | | | | |
|---|---|----|---|---|
| 飯 | 田 | GK | 猪 | 口 |
| 西 | 条 | LB | 原 | 崎 |
| 横 | 山 | RB | 柴 | 田 |
| 古 | 川 | HB | 本 | 田 |
| 篠 | 田 | LF | 青 | 山 |
| 浜 | 野 | CF | 藤 | 本 |
| 田 | 中 | RF | 酒 | 井 |

$$3 \left\{ \begin{array}{l} 1-1 \\ 2-2 \end{array} \right\} 3$$

審 判 和 田

注: 決勝戦は同点なるも中大は反則数多きため日大が優勝す。

体協強化対策本部主催

第1回中央指導者講習会に出席して

▶ 座 談 会 ◀

日 時 昭和35年5月16日(月)午後6時

場 所 於 丸 の 内 精 養 軒

出席者 名 取 礼 二 (慈恵会医科大学教授)

南 佳 恵 (競泳委員, 中大コーチ) 栗 村 中 丸 (常務理事・編集委員長)

鈴 木 朝 治 (競泳委員, 法大監督) 坂 本 亮 四 郎 (編集委員)

神 田 明 善 (水球委員, 慶大出)

矢 野 正 次 (飛込委員, 早大出)

栗村 本日は名取先生を初め皆さん御多忙中のところお繰り合わせ願ひましてありがとうございます。勝手にですが司会をさして戴きます。

さて、最近スポーツ界全般に「科学するスポーツ」と申しますか、スポーツを医学的、科学的な分野から検討、究明し、高い次元のスポーツ技術を生み出しているという傾向がみられてまいりました。これはまことにけつこうな事というよりもむしろ当然なことというべきで、水泳連盟においても、つとに水泳の科学的研究ということには特に力点をおき第一線の指導者や選手諸君には、各種の講習会やその他の機会をとらえできるだけ水泳の科学面の指導を実施し、同時に合理的なトレーニングの方法と技術の修得に努力している次第です。

ことに本年のローマ大会、4年後の東京オリンピックと続く時期に際会して、ただ単に勝ち抜くためのスポーツ、水泳というだけでは、きわめて高い水準にある世界水泳界を相手に闘うことは困難であろうかと思ひます。まして最近の趨勢として、各国の科学的研究の競争と進歩が選手のトレーニング法と技術を改善している現在、世界のトップ・レベルにある日本水泳界としても例外ということはありません。そういうわけで、最近水泳連盟において、日本人の体力に適合したインターバル練習方法を重点的に取り入れたことは、水泳の科学的管理の一つの現われではないかと思ひます。今回体協に設けられました東京オリンピック選手強化対策本部の強化方針の一環として、中央指導者講習会が開催されましたが、これは各大学の一流の権威者である先生方が、それぞれの専門分野を担当し、各競技団体の第一線の指導者が受講者となって開かれたもので、まことに時宜

にかなったものと思ひます。この講習会には、水泳連盟からも小柳さんはじめ飛込、水球を含め5人の方々が受講されました。この5人の方々は、水連の役員としてはもちろん、皆さんそれぞれ母校大学の監督なりコーチとして、直接選手諸君の指導、育成に当たっておられるわけでありまして、この意味におきまして、本夕名取先生を中心に講習会の所感なり、批判なりを忌憚なくおきかせ願ひすることは大変有意義なことと思ひます。しかし、卒直に申しまして、体力医学といひますか、スポーツの科学性と申しましても、もちろんそれぞれのテーマなり研究課題というものはたくさんありますし、考え方の相違ということも、もちろんあろうかと思ひますので、水泳競技にそれをいかに有効に集約化せしめるか、あるいはいかに消化させるかとなりますと、なかなか困難な問題もはらんでいようかと思ひます。このことについては、強化対策本部にスポーツ科学研究会が設けられており、水泳連盟にも医事委員会があつて、この面での研究に力をそそいでいますが、水泳の科学性を、日本の若い世代の現役選手にいかに適合せしめるか。これはアカデミックな問題であると同時に、いささかポリシーな面にわたりますが今後の課題ではないかと思ひます。

本日はこれらの問題を中心にいたしまして、名取先生を囲み、隔意のない意見の交換をお願いいたしたいと存じますのでございます。

最初に競泳の鈴木さんから、講習会に出られた感想をひとつ……。

鈴木 第1回の中央指導者講習会というものが設けられてそれに参加することができ、さらにそこでいろいろな知識を学びとることができまして、まことに有意義な

会だったと思います。

私自身水泳を指導するものとしては、そういう科学的な分野について、さらに深い知識を得て、自信をもって選手の指導に当たる一つの方法といいますか、そういうものを見出したような感じがいたします。またこういう会を2回、3回……と開いていただいて、さらに自信を深めていくようにしてもらいたいと思います。

栗村 南君いかがですか。

南 やはり鈴木さんと同じように、非常に有益であったと思います。それはわれわれが実際に選手を指導している場合に、常識あるいは経験でいろいろ処理していることが理論づけられ、また具体的な例をいろいろ示されておるので非常に役立ったということです。それと、こういった講習会で学んだことを、われわれコーチが直接選手に応用し、役立てなければいけない、それにはもっともっと勉強しなければならぬということを痛感しました。

栗村 水球と飛込は、別な角度から受講されたかと存じますが、神田さんいかがですか。

神田 1週間ぐらいの講習で、科目がたくさんあるので、どこから深く入っていいか、一つひとつについてももう少し自分で頭に入れたながら、また選手の練習を見ながら掘り下げていきたいし、全体を見てもう少し現場と学術の方を結びつけなきゃいけないと思います。

まあ、今度の講習会で感じたことは、やっぱり何といっても栄養のあるものをたくさん食べて、合理的な猛練習をして、よく寝ること、大体この3つですね。

栗村 この間の講習会はもちろん第1回で、おそらく強化対策本部の方でも2回、3回……と違った角度から開催されると思います。矢野さんはどうですか。

矢野 いま神田さんがおっしゃられた通り自分の不勉強さを身にしみ、受講科目も多いような気もいたしました。もう少し現場の人と先生方が具体的な例題をあげて講習会が開かれたら、もっとよく理解できたんじゃないかと思います。

栗村 科目は全部でどのくらいあったんですか。

鈴木 11科目ですね。

栗村 テーマはもちろんそれぞれ違っているわけですね。

そこでひとつ名取先生、御専門の立場から今度の講習会の意義なり御感想なりをお話し願いたいんですが…。

名取 さきほど来お話が出ておりますように、本来の目的は、実際の指導者と、体の方つまり医学的な面や心理的な面さらに実際上の運動の力学の面などを研究されておられる方の間に、もっと密接な連絡をつけようということでありまして。その目標は、一応東京オリンピック

ですが、同時に国際的なレベルも高めたいということもあります。現在世界中が、研究者と実際の指導者とがよく連絡して相互援助的に仕事を進め、その中からよりよき方法を見出そうという努力を払っております。ですから、日本としてはその面でも先んじないとレベルを上げるのがむずかしい。日本人全体の天与の体格と欧米人種のそれとを比較した時に、日本の方が有利な点は少い。9千万人の中から集めれば、ヨーロッパ人と比べても負けない人はいるでしょうが、しかし国際的のレベルは国の平均の体力が基礎になってきます。そこで世界的に優秀な選手をつくるにはコーチそのものも世界で最も優れた合理的な方法を見出しておぎなう必要がある。その場合一番問題になるのは組織です。よく出来た組織を通して知識の交流をやるのが効果がある。今度の会はその口あけみたいなものですから、実際上はあれだけで何か役に立とうと考えても、無理と思っております。しかし、ああいったことが、水泳ばかりでなくあらゆるスポーツの指導者と研究者の連携する契機になれば幸いと考えます。私は、悪い言葉ですが、もっと泥くさい研究が必要だと思います。高尚ぶらない実際に即した研究です。どうしても研究者は泥くさい研究から離れて、姿のいい一般的な議論に走りますが、これを個々に当てはめると必ずしもそれは適用できない。さきほど矢野さんからお話が出ましたが、飛込なら飛込という事柄そのものを見つめた研究を、やっていくということがある点では必要です。

栗村 水泳連盟におきまして、3、4年来から「科学する水泳」ということに非常にウェイトをかけ、私も最近水連の機関紙を担当いたしまして、なるべくそういうことで取材活動に当たっております。しかし一口に「科学する水泳」と申しても、体育医学の問題もあり、また力学的な問題もあって、一体どの辺にワクをしぼるか、あるいはその中のエッセンスだけを取り入れるべきか、その取捨選択に苦しんでいるわけです。これは、この機関誌を読まれる読者の方々、あるいは地方水泳連盟の各加盟団体の方も同じじゃないかと思います。その意味でこういう試みは非常にいいことだと思いますので、なるべくわかりやすいPRの仕方というものを考えてみたいと思っているわけです。

そこで、さきほど神田さんからちよっとお話がありましたように、今回の講習会は1時間半くらいずつ1週間ということで、時間的に非常に制約されているわけですが、これも2回、3回と進むにつれて、テーマもだんだんしぼられてくるんじゃないかと思います。特に水泳ということになると陸上競技なんかと違うと思います。もちろん各演題自体はそれぞれ重要な問題ばかりですが、

問題は各テーマ相互の有機的な関連にあると思うんですが、この点どんなものでしょうか。

南 今度の中央指導者講習会というものは、ただ単に水泳という種目を対象にしての講習会じゃなくて、各スポーツ団体から一線の指導者が出てきて講義を受けたわけです。だから、講義の中には水泳にあてはまることもありましたけれども、陸上の種目に関係したことが非常に多かった。そのために、水泳というものが陸上とは非常に環境の異なった水中での運動であるということから、この講習会の内容を水泳に引用していく場合、いろいろ問題があるんじゃないかということ強く感じたわけです。

栗村 第1回は、いわば総論的なものであって、各論的なものは今後譲られるというふうに考えていいんでしょうね。

名取 いまのお話ですが、今度の講習会是一个のサンプルですから、水泳に全部焼き直すことができます。たとえばはじめの身体運動、これは泳ぐという運動分析に全部書き替えて話をするができるわけです。例えば同じスピードを出すためには、どういう泳ぎが一番エネルギーが少しですむか、というような問題です。

それからまたトレーニングの話も水泳の場合ですとオール・ラウンド・トレーニングと申しますか、一般的にやらせるのはどういうトレーニングがいいか、あるいはインターバル・トレーニングはどういうふうにしたらいいかということが同じ課題で書き替えられます。

今度は年齢のこともありました、これも水泳には大きな問題の一つです。水泳だけは、私が考えても比較的若い時から始めてもらいたい。

また泳ぐこと自身、あらゆる型の泳ぎ方をさせていけば、体全体の発育をさせる上に大変便利な運動の一つです。つまり、ただフリー・スタイルだけでなく、あらゆるスタイルの泳ぎをやっていくということになると、オール・ラウンドのトレーニングになるわけです。

そのほか、陸上でどういうものをやらしたらいいか、スピードを高めるにはどういうふうにしたらいいか、飛込のような技術的なものはどこからさせたらいいか、その年齢はどのくらいからがいいか、というようなことに組み替えると、全部水泳の話になります。

そんなふうにして最後に心理的な問題に入るわけです。たとえば1500mをトボントボン泳いでおりましたら、あれやこれやといろいろものを考えるようになってしまふ。無我夢中で泳いでいられるという年齢層がありますね。これをすぎると、泳いでいる途中でいろんなことを考えるようになる。それは自然な行き方ですが、このために途中でだめになったりするようなことが起こっ

てまいります。また100mなら100mについては、カツとなって泳ぎにくいとか泳ぎいいという問題もそこに出てきますね。

ですから、今度の講習会の内容は一つのモデルにはなるだろうと考えているんです。実際上は、それぞれの種目にあてはめて書き替えていくわけで、それでこういうメンバーをそろえ、要求に対していろいろお話をしまして、大体このくらいやれば、ある意味では基本的なものができる、というふうに考えたんですがね。

栗村 皆さん、ひとつ先生にご質問なり、講習会の今後に対するご希望なりがありましたら……。

鈴木 いま先生がおっしゃったような講習会が、今後実際に行なわれるんですか。

名取 だんだん題目を変えて、毎年やるようです。

坂本 そういう研究を日本が組織立ってやるのは今度のはじめてかもしれないけれども、外国でも、総合的にしても部分的にしても、研究は相当やっているだろうと思うんです。そういう成果に対する交流というふうなものはあるんですか。

名取 いまのところは、具体的な問題についてはほとんどない。ただソビエトでもアメリカでも、全体の体づくりのトレーニングは日本よりはるかに余計やっているように見受けられます。この間キユアトンがやっていた程度のもので、はたで見ていると相当強いウォーム・アップのように思われますが、向こうにしますとあのくらいは何でもなくできる。そのくらいの体づくりがずっとされているわけです。

日本の選手で体つきは外国並のものでも、どこか力が足りない感じを受けることが多い。

栗村 その点に関して、ハード・トレーニングということが非常に口やかましく唱えられるようになり、最近水泳連盟でもそれを取り上げております。

ところで、体力差の問題ですが、これは多分に本質的な問題があるんじゃないかと、考えているわけです。ハード・トレーニングはもちろん必要でしょうが、それも、日本人の体力にあったようなハード・トレーニングであるべきでしょう。

名取 ハード・トレーニングと一口にいっても処方があり、行きすぎではだめです。だんだんと作り上げていく。力を増すためにも、最大の力を出すトレーニングを毎日する必要はないということもある。

坂本 その場合ですね、試合の前の練習に100%の力でやらなくてもいいという場合に80%の力でやるのがいいのか、それとも70%の力で何回もやるのがいいのか、そこところはまだはっきりしていないんですか。

名取 わからないですね。総論はあっても各論がな

い。つまり、人間それぞれみんな違うわけです。ですから、はっきり申して、そこが結局コーチの方の判断になるんです。これはどんな科学的なことをやってもそうです。

技術と体に分けて考えますと、技術的には力の入れ方とか、水のけり方とかいろいろな問題がありましよう。また体の方は、運動できる能力を養成し、高めてやるためにはどうすればいいかという問題がありましよう。その場合、科学的、総論的に「こういうものだ」ということがあったとします。ところが、それをあてはめようとすると、その人にとってはワクが狭すぎるか大きすぎるかするわけです。そのコーチの判断の基礎としてコーチの考えを支持したり、また、コーチの材料を提供したりするのが、科学の役割と考えます。それ以上に出ると、かえって今度は先へ進むのを押ええてしまいます。さきほどのお話のように、栄養をよくとってよく寝て、というのが一番よろしいんですが、ではそれをどういうふうにとらせるかという問題があるわけです。そこでコーチの判断が必要になってくるわけで、さきほど皆さんから、コーチが自分のやっていることに自信を持つというお話が出ましたが、そのことが、私にいわせると「科学性」です。

やっていることが無我夢中であるうちや、自分の体験だけでは手ぜまな感じをもっておられる間は科学的でないわけです。いろいろな点から検討してみても、この人間をこうするのはこんなやり方が一番いいということを信じて、あるプラン、あるスケジュールに従ってやらせれば、練習効果も上がってまいります。そういうスケジュールに乗せながら、なおかつ途中で機に感じ変に応じて臨機の処置をコーチがとりながら、しかも調和のとれた進歩をさせていくということが考えられなければならないわけです。

そういう時に、何か不安に思う問題が出てきたり、このところをもう少し確かめたいと問題が出てくる。そこで、それらの問題に対する専門家の意見を求める。専門家は、一応見させてくれないかといって研究して、あの問題はこういうことですよという答えを出す。そういうふうには、日本もこれから仕向けていかなければいけないだろう。またそこに、トレーニングするコーチ陣に対する私どもの援助のやりがいがあるんじゃないか。お互いに分を守って進まない、かえって混乱してしまうと思うんです。ただ今度のオリンピックを目標にして、コーチ陣に入れ知恵をして急に改めさせるということは、かえって冒険じゃないか。それよりも、現在コーチの方たちがやっておられて、少しずつ直したりする時の参考資料をさし上げて、それによってコーチが判断してやって

いくということがいいんじゃないかと思っております。

坂本 そうすると、コーチとしては個人差をよく考えて、早く選手個々の状態をのみ込んで、それに適した練習をやらせるのが一番いいということになるわけですね。

名取 練習方法は確実であっても、その時に、その人間の欠点とか足りないところ、それを早くわかるということがやっぱり必要じゃないでしょうか。ただ、1人ずつ別々に練習させることはできないから、ある程度は画一になりましようけれども、その間にコーチとしては個々の選手を見守っていくということが一番大切なトレーニングだと思います。よく冗談にいうんですけども、日本の水泳が強いのはコーチの方たちが、技術的な面で世界でベストだからだということがいえないことはないでしょう。

これは日本の水泳の歴史がそうさせたので開拓されてない分野では全部基礎から積み上げていかなければならない。そりやあ大変な尽力がいるわけです。そういう時に科学的な何かの援助がそれを早めるのに役立てば大変なことと思います。

栗村 日本の水泳界も世界的なレベルにするために先輩たちの築かれた偉業は非常に大きいものがあるわけですが、当時は時代が時代でして非常にスパルタ式の訓練—練習というよりも訓練という表現が適当ではないかと思われるほどの訓練に耐え抜いてきた。いまは青少年の考え方も合理化しつつあるようですし、コーチに対して盲従するという事は余りないようです。

ですから、その意味から申しても特に水泳などは科学的分析が必要じゃないか。それだけ若い人たちも勉強しているし、利口になったということがいえるんじゃないかと思えます。そこでコーチの方々も今度はその上を行かなければならないわけですね。

名取 その通りと思います。その上をゆくといえますか、若い人になるほどと思うようなコーチの発言なり、もっていき方が示されるべきだと思います。

栗村 神田さん、水球はしばらくぶりですが今年ローマに参加するわけですが、体の大きな外国の選手を相手に闘い抜くには相当スタミナを必要とすると思うんです。その場合、小さな体格の日本人はどういうふうに対処していくか。それと、4年後のオリンピック、その次のオリンピックということを目指しても、体格はそうそうすぐに大きくなるということはないでしょうし、その辺水球の科学性というものについてはどうお考えですか。

神田 体格はある程度天賦のものでですから急にというわけにはいきませんが、外国にない日本の特徴を出したいと思えます。たとえば、体が大きいより小さい方がある

程度敏捷性が優るといふことがありますから、それを利用して球を追つかけていく、あるいはまた、敵の球になった時にはすぐ相手にくつつく。そういう機敏性を養成していきたい。いまのところそれを強くする以外に、ちよっと対抗する手はないんです。

それから、さきほど名取先生のお話の中にあつた現場と科学のくつつきなんですけれども、僕たちでこの間うちいろいろデーターを考へてみたんですが、たとえば、こういう時はこうで、この時はこうだつたということをお話の方へ出して検討していただき、また先生の方からも、こういう状態ではこうなんだということをお話しやうしていただければ、もっとよい結果が生まれると思ひます。

この間の講習会では、さきほどもお話が出ましたが、非常に一般的なんです。たとえば、筋肉の働きについては、ほかの運動ですと、トレーニングしているうちに筋肉にある程度熱をもつわけです。ところが、水球は水の中でやるんですから、長時間かければかけるほど筋肉が冷えていくという逆な現象が起きます。そういうようなデーターを、もう少し先生の方へ出して見ていただく。あるいは実際にトレーニングの場所へきて見ていただく一番いいわけです。

栗村 水球という競技は特に激烈なスポーツなんで、後半に入ると疲労度が非常に強いと思ひますが、こういった点はどうなんですか。外国人とやる大試合なんかになると、それに緊張度が加わるわけで、従つて普通のトレーニングと違つたものが必要だと思ひますが……。

神田 それについては、水球のルールの方からも考へられています。というのは、一ぺん入ると一応はゴールのところまで帰りますが、ムダなエネルギーを競技以外に使つているということから、中央線からやり直すというルールの改正もしております。

ベルリンの大会の時に、各種の競技選手の疲労度を尿とか血液をとつて計りましたら、水球が2番目が3番目に疲労度が高かつたということをお聞ひしています。

それから、心理的なことですが、水球という競技は攻める方と守る方とはっきり区別してやうしているわけです。それで練習の時におまへたちは攻める側、おまへたちは守る側というふうなグループを作つてやらせます。途中で中止させて攻める方の側だけをプール・サイドに呼び集めるんです。守る方は向こうへやうてね。それで話をするんですが、話といつても別に技術的なことはいわないんです。ただ「もっとしっかりやれ」という。そうするとパンパン点が入るわけです。しばらくたつて、今度は守つてゐる方をお呼んできて「おまへたち、もう少ししっかり守らなければいけないじゃないか」と注

意する。そうすると、今度は全然点が入らなくなつちやう。

栗村 飛込の方はいかがですか。スピードや水球と違つた面が相当あると思ひますが。

矢野 体型的なものですね、これは日本人に向いてゐると思ひます。アメリカがいま一番強いわけですが、そのアメリカの優勝した選手なんかあんまり大柄な人はおりませんで、むしろ日本人みたいな体をしてゐる。だから、そういう点で日本人は体型的に恵まれてゐると思ひつていいのに、どうして成績が上がらないのかと思ひます。

トレーニングにしても、日本では選手が練習する場合、ずっと見ていて一つひとつ細かい注意なんかを与へてゐるんですけれども、あんまり細かく注意するんで、かえつていけないのかと思ひます。しかし、そうかといつてほつたらかしておくと、いつまでたつても同じことをやうてゐる。結局は何か注意しなければいけないということなんです。

ところでちよっとおうかがしたいんですが、筋肉の筋繊維の数は一定で、訓練することによつてそれが太くなるということですが、一番筋繊維が太くなるという年令はいくつぐらいですか。

名取 25歳くらいです。

矢野 15、6の子供では、あんまり変わらないわけですか。

名取 訓練すれば多少ふつてまゐります。飛込などは筋肉の巧緻運動といつてますが、スピード競技と違ひまして、これは若い時からやらないと型ができないわけです。若い時から練習で得たその型が非常に美化されるのは年とつてからもできるんです。美化される前提の要素は若い時にやうてないといふできない。

それで、いま非常にコーチとしてご苦労なさりながら、まだ技術的にご不満があるということをおうかがいしましたが、日本人はどうも飛込に関心をもつ人が少ないんです。それが選手を選ばれる時にご苦労なさる一つの原因じやございませぬでしょうか。

矢野 実際に施設がないといふできないものから、どうしても限られます。また施設があつても指導してくれる人がないといふようなことで、競泳と比べますと非常に人口が少ないわけです。

名取 そうですね。やうぱり体の型でできるものといふのは、理屈でおぼえるといふよりも体でおぼえるといふんですが、あるいはしよつちゅう見ていて目でおぼえるといふことが相当ございませぬ。

それから、実際に練習をしていて、何かの動作の時にあそこで体をポンと前の方へけつたらよきさうだと思ひ

でも、実際にきれいな姿にするにはそうでないという問題もございましょうし、従って動作分析も必要になってくる。そういうようなことが組み合わさって、ある理想的なものが、ある時期に作り上げられる。そうすると、今度はそのレベルに持ち上げやすくするんじゃないでしょうか。ということは、飛込のコーチする方はそこまで積み上げていらっしゃるまで、まだしばらく年月とで苦労がいますね。これはコーチが悪いんじゃないで、歴史が悪いんです。歴史が悪いという語弊がございましょうけれども、結局は周りの人の関心が薄いです。

栗村 しかし、最近は大分普及されてきましたね。

矢野 やってみたいかといいますと、非常にこわがるんですね。はじめての人は。こわいからいやだとすぐいうんです。「最初はだれだってこわいんだ。やっているうちになれてくるからやってみろ」といってやらしてもすぐやめてしまったり……長続きしませんね。

名取 体操も似たようなものですね。しかし、あれは上手な人が出てきますと、それえならって皆さん非常に上手になってしまふ。一人天才が出てくれることが、こういう技術の面では確かに必要ではあるんです。科学性といいますが、その前にこのことがございますね。

栗村 ローマで非常にいい成績をおさめれば、大分普及されるかもしれませんね。

名取 そうですね。それが契機となってたくさんきましようね。そうしたら、その中から一人すぐれた人を作れば、右へならえでみんなそれに近づくから、全体のレベルが上がるということになる。

それに、飛込などの個人的なものの方が寿命が長いんですね。競泳ですと、100mと1500mを21歳の人と19歳の方が同じスピードで泳いだら、21歳の方がずっと努力をしておられるわけです。これが飛込のような技術的なもので、非常に時間的には短いでしょう。ですから25でも大丈夫ですし、筋肉とか体の方の働きからだけ申しますと、もっと年とっても大丈夫です。

栗村 南君、インターバル練習法で何かききたいことは……。

南 インターバル練習については、東京大学の猪飼先生からいろいろお話があったんですが、レピティション・トレーニングに比べてインターバル・トレーニングの方は途中で完全な休息を入れないで体の活動が持続されている時にまた次の運動をするということで、心臓の持久性を増す上に非常に効果的であるということでした。心臓の持久性を増大するということから見て、インターバル・トレーニングというものは水泳に非常に適するんじゃないかと思いますし、またわれわれが去年一年間そ

れを本格的にやってみて、インターバル・トレーニングが水泳の場合非常に適しているという結論を得たわけです。

しかし、インターバル・トレーニングでも非常に個人差があるんじゃないか。つまり休養の与え方ですね。たとえば100mを泳がせて30秒の間隔をおい次のをやる。その場合に、その選手がどの程度休憩がとれたかということは、脈搏でもってそれを知ることがいいんじゃないかというお話だったんですが、これをやってみると、あるものは80%ぐらいの方で泳いできて、脈搏は140ぐらい、またあるものは同じように80%ぐらいの力で190打つというように非常に個人差があるんです。それが30秒の休息を与えた場合、前者は120ぐらいに下がるが、後者は170ぐらいにしか下がらない。こういうところに、インターバル・トレーニングの間隔のおき方の個人的な相違があるんじゃないかという気がするんです。ですから、これはあくまで、ただ一律にインターバル・トレーニングを行えばいいということじゃなくて、あるものにとってはインターバル・トレーニングが適さないというものの中には出てくるんじゃないかと思うんですが……。

坂本 その脈搏はどこで計ったんですか。

南 首です。

栗村 それはこの間のオリンピック強化合宿でやったんですか。

南 じゃなくて、室内選手権の前の練習の時にずっと計ってみた結果なんです。

名取 個人差ということについては、いまお話の通りなんですね。

インターバル・トレーニングは、酸素を、泳ぎながら取り込み、これを体の中で配るつまり心臓と肺臓の働きを高めるのに役立ちます。ですから、距離の長短とか選手個々の状態によって、インターバルをどれだけにしたらいいかは問題になります。

ただ、インターバル・トレーニングの目標は、体が非常時体制になった場合、いろんなものはそれに振り替えられてしまう。その結果心臓はドキドキって呼吸が苦しくなる。腸なんか吸収する働きを休んで血のめぐりが悪くなる。それを休むということで平時にもどす。いや完全にもどさずに、強い運動をしたことによってできた酸素の借金とか、方々に間に合わなくなっているものがあるからそれを間に合わせてやるわけです。つまり、プールにつかまって休んでいる時でも、あくまで静止した状態にしないで、背負い込んだ負債をある程度返すということです。

これを、負債が余計できた人、休んでも償いが間に合

われないような人に、30秒なら30秒の間隔でやらせるとへばってしまう。だからそういう人にはそれは向かないということになるわけですね。しかし、そうかといって3分も4分も休ませますと、インターバル・トレーニングの効果がなくなりますから、非常時体制はくずさないでにおいて、非常時体制の隘路が現われたものだけ——一番大きなのは酸素負債です——を少し調整してやる期間だけでいいんです。

鈴木 そうすると1分以上おいたら——

名取 2, 3分おかなければ大丈夫でしょう。

鈴木 この間東京都の体育館のプールで、関東地区の、若い選手を男女合わせて25名ぐらい集めて、1週間合宿をやったんです。その時に、さっき南さんが話されたような脈搏ですね、あれを1週間ずっととってみたんです。その時に、気のついたことは、50mなら50mのインターバル・ダッシュを、15秒ないし20秒の間隔で10分、20分続けてやり、終わってすぐ脈搏を計ってみた場合と、わずか100なら100のレースでも「今度は記録とるぞ」といってやらせて、終わったすぐあと計った場合の脈搏数とは大分違います。それから、100のレースをやらせて、終わってまた100を「流してこい」といって——大体2分ぐらいだろうと思うんですが、流させて、帰ってきたところを計るわけです。そうしますと、レースの時には、安静時の脈搏数が70から80ぐらいの選手は、大体140ぐらいに上がるのがありますし、最高190ぐらい上がった選手も中にはおりました。それから、2分ぐらいかけて流して帰ってきた時の脈搏数は、その前に比べて10か20ぐらいの落差しかないわけです。ところが、50のダッシュの練習を10分か20分続けてやった場合、相当エネルギーを使っているわけですね。しかし脈搏数は、終わった直後180, 190ぐらいに上がった選手も、わずか2分かそこら休んで計ってみると、130か120に落ちている。そうするとこれは「レースだ」という気持と「何べんやっても練習だ」という気持、要するに精神的な負担が、脈搏数にも相当現われているんじゃないかと感じたんですけれど、そうですか、やはり……。

名取 そういうふうなことが一つの要素になると思います。

それから、いまのお話の中でおもしろいと思ったのは、50のダッシュの練習です。このインターバルが15秒というのはもう少し長い方がよかったかもしれないが、それは別として、その練習が終わってから2, 3分で脈搏数が落ちているということは、体がなれてくることを意味するように思います。

栗村 いくつぐらいの選手ですか。

鈴木 大体中学生ですから、12歳から15歳ぐらいです。そうすると、結局レースの時に、いかにして練習時におけるような気持で泳がせるかということが、練習時に必要な事柄になってくるわけですね。

名取 これが二つに分かれるんです。つまり瞬発的な力を出させるにはカッとさした方がいいということもあるんです。逆に持久的なことをさせるにはカッとさしちゃうだめなんです。カッとなくなって長くやっております体の中に偏りが強くなってしまいます。

矢野 飛込なんか瞬間的なものですから、カッとなった方がよろしいんでしょうな（笑）。

名取 瞬発的というのは力だけなんです。飛込はカッとしちゃうだめです（笑）。巧緻運動というのはカッとなかったらだめです。というのはどうしてかと申しますと、あれは次から次へと複雑な設計図通りの順序に運動を合わせてあるわけですね。いくら合わせておいても、人間の動作ですからある範囲は不正確です。それを一々補正しながらする。そうして理想的なフォームを作っていくわけです。こういう時にカッとすれば円滑な動作はくずれます。

矢野 飛込の場合、前に飛ぶのと後向きにひっくりかえって飛ぶのがあるんですが、同じ方向——前なら前へ飛ぶ練習ばかりずっとやった方がいいのか、前を少しやったら、今度は後向きのをやった方がいいのかという問題があるんですが。

名取 私よくわかりませんが、筋肉の方だけから判断しますと、ある動作ばかり繰り返していると、その動作への抑制が起こります。動作は似ていますが、筋肉の使い方を少し変えていきます。ですから、猛練習だというので、朝から晩まで同じことをやっておりますと、いつの間にか型が変わるおそれがあります。しかし、そうかといって、しょっちゅう変えれば理想的な型が完成しない。

矢野 確かに、同じ前なら前ばかり飛ばしているとあきてくるんですね。

鈴木 上手でない人でも、一定の距離をクロールならクロールで泳がせている間に本人の泳ぎが変わってきます。その時に、ムダな力を使っていない一番合理的なフォームに変わることもあるわけですね。

名取 あり得ます。

鈴木 それを見つけ出すために、同一運動を何回も繰り返しかえしやらしておいて、一番いいフォームになったところで停めて「おまえ、いまの泳ぎが一番いい。もう一回やれ」ということもいいんですか。

名取 場合によってはよいと思います。

鈴木 力の配分といいますかね、非常にムダな力を使

って泳いでいる選手がいるんです。これなんか一定の距離を泳がしておく、だんだん疲れが出てくる。そうすると、本人は「楽な泳ぎ、楽な泳ぎ」というように考えながら泳ぐでしょう。それで合理的な泳ぎになっていくことがあります。

名取 泳いでいる人に向かって「手をどこまで曲げる、足をどう伸ばせ」といっても、体の動きというものは、いわれても、本人にはそうはわからないものです。

やはり、その人に一番よさそうなフォームをコーチの人が見つけてあげることが大切なようです。

鈴木 もう一つおききたいんですが、うちの学校——高等学校と大学と両方あるんですが、去年あたりからシーズンはじめの練習に、いわゆるメドレーの4種目を混合させた練習方法をとっているんです。要するに、1人の選手がバタ、プレスト、バック、フリーと400ないし800をいろいろ途中で変えて泳ぐんですが、こういう練習法をとった場合に、そこから自分の得技でない種目を見つけ出す選手も2、3人いままでにおりました。

ところで、そういうことを繰り返してやっていることによって、筋肉運動そのものがどういうふうに変化されていくんでしょう。

名取 それは一種の全体的なトレーニングだから、私はいいいと思います。特に発育段階にある人たちには、ある固定した泳ぎだけでトレーニングする以外、陸上で体操させたりするのと同様に水泳を使って、全体の力を養成するやり方もいいかもしれません。

いずれにしろ、今度のローマのオリンピックまでの4年間、皆さん方水連の名コーチ陣が、それぞれの知識、経験を生かされて、インターバル・トレーニングにしても、その他いろいろ考えられたことにしても、ある程度実施に移し、その結果を持ち寄って研究し、よりよき方向を捜すということが、これからの宿題ではないでしょうか。

栗村 まだ話し合う問題が多々あるかと思いますが、時間が超過いたしましたので、はなはだ残念でございますが、きょうはこの辺で終わりたいと思います。

なお皆さんからいろいろ有意義なお話があったんですが、これらにつきましては、水連の中の競泳委員会、あるいは飛込委員会、水球委員会、医事医員会などで十分横の連携をとり、せっかくの指導者講習会を無為にすくすくことなく、これを契機としてよりベターな方向にもってまいりたいと思っております。(了)

ローマ・オリンピック水泳プログラム予定

| | |
|---|---|
| 第 1 日 (現地時間) | 夜 8.30 女 高飛優勝式, 男 100m背予 |
| 8/25 (木) 夜 8.30 水球 | 女 100mバタ決, 男 200m平決 |
| 第 2 日 | 第 6 日 |
| 8/26 (金) 朝 8.30 男 100m自予, 女 200m平予 | 8/31 (水) 朝 8.30 男 100m背準, 男 高飛 予 |
| 後 3.00 女 100m自予, 女 飛板予 | 夜 8.30 男 200mバタ予, 女 400m自予 |
| 夜 8.30 男 100m自準, 女 200m平準, 男 200m平予 | 男 400m自決, 男 100m背決 |
| 第 3 日 | 第 7 日 |
| 8/27 (土) 朝 9.45 男 飛板予 | 9/1 (木) 朝 8.00 男 高飛 準, 女 100m背予 |
| 後 3.00 男 400メドレー予, 女飛板決 男 飛板準 | 夜 8.30 男 400mメドレー決, 女 100m背準, 女 400m自決 男 800mリレー決 |
| 夜 8.30 女 板優勝式, 女 100m自準 男 100m自決, 女 200m平決 | 第 8 日 |
| 第 4 日 | 9/2 (金) 朝 8.30 女 400mリレー予, 男1500m自予 男 高飛決, |
| 8/29 (月) 朝 8.30 女 高飛予, | 夜 8.30 男 200mバタ決, 女 400mメド レー決, 男 1500m予 |
| 後 3.00 女 100mバタ予, 男 飛板決 | 第 9 日 |
| 夜 8.30 男 板優勝式, 男 200m平準, 女 100m自決, 男800mリレー予 | 9/3 (土) 朝 水球 |
| 第 5 日 | 夜 8.30 女 100m背決 男 1500m自決 女 400mリレー決 |
| 8/30 (火) 朝 ナシ | (備考 現地時間 朝 8.00 日本時間 夕 4.00) |
| 後 3.00 女 高飛 決, 女 400メドレー予 | 後 3.00 " 夜 11.00) |
| 男 400m自予 | 夜 8.30 " 翌朝 4.30) |

小中学校標準プール公認規定について

深 谷 俊 明

まえがき

公認プールという規定は、国際水連（F I N A）はじめ、各国に見られないNSR独特のものである。この規定が厳にすぎるとの声を、しばしば聞くのであるが、公認プールが漏水したり、使用に耐えられなくなった例はなく、メルボルンのオリンピックプールのように、距離に疑念をいだかれるものは、日本の公認プールには見当たらないのである。しかし、この公認プール規定は、競技を対象とし、F I N A規定に準じて

水深は 1 m以上
水路幅は 2 m以上
水面から飛込台までの高さは
35 cm ~ 75 cm

と規定されている。この公認プールの規定を、小学校プールに採用することに無理があるのは当然で、小学生に水泳普及上感心できない。それで、NSR本部に問い合わせがある場合には、水深を70~80cm程度を最浅の水深とするよう指導していたのであるが、地方では、小学校プールにも「公認プール」の稀少性が尊重される傾向があり、また、寸法のみは公認プール規定を採用しながら粗末な施工をしたプールが相当数見受けられるのは、公認プール規定の誤解に基くもので、これがため、小学校水泳普及の障害となっているのは遺憾なことである。それで、中学校も含めて、「小中学校プール」の規定として、浅くて簡易な規定をつくることとなり、これを「小中学校標準プール公認規定」とし、その草案を、1月代議員会に諮り、その後、常務理事会で実情にありよう一部を修正し、近く成文化されることとなったので、ここにその要旨を掲載し、解説を加えることとした。加盟団体におかれても、小中学校プールに、この標準プールの普及に努力されるよう要望したい。

標準プールの公認規定要旨

小中学校用標準プールの公認規定の要旨を表化したのが、つぎの表である。

| | | |
|---|------|-----------------------------|
| ① | 名 称 | 小中学校標準プール公認規定 |
| ② | 水 深 | 80cm 以上 |
| ③ | 距離誤差 | 25mプール 過長 2.5cm 過少 1.0cm |

| | | |
|---|----------------|---|
| | | 50m プール 過長 5.0cm 過少 2.0cm (i) 温度の影響, テープの張力, の更正計算, 等を行う必要はない。 (ii) 壁の凹凸測定は行わず, プール四辺の距離のみを測定する。 |
| ④ | コース幅 | 1.5m 以上 |
| ⑤ | スタート台から水面までの距離 | 20cm 以上 |
| ⑥ | 測 量 者 | 加盟団体の依頼した測量士または加盟団体の推薦ある者が, 加盟団体役員立会いのもとに測量する。 |
| ⑦ | 四隅角の測定 | 必要とせず |
| ⑧ | 測定に使用するテープ | 加盟団体備付鋼巻尺, または市町村・学校備付の鋼巻尺 |
| ⑨ | 公 認 料 | 3,000円 |
| ⑩ | 公認期間 | 5 年 |
| ⑪ | 公認料の納入先 | 加盟団体 |
| ⑫ | 公認申請方式 | 公認プール申請方式に準ずる。 |
| ⑬ | 公認申請紙 | 本部より加盟団体に配布 |
| ⑭ | 公 認 証 | 小中学校を対象にデザインし, 本部で作製。 |
| ⑮ | 公認証の送付 | 加盟団体を通じて, 申請者に送付 |

規定要旨の解説

解説 ① について

従来からある公認プールと区別するため、小中学校標準プールという表現を用いた。

解説 ② について

小学校低学年用には 60~70cm, 中学校高学年用には 100cm 程度の水深が適当と考えられるのであるが、これらの中間を考えて 80cm 以上とするように定めたのである。従って、小学校の低学年普及を対象に考えるときには、80cm でも深すぎるから、プール長辺の両壁に水面下 50cm 程度のところに幅 30cm 程度の段を設け

ることが望ましい。

解説 ③ について

公認プールの距離誤差は、25mプールでは25°Cで過長10mm、50mプールでは25°Cで過長20mmとし、過少は認められていない。これは、計時と数的な関連のある数字であるが、標準プールでは、公認記録を対象とするものではないので、距離誤差の程度をゆるくし、公認プールでは認められていない過少誤差を認めることとしたのである。従って、公認プールのように、基線測量に当り、温度やテープの張力、等の更正計算は行わないこととし、壁の凹凸測定もしないこととしたのである。

解説 ④ について

公認プールのコース幅は、2m以上となっているのであるが、小中学校では最小幅として1.5m程度あれば十分であるので、1.5m以上としたのである。

解説 ⑤ について

FINA規定、NSR公認規定でも、35~75cmと定められているが、これでは小学校低学年、女生徒に高すぎるので、20cm以上とするように定めたのである。

解説 ⑥ について

公認プールの測量は、NSRに登録されている公認測量者によって行われているが、標準プールは精密測量を必要としないため、加盟団体が依頼した測量士、または測量士の資格は無くともプールを建設した技術者等で、加盟団体に特に推薦された者が、加盟団体役員立会いのもとに、測量ができることとしたのである。

解説 ⑦ について

測量を簡単にするため、トランシットを用いないことにしたのである。

解説 ⑧ について

公認プールの測量に用いる鋼巻尺は、NSRが通産省中央度量衡検査所に再検査を依頼した優秀な鋼巻尺を使用することとなっているのであるが、このような鋼巻尺は本部や4・5の加盟団体にしかなく、各加盟団体に備付けることも困難なので、市町村や学校に備付の鋼巻尺を使用してよいこととしたのである。なお、この標準プールの距離測定に、布テープを用いれば、湿度や張力の影響が大きいことから、これを用いてはならない。

解説 ⑨ について

公認プールの公認料は5,000円であるが、標準プールの場合は、その程度を考慮して3,000円とした。

解説 ⑩ について

公認プールと同様に5年とした。

解説 ⑪ について

公認プールの公認料は本部に納入されているが、標準プールでは加盟団体と小中学校との連絡を密にして水泳普及を図ると共に、加盟団体企画の水泳強化費の一部に充当するため、加盟団体に納入することとしたのである。

解説 ⑫, ⑬, ⑭, ⑮ について

従来の公認プールの申請に当り、その方式は水泳年鑑に掲載されているにもかかわらず、本部に問い合わせが多く、また、整理上の便を考慮して申請用紙を本部で印刷して加盟団体に配布することとした。また、公認証は公認プールと同様に、本部より加盟団体を通じて申請者に送付することとしたのである。

その他

測量者の旅費は、公認プールの場合と同様に、水泳年鑑に記載されているアマチュア旅費規定により、これは申請者の負担とする。

(筆者は本連盟常務理事・施設委員長)

目で学ぶ

水泳教室

— 2 巻 —

白黒 16ミリ 長サ 220m 上映時間 20分

価格 25,000円

企画・監修 日本水泳連盟

製作 共同テレビジョンニュース

指導 松沢 一鶴, 太田 光雄,

赤樫 卓爾

今回共同テレビニュース社では水連との協力作により上記のような水泳映画を完成した。学校教材、その他水泳指導のため有益と考えるので御利用戴きたい。なお登場選手は、石原、見上、藤本、山中、長谷、那須、開田、大崎、中川、ファーレル、グリーン、ソマーズ、ローズ、マッキーニ、トロイ等である。

＜ブラジル水泳界の現状＞

真 木 昌

ローマへ、ローマへ、と全世界のスポーツマン達は懸命の精進を続けている折柄、遠い異境に御無沙汰の限りを尽している私に御丁寧な御便りを下さったことを心から感謝しております。諸々のニュースによって祖国日本の水泳界は様々な紆余曲折を経ながらも、依然として世界の最高水準に巖然として存在していることを非常に心強く、肩身の広い思いで遠くから眺めております。それに反しこのブラジルに住むようになってからやがて一昔になろうという長い年月を過しながら、未だに之はという程の選手を作り出すこともできずにいる私の無力さを顧みて些か恥かしくなる次第です。

あまりにも大きい国情の相異の中に在って、それに押し流がされてしまはぬように、そしてその中で何かを把まえてそれを土台にして、日本から来た者ならではできないことをやり 逐げて見たいものと念願しております。このような意味に於ても、日本水泳連盟機関誌「水泳」を発刊の都度御送り下さるとの御親切な御知らせは何にも優る力強さを私に齊すものと深く感謝すると共に遠い異境にも、日本水連につながりのある者がいるということをお忘れなく何かと御鞭達下さるよう御願い致します。私としても今後はできる丈け生来の筆不精に鞭打って御連絡に努めたいと考えておりますからくれぐれもよろしく御願い致します。

さて、こちらの最近の水泳事情をかいつまんで書いて見ましょう。一口にいってブラジルの水泳界は年と共に進歩発展をしているが、世界の水準からは数段遅れた所を辿っている状態で他の一般現象と同様世界の水準に到達するには尙相当の年月を要するでありましょう。それ丈けに希望のもてる状態とも云えましょう。ローマオリンピックに対する方策というものについては誠に歯痒い次第で、日本のように既に第三次強化合宿を実施して猛練習を開始したという話を聞くと、正に此処はブラジルであるわいと感の深くさせられます。今迄が只標準記録というものが相当きびしい一線を示して発表されている丈けで、行きたいものは勝手にこの標準記録に到達しろといっているに過ぎません。ですから各クラブの水泳チームはテンデンバラバラに思い思いのやり方で進んでいるわけです。それに加え当国はこれから冬に向ふので一層やりにくい状態です。

C. B. D. ブラジルススポーツ連盟
C. O. B. ブラジルオリンピック委員会
の発表した標準記録は次のようです。

男子

| | | | |
|----------|---------|---------|--------|
| 100m自由形 | 56.9 | 400m自由形 | 4:32.9 |
| 1500m自由形 | 18:08.0 | 200m平泳 | 2:39.0 |
| 200mバタ | 2:24.0 | 100m背泳 | 1:04.9 |
| 800mリレー | 8:37.0 | | |

女子

| | | | |
|---------|--------|---------|--------|
| 100m自由形 | 1:04.9 | 400m自由形 | 5:07.0 |
| 200m平泳 | 2:56.1 | 100mバタ | 1:14.3 |
| 100m背泳 | 1:14.3 | 400mリレー | 4:26.0 |

残念乍ら現在の処、この程度の実力のある者は只の一人もありません。100m自由形にマヌエル・ドス・サントスが57.0をこれを書いている頃出したのみです。どうしてもオリンピック直前迄にこの標準記録に到達する者が無い場合は少し易くしてリレーメンバーぐらい出場させるという話もあります。現在のブラジルに於ける水泳選手達の実力は大体次のようです。

男子 100m自由形

マヌエル・ドス・サントス 57.0 (短水) 4月13日記録会にて 本人の最高56.6 (長水) (南米記録) 本シーズンは不調で58秒台だった。腸内寄生虫と慢性アメーバーの手当をしている由

ペーテル・ミツネル 57.9 (短水)

先月の記録会にて

モアシ・ラベロ・ドス・サントス 59.7 (短水)

フェルナンド・ナグコ 59.8 (短水)

大畑 実 (二世) 59.9 (短水)

400m自由形

シデネイ・ガヴィオリ 4:44.0 ブラジル記録はシルヴィオ・ケリー・ドス・サントスの4:36.0

1500m自由形

大畑 範雄 (二世) 19:40.0

200m 平泳

オネズモ・ブエノ 2:45.0

100m バタフライ

ダルテリ・ギマランエス 1:03.9

200m バタフライ

モアシ・ラペロ・ドス・サントス 2:31.5

200m 背 泳

ジョン・アブスターニョ・デ・アルメイダ 2:24.0

800m リレー

| | | |
|--------------|---------|-----------|
| フランシスコ・カリオバ | 2:11.0位 | } 8:47.0位 |
| ペテル・メッネル | 2:11.0位 | |
| マヌエル・ドス・サントス | 2:12.0位 | |
| アルド・ベルセキ | 2:13.0位 | |
| シデネイ・ガヴィオリ | 2:14.0位 | |
| 大 畑 実 | 2:16.0位 | |

400m リレー

| | | |
|--------------|---------------|-------------|
| マヌエル・ドス・サントス | } 3:58.4 | } 南米及ブラジル記録 |
| ペテル・メツネル | | |
| フランシスコ・カリオバ | | |
| 大 畑 実 | } 3:54.1 (短水) | |
| マノエル・ドス・サントス | | |
| フランシスコ・カリオバ | | |
| ペテル・メツネル | | |
| ジョン・ゴンサルヴエス | | |

女子 100m自由形

グロリア・フナロ 1:09.5 (ブラジル記録1:07.0)

200m 自由形

グロリア・フナロ 2:33.0

400m 自由形

グロリア・フナロ 5:33.0

200m 平 泳

リチア・バルチ 3:14.0

100m バタフライ

リタ・ハセルバキ 1:23.4

100m 背 泳

マリア・デ・ロルデス・カシエタ 1:18.0

400m リレー

| | | |
|------------|--------|----------|
| グロリア・フナロ | 1:09.0 | } 4:39.0 |
| リリアン・モレイラ | 1:09.0 | |
| シルヴィア・カイアド | 1:10.0 | |
| マリア・デ・ロルデス | 1:11.0 | |

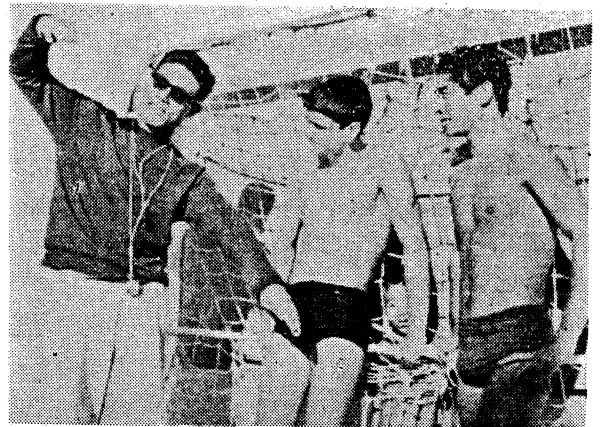
大体こんな工合で各種目共あまりにも標準記録からかけ離れているので関係者達もあまり気乗りがしないのでしょう。尙当ブラジルは、イタリア系の人間が多く、しかも経済的に大きな地盤を持っているので、自費で家族連れでローマオリンピック大会を見に行くといっている者が非常に沢山います。当サンパウロ州水連会長もその一人で(前記100m自由形の処にフェルナンド・ナブコ59.8とあるその父親)このようなことも標準記録を出して国家の費用で、外国旅行をしてやらうという意欲を起させない一因かも知れません。

何はともあれ、このブラジルという処は経済的実力が非常に物事を左右する国です(これは他の国にもいえることではあります)。植民地的発展過程をたどる国に共通する事実です。『武士は食はねど高揚子』などいっても通用しません。それで、ずいぶん前から私は何かスポーツ以外の事で経済的安定を得て、気楽に水泳を楽しむようになりたいものだと考えていましたが、なかなか世の中は旨く行かず、不本意乍らも長年の間水泳コ

コ ー チ す る 真 木 昌 氏



水中は2世の大畑実君、真木氏の右は真木2世



手の突込み方と両手のタイミングを説明しているところ。
真中はジョン・ラデヴァニ君、右端は大畑実君

一才としての収入で生活して来ました。其間50アルゲル(約120町歩)の土地を手に入れましたが、家内といろいろ相談し、この土地を金に代え、何か儲かる仕事をやらかさうということになりました。どうせやるのならぐんと良いものをというわけで、サンパウロ市のブロードウェイといわれるルア・アウグスタに間口6m奥行30mの場所を見付け日本調を適当に取り入れた立派な店を作りました(自分でいうのは少しオカシイのですが、其筋の係官や一般の批評ではサンパウロにこれだけの設備の店は無いとのことです)。何の店か?というところは高級バー、名はジュリアン・ソレル、真木がバーを?と私を知る人は妙な顔をするでしょうが、それは私の家内と協力者のアイデアになるもので店が営業中にはなるべく顔を出さないことにしています。この店を作るに当って長年外人の中に水泳コーチとして暮して来た私の信用が各方面に亘って大いに役立ったことは関係者達の認める所で、これも水泳の御蔭と深く感謝している次第です。日本からブラジルに来られる場合には、連絡や憩の場所にして又、社交や商談のためにせいぜい御利用下さるよう希望しております。尚御言葉に甘えて次の事項について御連絡下されば幸甚です。

1. 日本における最近の各泳法の変化について(技術的になるべく具体的に)
 1. 日本に於けるインターバル練習法についての意見及び実施に当っての具体的例
 1. 幼少年の水泳を如何に扱っているか
当国では年令別に次の如く分けている。

| | | |
|----|--------------|----------|
| 男子 | インファンチル | 10才~13才 |
| | ジュヴェニル・ジュニオル | 13才~14才半 |
| | ジュヴェニル・セニオル | 14才半~16才 |
| | 成年(アダルト) | 16才以上 |
| 女子 | インファンチル | 10才~13才半 |
| | ジュヴェニル | 13才半~15才 |
| | 成年 | 15才以上 |

男女共インファンチルは50mのみ(各種目共・自由・背・平・蝶)それ以上は全部100m、但しバタフライのジュヴェニル・ジュニオルは50mそして200, 800, 1500などは無い。私は幼少年の試合にもっと長距離を入れろと説いて来ましたが未だに容れられません。成年の部には男子は14才半(ジュヴェニル・セニオル)、女子は13才半(ジュヴェニル)になれば参加しても良いという規定になっています。当国では学校というのは大抵校舎だけがあって日本のように大きな運動場があったり、プールがあったりする学校はほんに数える程しかありません。従ってアマチュアスポーツ人口というものが非常に少いこととなります。その中で水泳となるとこれ又少くなるわけです。自然学校としても日本の如くスポーツ活動に積極的に動きません。ここにもブラジルの水泳不振の大きな一因がありましょう。丁度最近の写真が入手しましたので2枚同封致します。では今回はこの辺にして又次の機会に譲りましょう。会長始め各位にくれぐれもよろしく御伝え下さい。

1960年4月15日

(筆者は日大 O. B. ブラジル水泳コーチ)



第5回日米対抗水上競技大会(34年7月)開催を前にして
マックアーサー米国大使を囲む日米両国選手(於: 米国大使館)

陸上トレーニングについて

— 柔軟性を中心として —

東京大学体育研究室 宮 下 充 正

1. はじめに
2. 柔軟性について
 - (1) 足首の柔軟性
 - (2) 種目別にみた柔軟性の必要性
 - (3) 記録の向上と柔軟性の推移
3. 柔軟トレーニングの実施上の注意点
4. むすび
— 測定方法と標準値 —

1. はじめ

米国の有名な水泳コーチ Kiphuth 氏は、水泳における身体の柔軟度の重要性を強く主張している。この主張は広く米国のコーチ諸氏にも共鳴されている。

この水泳と柔軟性に関しては、今春来日を予定されているイリノイ大学の Cureton 博士が、1930年ころから研究を進めてきたことである。最初彼は、ロスアンゼルスにおいて、日米両国オリンピック選手を中心に、他の米国の各大学選手を測定して、1941年「身体における大関節部（足首・肩・体前屈・体後屈）の柔軟度に水泳の速度と耐久力は比例するに違いない」ことを発表した。

その後、1948年、米国オリンピック選手並びに他のスポーツの優秀選手と一般の大学生 600 名を測定した。その結果は1941年の発表を全面的に証明するものではなかったが、ある程度の柔軟性は全ての水泳選手に必要であり、種目によってはかなりの柔軟性が必要であることを明らかにした。

米国選手とは人種的に体型が非常に違う日本選手においては、柔軟性がどのような関係にあるであろうか。このことはわが国の今後の水泳指導に、ある程度の参考になるのではないかとされたので、本学体育研究室では1959年夏以来その研究に着手した。一応その結果をもとにして柔軟性と陸上トレーニングの関係に考察を加えたが、これが水泳指導上の一つの指針ともなれば幸である。

2. 柔軟性について

柔軟性ということばについては種々の定義があるが、

一般的に「関節の可動性」といってよいと思う。この関節の可動性を限定するものは、骨の接合部の構造、付属する靭帯並びにそれを動かす筋肉の強さである。

この関節の可動性が、水泳にどのように影響があるかをみると、まず、水泳は身体の水による抵抗によって進むし、また、その抵抗によって、その速度が弱められる。速く泳ぐためには、これを最も有利に利用できるように、身体の動作をしなければならない。それ故に各動作に適するような可動性を各関節にあたえなければならない。物理的にみると、身体のローリングを少くし、腕を十分に伸ばし最大限に水をかくことが可能なためには肩の柔軟性が必要である。また水を後方にけるために主要な役目を果たす足の裏が、進行方向に直角になり、最大に水をける力を発揮できるためには足首の柔軟性が必要である。

次に体幹の柔軟性は水の抵抗を最小にするために必要である。

これらのことは、抵抗を中心とした物理学的研究と写真分析等によって、各々の体型における各種目の最適フォームを究明した後でなければ、はっきりしたことはいえないのであるが、現在の段階では、実際の優秀選手の柔軟性を測定し、ある程度は必要であることを推論するほかはないのである。

以上の観点に立って、かつての米国における測定結果と現在日本の優秀選手の測定結果等から、特に著しい点をあげると、次のようなことがいえる。

(1) 足首の柔軟性について

| 年次 | 1932 | 1936 | 1948 | 1959 |
|-------|------|------|------|------|
| 日本チーム | 68.7 | 74.8 | — | 72.8 |
| 米国チーム | — | 65.4 | 62.1 | 50.2 |

第1表 日米チームの柔軟性の比較 (単位deg)

上の表は、日米両国の1932、36、48年オリンピックチームと、1959年日米対抗チームの各平均を示したものである。数字の示すように日本チームの方が柔軟性の高いことは明らかである。この足首の柔軟性の優秀性が脚長で10cmも短い日本選手が、下半身の弱体を補って、米国

選手の大きな下肢の動きによるはたらきと対等に、身体の浮力と推進力となっていると考えられる。特に山中・那須・田中聡子の各選手の足首は軟かく、足先きを伸ばしたとき指先が床に着くほどである。

外国選手とわが国の選手との比較をさらこ別の調査によってとりあげてみた。すなわち1959年秋来日した西独陸上チーム並びにその時の対抗競技に出場した日本陸上選抜チームの測定結果である。

| | 日 本 | 西 独 | 米 国 |
|-----|------|------|------|
| 水 泳 | 72.8 | — | 50.2 |
| 陸 上 | 62.8 | 41.7 | — |

第2表 日本・西独・米国の水泳陸上選手の比較 (単位deg.)

これによっても明らかなように、同じ日本人でも陸上選手にくらべて水泳選手の方が柔軟性が高いことが明らかになった。なお、欧米人として比較するには稍難点はあるが、西独チームの陸上選手の方が、米国チームの水泳選手より柔軟性が低いことも興味ある結果がみられる。

(2) 種目別にみた柔軟度の必要性

水泳の各種目に出場した選手の平均を出して比較してみた。これは2~4人の平均なので十分とはいえないが、特に著しい点をあげてみる。まず、それぞれの平均値の高い方から順次に表にしてみた。

| | 足 首 | | 肩 | | 体 後 屈 | | 体 前 屈 | |
|------|------|------|------|------|-------|------|-------|------|
| | 日 | 米 | 日 | 米 | 日 | 米 | 日 | 米 |
| 自由形短 | 72.8 | — | 39.1 | — | 31.1 | — | 13.0 | — |
| 〃 長 | 73.3 | 44.4 | 42.0 | 27.5 | 28.9 | 19.6 | 16.9 | 36.3 |
| 平 泳 | 64.3 | 35.8 | 39.0 | 51.0 | 44.5 | 55.0 | 8.2 | 25.1 |
| 蝶 泳 | 80.5 | 62.0 | 45.1 | 34.5 | 35.1 | 47.8 | 15.0 | 29.8 |
| 背 泳 | 76.8 | 52.3 | 36.0 | 31.3 | 28.5 | 34.8 | 21.8 | 26.9 |

第3表 種目別柔軟度順位表 (1959年日米対抗出場選手平均値)

これを種目別にみると、自由型では、特に目立つ点が表からは得られない。

平泳では足首が最低値であるが、これは平泳の脚のピートの特異性からうなづけるところである。しかし、体後屈、体前屈とともに最高値であり、肩も米国選手は最高値である。これは腕をかく際に伴う上体の動きには、上体の柔軟性が有利であると思われる。

背泳では、足首は日米選手とも第2位の値を示している。しかし他種目では、日米選手間ではかなり差があり

日本選手は特に硬く、肩と体前屈では最下位である。これにくらべ米国選手はかなり柔い。

蝶泳では、日米両選手とも各部の柔軟性が高い値を示している。蝶泳は水泳種目中最も上下運動の激しい種目であり、すばやく次の動作にうつるために全身の柔軟性の必要が最も必要なのではないと思われる。

(3) 記録の向上と柔軟度の推移

現在の1500mの記録は1930年代の記録に比較し、1分30秒も短縮されているし、他の種目にしても同様である。しかし、これを生み出す選手達間の柔軟度の差は著しくない。このことから記録を向上させるためには、ある程度の柔軟性を有していればよいのであって、柔軟性そのものの向上にあるのではなく、むしろ他の身体諸機構の発達にあるのではないかと推論できるのではないだろうか。

3. 柔軟トレーニングの実施上の注意点

1959年日米対抗出場の選手について、水泳以外にどんなスポーツをやるかという質問したところ、日本選手は15人中14人までがなにもしないと答えている。これに反し米国選手は、バスケットボール・フットボール・ウオーター Polo等をやると答えたのが12人中6人である。

適当に危険性を伴わないスポーツをシーズンオフに行うことは、運動能力を高めるために非常に効果のあるものである。このスポーツに合わせて、柔軟体操をすることは体内諸器官の機能増進のつり合いからも適当であ

る。
次に柔軟トレーニングを行う際の注意点をあげる。

- (1) 身体の柔軟性は年齢とともにおとろえるものであるから、毎日欠かさず行う。
- (2) 関節の柔軟性ばかりでなく、それを動かす筋肉を強力にし、関節

を弾力性のあるものとしなければならない。

- (3) 入浴中もしくは入浴直後が、最も効果的である。
- (4) 運動器具があれば、その利用法に注意し、器具がない場合は2人で組んでやるとよい。
- (5) 極度にやったり、急激に柔かにしようとすることは危険である。

4. む す び

Cureton 博士が考案した柔軟性の測定方法は特別の道

具がいらす、簡便な方法である。したがって指導者が活用し、指導の目安とするならば、相当の成果があがるものと信ずる。

そのために、その測定方法と、標準値表を参考にかかげておく。この標準値はこれまでの測定結果と今回のオリンピック候補選手の測定結果から割り出した値で確定的のものとはいえないが、せめてこの程度は必要であろうと思われる値である。なお参考までに優秀選手7名の測定値を記しておいた。

測定方法

1. 足首

被験者は床に足を平らに伸ばして坐る。板を直鉛に足の外側に立て、用紙を板と足の間に置く。足を最大限足先に向かって伸ばした時(踵屈)と、最大限足先を手前に屈した時(背屈)に、鉛筆を水平に保ち足底にそって線を引く。線を十分長く引き、その2本が交わるようにする。交わった点から5cmの線上に点を取り、この角を分度器で測る。左右の足首の平均をとる。

2. 肩

被験者は床の上に伏す。そしてあごを床につけて肩の幅で腕を伸ばす。手で小さな丸い棒を握り、びじを伸しておいて、あごをつけたまま棒を最高限に床から高くあげる。この時の床から棒の下側までの鉛直距離を測る。

3. 体後屈

被験者は平らな床に伏し、その上にまたがって腰をしっかりとおさえてもらう。そして手を首のうしろで組み、最大限に頭を床から持ちあげる。この時のあごから床までの鉛直距離を測る。

4. 体前屈

被験者は平らな床に両足を伸ばして坐り、足先を45cm離す。ひざをしっかりとおさえてもらい、手を首のう

しろに組んでゆっくと前にまげる。この時、額の中央から床までの鉛直距離を測る。

第4表 柔軟度標準値表(男子)

| | 足首 | 肩 | 体後屈 | 体前屈 |
|-----|-------|------|-----|-----|
| 自由形 | 80deg | 50cm | 35 | 5 |
| 平泳 | 75 | 50 | 38 | 0 |
| 背泳 | 90 | 50 | 35 | 15 |
| 蝶泳 | 95 | 60 | 40 | 0 |

第5表 柔軟度標準値表(女子)

| | 足首 | 肩 | 体後屈 | 体前屈 |
|-----|-------|----|------|-----|
| 自由形 | 85deg | 45 | 30cm | 0 |
| 平泳 | 80 | 48 | 35 | 0 |
| 背泳 | 95 | 45 | 35 | 5 |
| 蝶泳 | 95 | 60 | 40 | 0 |

第6表 優秀選手個人柔軟度表

| | 足首 | 肩 | 体後屈 | 前体屈 |
|-------|-------|--------|------|--------|
| 山中 毅 | 95deg | 45.5cm | 27.5 | 32.0cm |
| 増田 勲 | 83 | 69.5 | 59.0 | 0 |
| 那須 純哉 | 109 | 65.0 | 55.0 | 12.0 |
| 富田 一雄 | 93 | 28.0 | 24.0 | 24.0 |
| 田中 聡子 | 103 | 44.5 | 33.5 | 11.0 |
| 佐藤 喜子 | 93 | 57.0 | 29.0 | 0 |

| 足首 | 日本チーム | 蝶泳 | 背泳 | 100m自 | 400m自 | 1500m自 | 200m自 | 平泳 |
|-----|-------|----|-------|--------|--------|--------|-------|-------|
| | 米国チーム | 蝶泳 | 背泳 | 400自m | 1500m自 | 平泳 | | |
| 肩 | 日本チーム | 蝶泳 | 400m自 | 1500m自 | 100m自 | 平泳 | 200m自 | 背泳 |
| | 米国チーム | 平泳 | 蝶泳 | 背泳 | 400m自 | 1500m自 | | |
| 体後屈 | 日本チーム | 平泳 | 蝶泳 | 100m自 | 1500m自 | 背泳 | 200m自 | 400m自 |
| | 米国チーム | 平泳 | 蝶泳 | 背泳 | 400m自 | 1500m自 | | |
| 体前屈 | 日本チーム | 平泳 | 200m自 | 100m自 | 蝶泳 | 1500m自 | 400m自 | 背泳 |
| | 米国チーム | 平泳 | 背泳 | 蝶泳 | 400m自 | 1500m自 | | |

((((指導者講習会研究報告))))

日時 昭和 35 年 2 月 29 日 13 時 ~ 15 時

(出席者) 場所 国立競技場会議室

| | | | | |
|--------|--------|--------|-------|--------|
| 太田 光雄 | 三枝 美貴子 | 奥平 幸夫 | 森 好男 | 石井 計一郎 |
| 赤檜 卓爾 | 串田 志都子 | 原田 静子 | 池田 岩夫 | 青木 行義 |
| 吉田 勝平 | 小野 寺 巖 | 中村 明彦 | 鎌田 寿夫 | 黒佐 年明 |
| 金田 平八郎 | 平尾 静子 | 木村 文也 | 末 弘 力 | 岡田 正一 |
| 南 佳 恵 | 奥村 健治 | 井上 正一 | 金井 照夫 | 藤田 平八郎 |
| 笹岡 昭平 | 中村 隆一 | 黒田 実 | 出田 数良 | 植栗 祐輔 |
| 高橋 理悦 | 近藤 鈴松 | 河瀬 正喜 | 原 保夫 | 永井 武治 |
| 根本 日清 | 牧野 哲夫 | 浦畑 チズ子 | 広重 俊一 | 東郷 清一 |
| 有安 恵徳 | 鈴木 重孝 | 浦井 保弘 | 古賀 長善 | |

…… 座 談 会 ……

4. インターバルをかえりみて

太田 座談会を開催したいと思います。今日の目的は昨年この講習会でインターバル練習を取上げることにして、皆さんの努力により相当の効果が上がったように聞いているが、一部にはインターバル練習はまだまだ研究されないではないという意見も非常に見えるので、一年間の皆さん方の尊い経験を発表していただき、それにより吾々の考えていることを取りまぜてなんとか一つのインターバル練習の成果というようなものをつかんでいきたいと思っています。その意味できたんのない経験を発表していただきたい。

まず昨年この講習会でインターバル練習の話があったが日大監督の村上さんはとにかく短い距離でインターバルをどんどん進めていかなければならないとの意見があり、そのようにやって見ようということではじめてきた。今年になって村上さんの話を聞くとやはり年柄年中そういうような短いインターバル練習で進んで行ったのでは不合理な点があるのでこれから少し変えて行かなければならないといていた。私たちもちろんはじめから考えていたことは、やはり年令と時期ということにより色々インターバルの強弱、泳ぐ距離の長さ、インターバルの時間の長い短いというようなことを取りまぜていかなければならないと思う。それとやはり成長期におけるものの練習はもっともっと長い距離を中心にし

たインターバル練習を行う必要があるとも思われる。

そこで実際に経験なされた先生方の意見をもちよって皆さんで検討していただきたいと思う。

森 私の方はこの前の宿題になっていたことをとりいれるような方法をとったが、何分養成期のものとすでに形成された選手がいるので一概にこれを取入れて行けなかった。その結果ははっきりデータを取るほどの回数がないので、短い距離ばかりではいけない。ある程度の長さをもってということですが、もちろん練習をする人数にもよるわけなので、それで私の方では多少は取入れている向きもあるが、いままでやった短距離のダッシュの練習も必要で、いままでかりに10回やっていたものを20回、25回入れたことも多少あるが、やはり目標を置いてどういう競技のためにコンディションをつくりたいというような時には一かいにどれもこれもやっていけないということはできないと思う。その点実は指導者として迷っているところがある。ある選手によってはインターバルをやらしていないものもいる。またやらせているものもいるわけで、幾種類も選手の層があるので、東京で指導をうけていたものはインターバルはこういうものだといろうのみにしているものもある。これから成長期に練習をはじめるとそれが聞いて感違いをもちたらす結果もある。本人もそうだと思い込んでわれわれの長い目の指導の点に支障をきたしていることもあった。インターバルというのはこういうものだということは私も分らない。ただこのごろのはやりというのかインターバル練習方法をやるために何とかいろいろなおものをおりまぜて、このごろの子供に納得のいくような練習方法を一応は考

えてやっている。ただ私のいうことはいままでダラダラ練習をすると4時間、5時間かけたのが、2時間前後でうんとつめた。その時間の割りに沢山練習している。いままで長い時間かけていた時間を短時間でやつつけられたということそれがインターバルになっているのじゃないかなと思っている。私も実はまた納得のいかないところがある。

太田 われわれもインターバル練習はこうやってやるのだということはいえない。選手の種類、年齢とかいろいろ変化があるので、これだといえないが、選手の層によって分れるということ、変えていかなければならないのじゃないかと考えている。豪州の例をみてもコンラッズのコーチの人の言葉を聞いてもこれは全部がこういうようにやるのだとはいわない。コンラッズの練習はこういうふうにやらせているのだというような発言をしているから結局その選手にあったような方法を見わけることが大切じゃないかと考えている。

梶栗 森先生がいわれたように私のやっていることはダッシュの繰り返し、従来よりもダッシュの回数を多くする。それを繰り返すのじゃないかと思う。私はインターバル練習はこういったようにやるのだということのみてないので、ただ選手の個人差、シーズン中のレースそういったものを加味して4月、5月、6月、7月、8月のインターハイ、9月の国体と練習をやったので、その時の水温関係、個人差関係そういったもので、いろいろデータを集めたら10くらいのパターンができた。Aという選手は水温が低い、長距離は泳げない。短い距離の繰り返しそれで非常にスピードがついた。ところがそのA選手が同じ反復練習で5月、6月に浮び上がれないでかえってタイムが落ちる一方である。その同じ繰り返しでB選手は記録が上がった。この選手はフォームが完成した。またくずれたD選手もいる。結局個人差をしっかりと把握してもっていかないとつぶれる選手が出てくる。それが一番こわいのじゃないかという感じがする。それよりもっともっといろいろなニュアンスをもたせた練習をやらせて、もう少しストロークの研究とか技術の研究をやった方がいい。個人差に応じてやっていいのじゃないか。今日もボートの話が出て、ストロークの話などあったが、昨日旭化成の永井さんのお話で、陸上競技と水泳と共通のものがあるはずだ。あるいはボートと共通の面もあるはずだ。もっとももっとそういった人の話も聞く必要があるのじゃないか、ただ水泳だけで固まってああのこうのというよりそういった人たちのエネルギーの消耗は同じだからいろいろ聞いて参考にする必要があるのでないかという話があったが、私としては従来のロング練習も加味して来年度も大いに私の思ってい

るインターバルを強化していきたい。何れにしてもスピードの時代であるからスピードに乗らない練習は無意味であると思っている。

太田 インターバル形式というか、それを無視して、全然考えないで練習された方はありませんか。

東郷 慶応の古川君が早く帰って丁度3月30日ごろ温泉プールで泳いでいた。連中はその間ヒマなので一緒に合宿させて、私は一週間くらい遅れて行ったが、その前に古川君は相当泳いでいたが、選手が行ってすぐ3月17日午前400を二本、インターバルダッシュ100を8回やって1回休み、次の組がやって、またビート400を二本、レグレス10本。午後は400を4本、100を8本、ここで休んで他の組がやって、また400を2本、100を10本と午前、午後とも非常に強い練習を私がいないうちにしてをった。3月29日記録会をやったが、昨年本人の最高記録まで上がっていた。4月に入ってまた同じような練習をやったところ記録的には男子は非常によかった。今年は一応記録が上がっている。これによって考えることは、その前に朝日新聞の宮本氏が回ってきて記事にも出ていたが、よその学校ではスタミナがないねというようなことを盛んにいっておられた。私のところは400を泳いだのがよかったのかそうしたことはあまり感じなかった。連続2500を泳がしたのは1回か2回くらい軽く泳がただけで、そのために記録的には躊躇するようだが、指導が悪かったのかある程度伸びたあとは伸びないで、9月の国体にも調子が悪かった選手がいた。

赤樫 シーズン初めの練習、シーズン最盛期の練習、試合前の練習、終わってからの試合に対する基調というように練習目的に合致したようないろいろなインターバルを取り入れてやる。最初から最後まで一つのシーズンを同じインターバル練習をやるのとは違ってくと思う。いま先生がいわれたようなのはシーズン初めですがシーズン初めにはその程度の練習でいいのじゃないか、これをずっとしまいまで全部やっつけていかれるというのは選手の個人差とかいろいろあると思うがワンシーズンこれで押し通すというのはちょっと検討する余地があると思う。

東郷 その面には本数を下げる。試合前はスピードの練習をやっている。大体においてそういうことを繰り返しやっっているということですか。この練習方法でいいのかなと思ったが、実際はあまりよくなかった。みな同じ練習をするのは不可能ですから――。

Aという選手に対してはいろいろやってみたが、一応成功したのじゃないかと思っている。この選手を私が手元に引取ったとき高校1年で2分27秒、2年のとき2分19秒1、3年のときの公式記録が2分13秒2、練習記録

は常に10秒切れるところまできた選手ですが。

太田 インターバル練習の教法というものは、例えば豪州の選手がきたときいろいろ向うの選手の話聞いたが、やはりあの人たちはプロコーチですからその選手だけにかかり切っている。生活から何からみている。その場合は個人差によっていろいろやれるが、日本においてはそういうような状態になっていないので、どうしてもある1人のものについては非常に有効であったかも知れないが、同じ方法で何人かやった場合には、その中にはいろいろな肉體上、精神上差があるのであるものはいいかも知れないが、あるものは悪かったというような結果は当然でくるのじゃないかと思う。豪州の場合でもやはり相当の数の選手をやったああいようなコーチをやっているのだろうが、その中でも一人か二人しか出ていないわけですから、インターバルとはいえいろいろなやり方を変えるべきで、こうやるべきだと断定はできないと思うが、練習の方法としては一応考えて採用してみる必要があるのじゃないか。いまのところではその程度しか分っていないわけですが。

古賀 私も今年になって去年の秋からある程度取入れてやったが、本格的に今年になってやってみた、インターバル練習法は長距離においては非常に成功した。短距離には必ずしもどうか、かえって短距離の選手の場合はダッシュがよくない、シーズンになってすぐ各自にノートをもたせて記録を交代でとらせたが、個人差に応じてインターバルの長さ、制限タイムを加減してやらせるようなことでずっとそれをみているが、長距離選手の場合には非常にこれは効果が上がったことが分かったが、短距離の場合にはなかなか記録が一定して伸びることがなかった。ですから短距離の選手だけは別にやらせて一定の回数を多くして行った。これも50、25ばかりでなくたまに200、400くらいのレースも入れてやってみた。そうしたらこんどは少し記録がよくなった。それで長距離の場合はインターバルは有効だが、短距離では必ずしもそうでもないと思った。

太田 昔はインターバルといわなかったが私たち記録よりか50ダッシュ、25ダッシュというようなことを1回の練習に20回、30回もやった経験があるが、それがあつた種目によってのインターバル練習といえはいいのじゃないか。ですから練習方法はそういうようなものだと思っているからそれじゃインターバルはこういうふうにするのだというような定義づけたものを求める結果になるが、結局やっている練習は少なくともインターバル練習と名づけると名づけられるような練習じゃないでしょうか、昔のように1500とか2000をやっていたとしてもそれもある程度の強弱というようなものをある時期によって

つけていけばそれもやはり一つのインターバルではないかと思うが、距離の長さとかそういうものはもちろん人によって違ってくるが、ですからインターバル、インターバルという言葉で制約されるようなもんじゃない。

永井 インターバルの本質になるが、ダッシュ30回やるのは過去においてもあつた。問題はいわゆるインターバルは時間を何秒おくかが一番の問題点になる。シーズンはじめはダッシュを10回、100のインターバルを10ペんやる場合に1分おきかも知れない、そして最終的には100を10本やる。それなら距離的にいってその時間をおくその間隔がゼロになれば最終的にはそういうのがインターバルだろうと思うが、そういうように解釈するとシーズンはじめは一本目の100は1分台、2本目の100も1分、3本目も1分、それには常に時間的なものと記録が関連してくる。記録は100を10本いく場合には、これは人間ですから限界があつて、1本目を1分5、2本目を1分6、次を1分7、1分8と下がって1分10までも下がったらそれ以上は絶対下らない。そうすると一定のところまで記録を落してさらにインターバルを50本、100本やっても1分10秒なら下っても1秒前後であろうと思う。私は今年やったが、そういうような結果が出てくる。そうするとその時間的な間隔を逆にもってきて、シーズン初めは1分おいて100を1分5、2本目から1分6、そういう間隔を常に一定の時間だけおいてそれを継続していく、最終的にはインターバルの時間は1分おいてさらにそれがゼロになればいい。というのはシーズンの終る過程において1分おいたのが30秒、20秒、10秒、5秒、3秒間隔くらいになる。それと記録が常に1分10秒まで落していくべきものが常に練習の記録を頭に描きながらいま1分5秒がもう1回、1分5秒までいけるまで記録を伸ばすか、1分5秒に近い記録を出させるためには時間を多くとらなければならぬ。そういう時間的な問題点を制約されているが、そういうような点をどういうふうに考えているか、非常に大きな問題だろうと思う。要するに最終的な目標としては記録を出すのなら100を10本継続させていけばいい。時間的には最初は3秒、最終的には4秒なり、5秒と縮むが、縮むと記録が落ちてくる。その相関関係をどうみるか。

太田 結局インターバル練習はいままでのようにただきつい練習をやっておいて、そのままそれがうまくはまった場合記録が伸びるといふのじゃなくて、この選手をこのシーズン何秒で泳がせたい、そのためにはこういうふうにしななければならないのじゃないかといふのをコーチが考え出してやっていくものだと思う。いままでのようにただ長く泳がして力をつけてやっていくのじゃなくて、一つの力をつくってある時期においてはこの選手の

100を1分5秒で泳がせ、しかも何秒間の間隔でやってそれが必ずしもずっと伸びていってある時期には4秒を1分間の間隔にしてとはならないが、その間隔とか記録に多少なりともむりがあるが、ああ早すぎたかということを考えながらいくのが選手づくりの方法じゃないかと思う。やはりその選手をずっとみておられる先生方が考えていろいろな多彩な方法を研究しながらやっていくべき練習方法じゃないかと思うが。

石井 私の考えで、今年やったことは、そんなバカな考えがあるのかと笑われるかも知れない、というのは私は学校というのは勉強するところであるから、勉強をあまり阻害しない限りにおいてしかもある程度水泳を楽しめる。同時に体を強くするこのようにしてある程度効果をあげることができればこれは非常にもうかりもんですという感じがある。試合にも負けてもいい、水泳を楽しめればいいじゃないかというノンキな考え方をして、それでインターバル練習といってロングをやらない、50mを4秒、この4秒のタイムはその人の実力を八割くらいの程度、また100mを4秒、これもタイムはやさしいから平気で泳ぐ、レグレスが50mで4秒、あと25mを4秒、ビートをやらない日もやる日もある。そうして大体1000mくらい泳ぐ。体重をはかるとシーズン中でも減ることはない。ふえる。そうしてどうなるかをみていた。さっき東郷先生のいわれたようにこれはスピードはついたがスタミナがなくなった。ある選手はタイムが100mで前年度の1分15.6秒が1分12秒コンスタントになった。800は12分20秒で12分台を記録するようになった。800は一年中を通じて試合以外泳ぐことはない。このようにしたら結局はスタミナが落ちた。そこで考えられることはインターバル方式は私の場合は100mの場合でも50mの場合でも絶対に30秒に決めた。それから長くも遅くもしない。タイムも非常にやわらかいタイムでやりました。選手は練習したような気にならない一時間ちょっとで終わる。結果をみたがそう悪い結果ではなかったが、問題はスタミナをどうしてつけたらいいかが残された問題で、ロングでスタミナを増すか、インターバル練習、をきつくしてスタミナを増すか、私の方の選手はどうせオリンピックへ臨むことはないが、実験台でいろいろやって見ようと思っている。

太田 もう一回バクチを打って実験計画を組まれていくか、インターバルをもう少し変えるかということですが、医学的な立場でいえば1分以上休むということは戦争産業から平和産業に切りかわることになる。ですからインターバルの間隔は60秒以内にしてくれ、2分も休んだらなんにもならない。5秒なら休まないと同じじゃないかといわれている。それで選手が早い楽な泳ぎをした

場合だったらあまり効果がないと思う。

石井 効果のあるとかないとかいうより、かも知れないということですから私がやってみるのですが、その場合選手の成績が落ちれば悪いが、私の場合は平泳の石川君がいるがベストは3分13秒、それは中学のときには全く泳げなかったのが学校に入って水泳をやってみようとして、2年生のとき3分13秒までなったから、これは遅くなくても早くなくても痛痒を感じないというように考えて実験をやったわけです。

太田 それでは一つオリンピック選手をつくるようなインターバルをわれわれとしては考えなくてはならない。

石川 バックの石橋なんかの場合はある程度オリンピックを望ませているが、それで悪いところもいいところもあるが、スタミナがない、体質もあるだろうが、石橋は練習量が少ない、いくらか私のがうつったのかも知れないが。

太田 距離的な面も出たが、コンラッズという国際的な泳者のことですが、古橋君の報告書によると50mダッシュを100回くらいやっているというているが、これが必ずしも全部の選手にいいか、悪いか分らないが、インターバルをやるなら相当な練習の距離を泳がなければならぬのじゃないか。

石井 ちょっと不思議に感ずるのは練習を全くやらないで魚釣りをもぐってやっている。これを1週間やらせると1週間の間にタイムが上がっている(笑)それでちょっと考えることはもぐったり、魚を追っかけ回すことによってタイムが上がるのですね。

太田 一つの練習方法かも知れないね。

近藤 何かビートの弱い連中がインターバルをやると非常にいい。ビートを強く打っているとほかを忘れてしまう。私のところは3月に温泉でやったが、そのときにすべての選手がフォームを忘れてしまった。大体3週間やったら回復した。そのときには昨年最高のタイムが出てきた。インターバルにもっていったら一番強く泳がしたのは平泳の芥川で、かれはビートは打っていない選手だが、グングン強くなった。ビートは依然として記録が向上しない。果たして指導方法が悪いものか、インターバル練習は腕を強化するものかお聞きしたいわけです。ピッチを早くするためにビートが遅くなる。確かに腕は強くなる。

小柳 他の大学は知らないが、早稲田に入ってくれば伝統的な背景というものがある、一口にいえば人の和ということですね。4年生までに自分の最高記録を出すことが水泳部の人たちの中心になっている。その部の中に森先生のいわれたように非常にこれから養成を要する

選手がいるし、ある程度既成選手もいる、その中には個人差が非常にある。そういう中において個人の最高のコンディションで試合にもっていくということで、そこへもって行って従来のロング練習からインターバル練習に入ってきた。インターバル練習はどういうことかというといわばインターバルの時期とその選手のもっている体に対する制限タイム、そういうことになる。個人差があるから山中の場合は100mを10回なら5秒以内でいく、梅本の場合は7・8秒。梅本が2、3秒休むときは山中は休めない。インターバルは腕が強くなる。足が強くなるということはインターバルそのものにはないと思う。たまたま足の弱い選手が強くなる場合もあるし、また足を使っていた選手が足がおろそかになって手に中心がいたりする場合がある。28、38近くの選手を9コースに集めてやることは正確な意味のインターバル練習は不可能だ。一人か二人の選手に一人のコーチがついて時計をみてやることによってペースが自ら出てくるのじゃないかと思う。そうするとわれわれのやっていることは非常にいい加減のことで、本当の意味でのインターバルでないと思う。どうのようにインターバルをやろうということすらおかしいと思うが、しかし1500をロングで泳ぐより、100mを15回にやっけてインターバルをおいて泳いだ方がいいということはいえると思う。だから将来は個人差によってインターバルを長くするか、制限タイムを低くするかによって練習はできると思う。だからわれわれはコーチとか監督がその選手の体力の調子をみたり、フォームをくずしていないが、細かい点は注意する必要はないと思う。大きな長所を常に伸ばしていけばいいと思う。例えば足が強くなる、手が強くなるということもいえるが、足の強い選手が足が弱かったら注意しなければならない。手もその通りで、これは強くなったり、弱くなったりすることはないと思う。

近藤 足が弱くなったというのじゃなくて伸び方なんです。急激に伸びていく場合はインターバルは腕の方が伸びが早いということです。足を一定の同じ幅にとった場合はピッチは上がらない。ピッチが弱くなったというのは足の幅が小さくなったか、従来の通りの幅で弱くなったかということになるとそうすると幅がせまくなってピッチが上がった場合打ちに強いんだからそれでいいのじゃないか、しかし打ちに弱いものは従来より足の幅がせまくなった場合は注意しなければならない。

森 私の方は芝原君がいたが、少し長くつづく途中でペースがバタッと落ちる。はじめは調子がよくても落ちる。それを私の方でみて部分的に一応記録をとった。400を50mずつとった。上から伸ばしていけば32秒くらい、35,6秒、悪いときは37,8秒、これを繰返してや

ると平均35秒へもっていくと丁度こういう記録になるのじゃないか。泳げないことはないのだからといって8回泳ぐ、4回もこういう記録が出るのだが落ちるのは不思議じゃないかと暗示を与えたら素直に400を泳いだ。そういう問題はやれる能力の子供はそのコーチをするものが掌握できるが、もう一つの例は佐藤ヨシ子、これは芝原が400で日本記録を19秒から16秒へもっていったとき12秒で、芝原よりは悪いが泳ぐことをいやがらない、佐藤君が日ごろ泳いでいるスピードで、全力を出さなくても15秒で泳いでいる。これを4回つづければ大したものだ。ダイビングしたとき2秒くらい休んでも追いつくぞといってやらせた。それをやらせたら芝原を上回る記録を出した。こういうことをやるとインターバルでよくなったということも考えられるが、割合に400くらいまではそういうことは考えられるが、これが長距離の上にどういふふうに組み立てていくか、私が三年ほど前から400を主体にして考えて練習の中心を3秒にしているが、500が勘定しやすいのでにしているが、選手に毎日同じことをするとあきらめるので、500を5本くらいやうなといっているが、その日によって500を6本やらせてみたり、2本やらせてみたり、あかさないうちやってきたが、人数が多いので1分しか休むなということとは不可能です。プールは大きいので9コース全部使う。種類別で4種目に分けるが、高校、大学を集めると男女で45人、1回ブレストをやっても1分30秒までの早いのも、遅いのもいるし、中4秒をあけると結局6分休むことになる。ひどいのは7分も休む、ロングやれば朝から晩までやっていることになる。まあペースをつくる。スタミナをつけることに効果はあったのじゃないか。相当部分的に強いものが出てくる。佐藤君なんか練習せずとも一発主義でああいうものができた。自分でも不思議がっている。こんどもう一べん泳げというと、とてもできない。

広重 インターバル練習法は非常にいいと思うがシーズン初めからシーズン終りまで遊ばしてやることは非常に危険だと思う。ただ選手自身のいろいろな状態を考えて適当なときにそれをやっていく、ある一定の時間をおいて100なら100を10本、20本やられているお話をきいたが、そういうようなやり方は非常に失礼ない方だがあまりにも非科学的なやり方じゃないかと思う。インターバルは個人の能力をよく考へて例えば中学生は100を10回ほどやるが、最初の100は何秒、その次は何秒と100から400までは時間を変化させて、500から先は同じタイムでインターバル10秒をおいてやっているが、そういうふうにして全体を同じような方法でやるということは非常に危険があるのじゃないか、私のところは部員

数は13人ですが、ほとんどの選手が非常に体格が悪くて女子は平均で48キロぐらいですが、シーズン初めから選手の体重を毎日測定して体重の変化に応じて練習の量のある程度変化させている。参考になるかどうか分らないが、バタフライのものが2人いて、1人は体重が50キロ丁度だと思う。もう1人が42キロぐらいで非常に体が小さい、最初同じ練習を人にやらしておいたが、体の小さい方がどうしても記録が向上しない。自然体重などへってきた、これではいけないと思って練習を大体8日間つづけるとして、3日ぐらいはインターバルを取り入れあと2日間は軽く自分の好きなだけ流した。その次からまたひどい練習に入るということに変えたが結果はよかった。指導する場合にただ鍛えるだけということを考えず休む、泳ぐことが非常に大切じゃないかと思う。

池田 インターバルは効果があったと思う。普通は途中の休憩と回数だけを問題にされているが、ぼくはその上に距離を問題にしている。初めこういう会議があったとき村上監督さんに教へられた。大学のように相当コーチや確りした専門的なものがあるのならばいいが、高等学校ではコーチが選手をつくるのだというて各人に応じて練習をやるがどうしても一律になる。それではスタミナがつかないものが出てきてしまうので、いまはぼく流にやっているが、短距離選手のインターバルと長距離選手のインターバルはかえた。うちに中坊という選手がいる。この選手は短距離的なインターバルをやる。もう一人藤田は長距離的なインターバルをやっている。500泳ぐなら100を5回泳いだ方がいいという方針ですが、100を30秒間隔でやるのと、500やるのでは30秒間隔の方はスタミナがなく、レースのカンがなくなる。初めは物凄い勢いで出たがあとは泳げなくなった。そんなことでは具合が悪いなというので藤田には800を制限タイムで泳がして30秒おいてまた800、また30秒おいて800をやった。確かにスタミナは物凄くついたが、スピードが全然ダメだった、だからインターバルにはいいと思うが、長距離、短距離、バタ、プレストとみな違うような気がする。バタフライ、短距離の泳ぎになると25とか50とかとにかく短い距離のスピードを中心にしたものもいい。

太田 その種目と体力が結びつくのだと思う、多彩ないろいろなことをやってみても、その選手の能力とかインターバルの間隔をどれだけにするとかということは、はじめから教本というものはないのですから、その選手に合ったものにする。そのためにはいろいろなことをやってみなければならぬと思う。

ある選手に100mのインターバルだけで長距離のペースをつくらうとしてやってみた。しかし間隔とか距離が

その選手に不向きであった場合は失敗することがある。ある選手についてはそれをやって非常に成功したというごともあると思うので、コーチの方が時間をかけてやっていくべき問題じゃないかと思う。私は北村委員長のあとをうけてこういう講習会をやったんですが、一年間の成果を皆さんに聞いてある程度のインターバルというものに対する回答的なものを出さなければならないのじゃないかという意見もあったが、各学校の監督の方々がいてよく選手をつかまえてコーチされるのですから、そのコーチする方に水泳連盟がこういうふうにやれという教本は絶対できないと思うので、長い間の皆さんの経験とか練習をしておられて、初めて成立つものであって、それをこちらからどうせよとかこうせよとかいうことはいえるわけではないので、そういう問題をぬきにして、私が日米対抗でちよつと感じたことを申し上げたいと思うが、丁度あのときは皆さん方大学のコーチの方がオールジャパンのために相当苦しい練習をしていただいて、そのままオールジャパンをやった、そのときはあまりいい結果は得られなかったが、しかしみな選手の泳ぎをみても非常に立派な泳ぎになっておったので、これはある程度いけるのじゃないかという見通しをつけた。それで選手たちは日米大会のような非常に精神的に固いふんいきの中でレースをしたのでタイムはよくなかった。そういうようなきつい練習をやったあとなので、私は選手を一日の練習量を大体800mくらいしか一週間泳がせなかった。短い練習であるがスピードは落ちていない。それであらう相当各人の最高記録を出さず結果になったが、インターバル練習と関連していままで日本の選手の状態をみると試合において相当疲労をもったままでレースに臨んでいる。オーバーワークとはいえないが、中心のレースをする状態でないようなときに試合に多くぶつかっている。これは全般的にはいえないが、比較的そういうようなことがあるのじゃないかという感じをもっている。そういう意味においてインターバル練習方法でやればそういうような疲労という面からみても相当うまくやればインターバルが有効に使えるのじゃないか、疲労を少なくして効果をあげる練習方法ができるのじゃないかというように考えているわけなので、ここで結論というわけにはいかないと思うが、もう少しまた違った面からも研究していただいて来年からこういうような会があったときまた一つ新しい成果というようなものを出していただければだんだんインターバルというものに対してある程度の確信というものに近づいてくるのじゃないかという気がするわけです。また選手たちの肉体的な条件がよくなったときにはまた新しい練習方法も生まれてくるのじゃないかと思う。常に経験というような実験的な面に向

かって大いに研究していただきたい。

池田 豪州のインターバルは200とか400というのはありませんか。

太田 古橋君の報告によれば50を100べん、400を何べんとトータルで10000mくらい泳がしている。

太田 シーズン初めと中間とではインターバルのとり方距離殆ど全部変っているようです。800mくらいもあるし、400米もやっている場合もある。

永井 スタミナがないというのはだれしも経験をされていると思うが、インターバルの時間的な間隔。コンラッスは50を100回やっている。100回やっているときの時間的な間隔、200を10回やる時間的な間隔、それがこっちのスタミナとの関係に非常に大きなものがあるような気がする。

森 これからの泳ぎは長距離、短距離の区別をすることは必要はないと思う。山中君の泳ぎは長距離だからということではなく、短距離でも立派な短距離選手だ。長距離の記録が上がるのは短距離のスプリングの力をもつということであって、短距離、長距離を分ける考えはない。短距離に持久力を持たすということからいくと、もともと短距離の選手に持久力をもたして泳ぐ時間と長距離のスプリントのない選手にスプリングをもたすのとどっちが早いかというと短距離の方を伸ばすのに時間がかかっている。長距離の方が短距離選手になりやすい。短距離が長距離になりにくいのは持久力がない、結論ではないがやはり練習のときには長距離を相当やらせておいて相当の力ができたときにインターバルなど折りまぜてやった方が割合いい。

太田 100mを15回やったら1500になる。100mの泳者は爆発的な力で、200もつづくのなら100の泳者ではないと思う。100は100の泳ぎをしなければならぬ。そういう爆発的なスプリントを長距離に望むことはできない。短距離のスプリントを長距離のに伸ばすことは問題がある。

森 私の考えでは養成期間は長距離をどんどん泳がせかなり基本ができてからインターバルをやる方がいい。

太田 レベルを世界記録においた場合は相当むりをしないと勝てないと思う、そこらのかね合いです。

森 既成されたものの仕方とこれからのタマゴを養成するのは大分違う。また10人足らずとか1人、2人の選手の学校と60人も70人も抱えてその中でやっていたいかなければならないところは自ら練習方法が変ってくるのじゃないかと思う。

永井 日米で非常にいい記録が出たが、そうするとそれ以前の問題ですが、全日本は一つは精神的な面で記録が出なかった。ということもあるが、必ずしもそれだけ

ではない。おそらくそれ以前早稲田で練習をされて、日米で太田さんが預けられて、太田さんが練習計画を組まれて行なわれた過程においてあれだけの記録が出たという過去をふりかえって何かお気づきの点があったら。

小柳 試合にその人の最高のコンディションをもっていく、話はむづかしくなる。おそらくこれができるは大変なことですよ。日米対抗の前のオールジャパンに対する練習方法は各大学によって違うだろうが、私のところはあくまでオールジャパンは次の9月のインターカレッジの練習であるということを利用して合宿している。今年は例年と違って割合調整した方です。ところがいまから考えてみると非常に練習がきついために十分に調整期間がおけなかった。5日間おいたがむりだった。10日間ほしかつた。疲れがまだ残っていた。次には全日本の大会になると給与の点もいいということ、次には早稲田のために自分の学校のためにということと同時に日本のためにという精神的なはりきり方もあるそして団員は監督である太田委員長の下に結集し、それをうまく試合に調整して行ったという四つの点が私はいえると思う。ですから選手をいかに試合にうまくもっていくかのむづかしさが永遠に消えないものだと思う。例えば1人か2人の選手をもってシーズン初めからがっちり練習計画を決めてやればできると思う。

永井 疲労度の問題は相当大きいと思う。疲れたときの一番初めの脈搏はいくつある。平常の場合はいくつあるというように各々違うと思うが、具体的におねがいして研究してもいいのじゃないかと思うが、一般的には分かるのじゃないでしょうか。

小柳 ぼくの体験でいえば練習方法ですらはっきりした確信はもてない。おそらくこの練習方法が絶対的なんだ。しかも20人、30人みないいのだと思わないと思う。来年ローマの大会までむづかに8ヵ月間の間に一番いい練習方法をつくらなければならない、インターバルで練習がいいというかも知れないが、もっといい方法があるかも知れない。ロングが悪いというが、ロングに制限時間をかけてやるとそれの方がいいかも知れない。そういういろいろな練習方法でやっていると、悪いはその結果が出てみなければ分らない。しかしやらないよりやっ方がいいのじゃないかということをやっている。私の方ははっきりした確信はもてないが、今年は、例年の苦い経験を生かそうという気持ちだけです。それに任かせてやるより方法がないのじゃないかと考えている。私のいえるのはそれだけしかない。

広重 私は長距離、短距離選手の練習方法は全然異にすべきだと思う。ただ長距離、短距離に行く場合、現在100を58秒くらい出している選手を短距離と考える場合

に、現在58秒を出しても世界的にはお話にならないか、55秒なり出せといえ、それは相当かわった練習があったしかるべきだと思う。

太田 森先生のいわれたのは結局素材をあるところまでたぐりあげる過程における一つの方法をいわれたと思うが、私の考えているのは、現在短距離選手の世界的なものはすでに54秒台の記録を出している。これからのオリンピックで勝とうとするためにはスプリントをつくらなければならない。豪州の例をみてもスプリントというのは現在200はをほとんど泳がないというより800リレーの泳者として出てこない。ということは54秒というタイムになるとスプリンターとしてのあらゆる要素をもっていないとちょっと出ないと思う。従来のように58秒、57秒で優勝する際には200を泳いで800リレーのメンバーの主力の選手になったが、現在では殆ど200の泳者は長距離からきているようなんですね。それが一つには長距離が非常に記録が伸びてきて、スプリントがなければ勝てないというような状態になったのが強くなった。スプリントが出てきたということだと思うが、そういう点からみても100mの泳者は中学ごろからスプリンターにするのだという考えで養成しなければもうちょっと勝てないのじゃないかという考えをもっているのですね。それから短距離の練習をしるということはここではいえない。問題があるからいえないが、少なくとも短距離選手は時間もかかるし、現在のような高い水準になにしているから早くからスプリンターとしての養成をしなければとても太刀打ちできない状態になってきたということとははっきりいえると思う。

鈴木 いままでの日本の泳ぎが豪州がきてああいう泳ぎをやったからインターバルがいいということになったが、外国人の泳ぎと日本人の泳ぎは違うのじゃないか。向うは手が強い、身長もある。私もこれからはハードトレーニングをやって身長と体も大きくなったから少し伸ばしていこうというつもりでいるが、練習のこともピートをやったあとはレグレスをやったり混合でやる方法はどうかと思うのですが、足をやっていると手が休む、手を休ませて足を泳ぐ、手で泳いで足を休ませる。最後に一緒にやるという練習方法をやっているが、インターバル練習法の最初やられた動機は泳法をかえなければならない。豪州の泳ぎがいい。それでインターバルの練習をやったということですか、連盟としては。

赤樫 泳ぎは選手によって決まると思うが豪州の泳ぎはスムーズの状態ハイポジションになった。そういう泳ぎはどこで生まれたか、いろいろプロコーチに聞いたら、こういう練習方法によって生れたというヒントを得た。もちろん泳法の改良もねらってやった。

鈴木 スタミナの問題もいろいろあると思う。長い距離をうんと泳がすのも大事だが、短い距離でも50を30秒で泳ぐとか、だんだんこれをあげて私のところは人数が多いので長い時間をかけられないので短い時間にうんと苦むようなきつい練習をしなければ泳げない。それががまんできないようではダメだ。こっちでお聞きしたいことは学校でいろいろな制約もあるので、われわれのできる範囲内でいかにどういうことを教えたら一番いいかということなんです。

石井 鈴木さんの話から実際はお尋ねしたい点があるが、水泳をしているものの家庭は私の調べた範囲内ではほかの競技の家庭より貧困だということです。

鈴木 それは名古屋でもそうです。栄養をつけることで問題があるのです。

太田 日本の経済というむずかしい問題まで行ったが結局最後にいろいろ技術が研究つくされて、これ以上技術の改良の余地がないということになった場合こんどは体力を高めてやる以外には世界記録を出すことができない状態になることは分かり切ったことで、非常にむずかしいことなんです。日本のいまの経済力でしかも割合に貧困の家庭の選手たちでもある程度水泳をやって泳ぎ切れるか、いろいろな人たちに聞いてこの次の会にはなんとこの程度でやっておけば何か学びとれるからこういう状況でやれば練習してもいいのだということ調べてはつきりしてもらいます。

根本 水泳選手は肺活量の大きいことが必要だ。肺活量の小さい選手は脈搏が平常に回復するまで時間がかかる。従って早くへたばるので、こういう選手を何とか強くしなければならぬ場合がよくあるのですが、いかにしたら肺活量が大きくなるか。

太田 いまのところ医学的なデータがないので、この次の課題にしたいが、山中君の肺活量は7000くらいある。いいタイムを出すためには肺活量が大きい方が有利だということは分かると思うので、どういようにしたら肺活量を大きくすることができるかはまたお医者さんの方からうかがって次の課題にしたい。

赤樫 水の中に入って身体機能が向上するのはインターバル練習が一番いいということを主張している。しかし冬の間はどういうことをやればいいのかはあとで聞いて次の機会に。

太田 ではこの辺で座談会を終りたいと思います。有難うございました。

| | | |
|---|---|---|
| x | x | x |
| | x | x |
| | | x |

昭和35年春期定例代議員会議事録

日 時 昭和35年1月31日(日)
場 所 丸ビル 精養軒
出席者 加盟51団体中 団体出席41団体

会長挨拶

昨年度は各加盟団体の多大の御協力により各種大会も非常な成果を挙げるに至り、特に第5回日米対抗は代表選手の努力敢闘と関係者の御努力により勝利を齎し得たことは洵に御同慶に堪えない次第である。この勝利を土台とし本年開かれるローマ大会制覇への途が開かれることを祈ってやみません。本日は議事日程に従い審議を進めたいと思います。皆様の御協力をお願い致します。

議 事

1. 昭和34年度事業概要報告

1) 各種競技大会 (小出専務理事)

A 室内選手権大会及び第5回日米対抗

初めての試みとして、第1回末弘記念室内選手権大会を4月開催したが、非常な成果を得た。7月20日から行われた第5回日米大会は、日本選手の活躍により接戦の末精鋭米国チームを破ったことは、ローマ大会への見透しを一段と明るくしたものである。本大会ではソマーズを初め大部分が新進若手により占められていたが、これは米国におけるエイチ、グループ、システムの成果の現れと思われ日本にとり参考に値すべきものがあつた。しかしながら、周知のように本大会においては、山中君の再度にわたる世界新記録の樹立や800リレーの世水界記録等幾多の輝やかな成果を挙げたことは、日本水泳界にとり誠に喜ばしいことである。

B 全国勤労者大会

8月28日より3日間、大阪プールで行われた本大会は地元大阪を初め関係者の非常な御協力により例年に見られない優秀な記録が輩出し、レベルの高い大会となったことは大きな収穫であった。今後は本大会の一層の充実を図り、日本水泳界の最高の競技会と致したい。

C 中学校通信競技大会

年々充実を見せてきたが、水連としてもオリンピック対策からもこれを母胎として強化して参りたいと考えてるので今後とも関係者の一層の御協力をお願い致したい。

D 国民体育大会

神宮、都屋内プールで行われた第14回大会は、都当局等のPR不足等もあり入場者が意外に少かった等の点はあったが、大会全体としては、前年度よりも劣らぬ立派な内容を持ち十分成果を挙げたものと確信している。

2) 強化対策事業 (小出専務理事)

昨年1月以降競泳、飛込別に強化合宿を行いローマ・オリンピック及び日米対抗に備えた。なお水球については、7月下旬より浜松において日本代表チーム及び高校選抜選手の強化合宿を行った。

また11月以降は三次に区分しローマ・オリンピック候補選手の強化合宿練習に入っており、これが成果を期待している次第である。

その他ジュニア指導会、水泳教室についても加盟団体の御協力により何れも成果を挙げたことは感謝に堪えない。その他飛込、水球部門についても数次にわたる強化練習を計画的に組みローマでの必勝態勢を期している次第である。

なお茲で一言致したいことは、強化練習におけるインターバル練習法の採用である。日豪大会の経験から急速に本練習法が脚光を浴びた感があるが、本方式をただ無条件に日本選手にとり入れるの愚は申す迄もない。しかし、スポーツ医学～体力管理の面から従来と角忘れ勝ちであったスポーツの科学性が今日非常に強調せられている現在日本人に適合したインターバル練習法をこの面での調整の下に実施することは大きなプラスであるものと考え。幸い関係者の熱意と努力によりスプリントの養成、スタミナの配分等に見るべきものが現れつつあることは幸いである。今後も水連の主要な課題としてこれのマスターに努力を傾けたい所存である。

なお、水連としては東京大会に備え特にジュニア強化等を計るため地方組織を活用、ブロック別組織体を考慮した。既に九州ブロックと東海三県は強化合宿練習を実施中であり、本部よりも応分の補助費を支出した。目下の処は東北ブロック以下全国を9ブロックに区分しこのブロック別に組織体を利用し強化策を期したい。しかしながら予算の裏付けが必要なので、体協とも密接な連絡

をはかり計画的配分を考慮致したい。

3) 外国関係(安部名誉主事)

昨年9月中旬F I N A理事会がローマで開催されたので出席した。詳細については既に機関誌に連載されたので省略するが、主としてローマ大会に関する諸案件が討議された。

特にエントリー制限問題については、各国2名の制限は1958年秋に既にF I N AからI O Cに回示されI O Cはこれを承認済みの上組織委員会へも正式通知済みなため残念ながらローマ大会に関する限りこれを変更することはできなかった。水球は16チームの出場が決まり日本も出場権を得た。また世界記録も既報のとおり承認された。

2. 昭和34年度会計決算(志村会計理事)

別掲(44頁)のとおり報告(渡辺監事、監査済みなる旨報告)承認さる。

3. 第5回日米対抗特別会計決算

(志村会計理事)

別掲(42頁)のとおり報告(渡辺監事、監査済みなる旨報告)承認さる。

4. ローマ、東京オリンピック強化対策

(小出専務理事)

1) ローマ大会のための準備としては昨秋より第1次強化合宿に入りオリンピック候補選手を中心に猛練習を開始しているが、室内大会迄には3回の強化合宿を実施する予定である。

ローマ大会のデレゲーションは体協において最終的に決定を見ていないが全員で200名程度に圧縮されよう。水泳は男子14名~16名、女子10名、飛込は男女で5名、水球は11名を夫々確保致したい。その外役員では競泳、水球、飛込で6名、F I N A競技役員と外に安部名誉主事はF I N A副会長として参加する。

2) なおオリンピックの強化態制整備の件

東京大会には水運の持つ力を最高度に発揮するためには現在の機能を計画的、集約的に活用することを考える必要がある。4年後にはもち論現在の小学生、中学生、高校の低学年が主たる対象となるが、初年度より漸次集約的に強化してゆく必要があると共に地方指導者の資質の強化を期する必要がある。以上を計画的、効率的に実施するため概要下記の要領にて実施致したい。

A 体制の整備

体制整備の中核をブロックに置く。

ブロックの運営体を「地区水泳連合」と称す。

施策 1. 中学生の地区水泳教室の開催

2. 中学生を中心とする有望選手の強化合宿

3. 地区指導者の泳法研究会の開催

B 選手育成の科学的管理

諸記録、資料を作成し、データは裏付けされた練習方法の反省、泳法研究等を通ずる選手育成の科学的管理。

要旨は以上の通りであるが、これにはもち論補助金の交付、指導者の派遣、フィルム、諸資料の提供等を行う。補助金額はJ O Cの財政的支援の程度に応じ漸次増加できることが期待される。

これに対し一部代議員より、本部案では地方に負担が加重され運用上得策でない、また東京大会に万全を期するためには、強力な強化態制を考慮すべきではないか、それがためには強化本部~機関を設ける要があるとの提案があった。本部案の趣旨には全員賛成なるも実行方法ないし母胎となるべき機構が必要であるとの考え方にたち本件については後日常務理事会において慎重に検討し改めて協議することとした。

5. 昭和35年度主要行事、競技会日程

別紙主要競技会要項(案)の通りとした。

4月室内選手権大会迄は1月、3月に分け強化合宿を行う。本年度特に変わった点としては、7月22日から3日間を日本選手権大会を兼ねローマ最終予選会を行う。中学通信競技大会は本年から朝日新聞社の外にNHKが後援することになり昨年以上の成果が期待される。

勤労者大会は現在岡山、富山各県と交渉中である。

6. 昭和35年度予算(志村会計理事)

別途配付別掲(45頁)の予算等につき説明す。審議の結果原案通り可決す。

昭和34年度事業概要

1. 競技会

1. 第1回末弘記念日本室内選手権水上競技大会
4月11日12日 東京都屋内プール
2. 日本選手権水上競技大会兼日米予選会
7月10日～12日 神宮プール
3. 第5回日米対抗水上競技大会
7月20日～22日 //
4. 日米対抗水上競技大阪大会
7月25日26日 大阪プール
5. 日米豪交歓水上競技大会
呉大会 7月29日 広島 呉二河プール
名古屋大会 7月31日 名古屋 振甫プール
6. 地域高校選手権水上競技大会
北海道高校 9月1日2日 北海道 伊達高プール
東北 // 8月8日9日 福島 常磐炭礦プール
関東 // 8月 // 栃木 宇都宮プール
中部 // 8月10日11日 名古屋 振甫プール
近畿 // 8月8日9日 大阪 布施市プール
中国 // 8月 // 広島 呉二河プール
四国 // 8月 // 高知 高知市プール
九州 // 8月 // 熊本 熊本城プール
7. 日本選手権シンクロ競技大会
8月12日 東京 目白プール
8. 第27回日本高等学校選手権水上競技大会
8月21日～23日 浜松市 元城プール
9. 第10回全国勤労者 //
8月28日～30日 大阪プール
10. 第4回日本泳法大会
8月25日 奈良 天理プール
11. 第5回日本中学校通信競技大会
8月30日 全国 (各府県一会場)
12. 第35回日本学生選手権水上 //
9月11日～13日 神宮プール
13. 第14回国民体育大会水上 //
9月20日～23日 神宮, 都屋内プール

2. 選手強化事業

1. 冬期競泳強化合宿練習会
1月9日～16日 都屋内プール
国立競技場プール
2. // 飛込 // // //
3. 春期飛込 // 3月25日～4月1日 //
4. // 競泳 // 3月29日～4月8日 //

5. 日米対抗日本代表選手

- 7月31日～19日 神宮プール
6. 日本代表チーム水球 //
7月31日～8月13日 浜松市営プール
 7. 日本高校選抜水球 //
8月24日～31日 //
 8. オリンピック候補競泳強化
11月21日～30日 都屋内プール
国立競技場プール
 9. // 飛込 // //
 10. 第3回ジュニア指導会 参加者 男58 女30
7月30日～8月1日 名古屋振甫プール

11. 水泳教室

- ① 関東 参加者 男43 女29
7月25日～28日 神奈川 鎌倉プール
- ② 中部 男13 女15
// 富山 高岡プール
- ③ 近畿 男25 女12
// 奈良 天理プール
- ④ 中国 男15 女22
// 広島 祇園町プール
- ⑤ 四国 男43 女22
// 香川 善通寺一高プール
- ⑥ 九州 男38 女17
// 大分 別府室内プール

12. 地方講習会へ講師派遣

3. 選手招聘及役員海外派遣

1. アメリカチーム招聘 監督1 選手17
7月16日～8月2日
2. FANI理事会へ安部氏派遣
9月9日～21日 ローマ
3. 阪本响一氏コーチとして派遣
出発 6月25日 ギリシヤ

4. 指導普及事業

1. 日本泳法研究会 2月21日 伊東温泉プール
2. 泳法研究会 3月29日～4月8日 都立屋内プール
3. 水泳指導者講習会
6月22日～7月12日 東京, 福岡, 和歌山, 福島
4. シンクロ講習会 7月22日～24日 国民体育館プール
大阪プール
5. 国民皆泳週間 8月17日～23日 全国
(学童水泳大会) 8月20日 中央会場品川第一小学校
6. 泳法研究会 11月28日～30日 都屋内プール

5. 建設測定事業

- 1. 競泳池公認 25プール
- 2. プール建設指導
- 3. 測量者派遣

6. 記録発表

- イ. 世界記録 ロ. 日本記録 ハ. 日本新記録
- ニ. 日本国際記録 ホ. 日本競泳50傑 ヘ. 日本高校競泳30傑 ト. 日本中学校競泳30傑 チ. 日本飛込10傑 リ. 日本高校飛込10傑 ヌ. 日本水球代表チーム ル. 日本高校水球代表チーム

7. 諸会議

- イ. 代議員会 2回 ロ. 全国理事会 2回 ハ. 常務理事会 23回
- ニ. 競泳委員会 12回 ホ. 飛込委員会 8回 ヘ. 水球委員会 15回 ト. シンクロ委員会 5回
- チ. 施設委員会 3回 リ. 記録委員会 7回 ヌ. 編集委員会 7回 ル. 日本泳法委員会 7回
- オ. 学生部会関係 31回 ワ. 其他 29

8. 刊行物発行

- イ. 機関誌「水泳」121, 122, 123, 124, 125, 126, 127, 128, 129号
- ロ. 競技規則書
- ハ. 主要競技会要項

以上

第5回日米対抗特別会計決算

昭和35年1月

日本水泳連盟

| 収入の部 | | 科目 | 支出の部 | |
|------------|------------|--------|------------|------------|
| 予算額 | 決算額 | | 決算額 | 予算額 |
| 10,000,000 | 7,841,800 | 東京大会 | 1,350,777 | 2,000,000 |
| 8,000,000 | 6,937,357 | 大阪大会 | 2,737,357 | 2,000,000 |
| 3,500,000 | 1,169,200 | 賛助金 | | |
| 1,000,000 | 1,000,000 | 地方負担金 | | |
| 500,000 | 826,210 | 地方負担旅費 | | |
| | | 米選手招聘費 | 8,246,286 | 8,800,000 |
| | | 日本選手費 | 1,259,375 | 1,500,000 |
| | | 国内旅費 | 1,469,598 | 1,000,000 |
| | | 賞牌記念費 | 649,100 | 600,000 |
| | | 会合費 | 201,090 | 800,000 |
| | | 宣伝費 | 307,450 | 500,000 |
| | | 予備費 | | 500,000 |
| | | 経常費繰入 | 1,553,534 | 5,300,000 |
| 23,000,000 | 17,774,567 | 合計 | 17,774,567 | 23,000,000 |

臨時在京代議員会議事録

1. 日 時 昭和 35 年 4 月 3 日 9 時 30 分
1. 場 所 国立競技場内会議室
1. 出席者 加盟 51 団体 中 36 団体

会長挨拶

既に御送付してある議事日程の通り、ここに多数の御出席を得て在京代議員会を開催できたことを感謝致します。本年はローマ大会の年であり、水連としても既に数次の強化合宿を重ねてきたが、本日第 2 回室内選手権大会を迎え大いに成果が期待される次第である。

議事日程に従い十分御審議戴くよう御願ひ致します。

議事

小出専務理事より次のとおり趣旨の説明があった。

1. 中学校通信競技大会等の日程変更について

通信競技大会の日程については 1 月の定例代議員会において一応御決定を得ているが、本年度からは朝日・NHK の共催ということになり、開催期日が 8 月 7 日と変更されたので御了承を乞う。なお本年度からは 1 会場 2 万円程度の補助が可能となった。

更に競泳委員会等において検討した結果、競技を男女別・学年別（1, 2, 3 年）に実施することと致したい。しかし、競技時間が延長される結果、新聞社の切時間の制約、本部の集計事務等の都合もあるので、この点の調整がつけば本年度から実施致したい。なお、従って水泳教室の日程を 8 月 10 日～18 日に、ジュニア指導会は 8 月 22 日～25 日と致したい旨説明夫々承認を得た。

2. 勤労者大会の開催地について

予定されていた岡山県、広島県が予算、プール条件等の関係で開催不能となったので目下厚生省とも協議の上富山県当局と協議中である。

日程は 8 月 19 日～21 日の予定である。

3. 東京大会のため強化態制整備について

1 月開催の定例代議員会において本部案を御提示したが、議事不明確な点があったので、その後常務理事会において慎重に検討した結果、東京大会へ備え水連の持てる総力を結集し、強化を期することとし、これがため、従来迄のオリンピック選手及びこれに準ずる選手各位を網羅し、次のような整備案を考えた。

即ち、強化委員会（仮称）を設け競泳（自由形短、長距離、平泳、背泳、バタフライ別）飛込、水球別小委員会を作り強化方を審議し、強化態制を期したい。

これに対し木村、瀬川、安永各代議員より夫々これが時期、方法、各ブロック別より選出の方法、顧問、評議

員会の強化、等につき質疑ないし意見の開陳があったが、小出専務理事より次のような説明があった。

体協の J・O・C にさきに東京大会強化対策本部（委員として志村会計理事就任）が設置され、既に数次の会合を経た上、各競技団体に重点的に強化費が支出されることとなっている。35 年度分としては 8 千万円（文部省より 4 千万円、体協より 4 千万円拠出）の予算が計上され強化に充当されたが、このうち 7 月迄は、ローマ大会用の補助として水連に 2 百万円が交付されることとなった。7 月以降は、東京大会の準備として補助されるが、水連としては各代議員に照会し、検討の上強化本部に対し、一括交付申請の予定である。36 年度以降は、各加盟団体の意見を聴取し委員会毎に具体案を作成する意向である。

以上右の強化態制整備の件は承認された。

4. ローマ大会代表選手選考委員選任について

次の各氏に委嘱することに決定、承認された。

会長、名誉主事、専務理事、会計理事、競泳、飛込、水球、記録各委員長、学生部会長、同名譽主事、名誉会計、松沢一鶴、高石勝男両氏、デレゲーション役員

5. ローマ大会派遣役員選任について

体協の方針としては 200 名の限度を目標とし、J・O・C 選考委員会で審議の結果 199 名の線が出た。

水泳は競泳 14、(男) 7、(女) 飛込男子 3、女子 2、水球 11、計 37 名であるが、役員は競泳・飛込 5 名、水球 1 名、計 6 名の枠が決まった。

その外に国際審判団 (FINA)、視察員が別に派遣されるが、デレゲーションの役員は早急に決定し、ローマ大会への準備態制を確立致したい。現在考えているスタッフの範囲は、全体の監督 1 名と、競泳、飛込、水泳で 4 名、マネージャー 1 名、計 6 名である。なお、発表形式としては、会長一任とされその上で早急に決定したいと思う。

これに対し、木村、根上各代議員より、コーチは出来るだけ全選手の目が届くよう努めるべきであり、そのような観点で早急に決めること、また専門種目に各々コーチが配されるようにすべきである等意見の開陳があったが、結局会長において各方面の意見を十分聞き、会長一任において近く決定発表されることとなった。

自 1 月 1 日
至 12 月 31 日

昭和 34 年度 会計 決算 報告 書

| 収 入 の 部 | | 科 目 | 支 出 の 部 | |
|------------------|------------|-------------------|------------|------------|
| 予算額(34年度) | 決 算 額 | | 決 算 額 | 予算額(34年度) |
| 経 常 費 の 部 | | | | |
| 4,000,000 | 4,000,000 | 前 期 繰 越 積 金 | | |
| 4,000,000 | 4,000,000 | オ リ ン ピ ッ ク 準 備 金 | | |
| 3,496,014 | 3,496,014 | 前 期 繰 越 積 金 | | |
| 200,000 | 74,000 | 加 盟 分 担 金 | 30,000 | 30,000 |
| 200,000 | 137,500 | プ ー ル 公 認 料 | | |
| 200,000 | 304,760 | 「水 泳」誌 其 他 売 上 金 | | |
| 6,500,000 | 7,841,000 | 賛 助 収 入 金 | | |
| 500,986 | 889,779 | 雑 収 入 金 | | |
| 215,000 | 120,000 | 未 前 借 入 金 | | |
| | 55,000 | 前 借 入 金 | 513,550 | 510,000 |
| | | 人 什 器 備 費 | 993,210 | 1,100,000 |
| | | 会 議 費 | 220,700 | 400,000 |
| | 33,500 | 交 通 費 | 528,048 | 1,000,000 |
| | | 「水 泳」印 刷 費 | 201,938 | 300,000 |
| | | 印 刷 費 | 74,780 | 250,000 |
| | | 通 信 費 | 1,006,888 | 700,000 |
| | | 雑 費 | 199,660 | 250,000 |
| | | 後 期 繰 越 積 金 | 339,395 | 400,000 |
| | | オ リ ン ピ ッ ク 準 備 金 | 278,973 | 200,000 |
| | | 後 期 繰 越 積 金 | 4,000,000 | 400,000 |
| | | 後 期 繰 越 積 金 | 4,000,000 | 400,000 |
| | | 後 期 繰 越 積 金 | 4,850,898 | 5,552,000 |
| 19,312,000 | 20,951,553 | 合 計 | 17,238,040 | 18,692,000 |
| 事 業 費 の 部 | | | | |
| | | プ ー ル 使 用 料 | 1,323,000 | 1,000,000 |
| | | 競 技 用 品 費 | 168,150 | 600,000 |
| | 298,000 | 強 化 費 | 1,594,898 | 1,800,000 |
| | | 〃 | 307,060 | 500,000 |
| | 2,800 | 〃 | 322,055 | 500,000 |
| | | 〃 | 504,336 | 200,000 |
| | 5,600 | 音 及 関 係 | 25,930 | 160,000 |
| | 10,200 | シ ョ ン ク ロ 〃 | 92,556 | 240,000 |
| | | 水 泳 教 室 | 265,124 | 250,000 |
| | | シ ュ ニ ア 指 導 室 | 308,160 | 350,000 |
| | | 通 信 競 技 | 19,900 | 30,000 |
| 700,000 | 513,870 | 室 内 選 手 権 | 355,740 | 350,000 |
| 1,760,000 | 679,040 | 日 本 選 手 権 | 426,216 | 800,000 |
| 300,000 | 157,200 | 日 本 高 校 大 会 | 191,695 | 300,000 |
| 50,000 | 163,100 | 全 国 勤 勞 者 大 会 | 205,630 | 50,000 |
| 200,000 | 100,000 | 全 国 民 体 育 大 会 | 100,000 | 200,000 |
| | 28,200 | 日 本 泳 法 大 会 | 148,740 | 350,000 |
| | | 日 外 選 手 海 外 派 遣 金 | 865,867 | 750,000 |
| 5,300,000 | 1,553,534 | 日 米 剩 余 金 | | 500,000 |
| 8,310,000 | 3,511,544 | 合 計 | 7,225,057 | 8,930,000 |
| 27,622,000 | 24,463,097 | 総 計 | 24,463,097 | 27,622,000 |

自 1 月 1 日
至 12 月 31 日

昭和 35 年度 会 計 予 算 書

| 収 入 の 部 | | 科 目 | 支 出 の 部 | |
|------------|------------|-------------------|------------|------------|
| 34 年 決 算 額 | 予 算 額 | | 予 算 額 | 34 年 決 算 額 |
| | | 経 常 費 の 部 | | |
| 4,000,000 | 4,000,000 | 前 期 繰 越 積 立 金 | | |
| 4,000,000 | 4,000,000 | オ リ ン ピ ッ ク 準 備 金 | | |
| 3,496,014 | 4,850,898 | 前 期 繰 越 担 金 | 25,000 | 30,000 |
| 74,000 | 200,000 | 加 盟 分 認 料 | | |
| 137,500 | 200,000 | プ ー ル 公 認 料 | | |
| 304,760 | 300,000 | 「水 泳」誌 其 他 売 上 金 | | |
| 7,841,000 | 7,000,000 | 養 護 助 収 入 金 | | |
| 889,779 | 609,102 | 雑 収 入 金 | | |
| 120,000 | 350,000 | 未 借 入 室 件 料 費 | 510,000 | 513,550 |
| | | 人 什 器 備 品 費 | 1,150,000 | 993,210 |
| | | 会 議 合 議 費 | 350,000 | 220,700 |
| | | 会 議 合 議 費 | 800,000 | 528,048 |
| | | 交 通 宿 泊 費 | 250,000 | 201,938 |
| | | 「水 泳」印 刷 費 | 250,000 | 74,780 |
| | | 印 刷 費 | 900,000 | 1,006,888 |
| | | 通 信 費 | 250,000 | 199,660 |
| | | 雑 費 | 400,000 | 339,395 |
| | | 後 期 繰 越 積 立 金 | 245,000 | 278,973 |
| | | オ リ ン ピ ッ ク 準 備 金 | 4,000,000 | 4,000,000 |
| | | 後 期 繰 越 積 立 金 | 3,380,000 | 4,850,898 |
| | | 小 計 | 12,510,000 | |
| | 21,510,000 | | | |
| | | 事 業 費 の 部 | | |
| | | プ ー ル 使 用 料 | 900,000 | 1,323,000 |
| | | 競 技 用 品 費 | 800,000 | 168,150 |
| | | 強 化 費 競 泳 込 込 | 1,100,000 | 1,594,898 |
| | | 「 飛 球 | 200,000 | 307,060 |
| | | 「 水 球 | 200,000 | 322,055 |
| | | 「 東京オリムピック 一 般 | 1,500,000 | 504,336 |
| | | 普 及 関 係 | | 25,930 |
| | | シ ョ ン ク ロ 「 | 100,000 | 92,556 |
| | | 水 泳 教 室 | 300,000 | 265,124 |
| | | シ ョ ン ク ロ 指 導 会 | 400,000 | 308,160 |
| | | 通 信 競 技 権 | 50,000 | 19,900 |
| 513,870 | 500,000 | 室 内 選 手 権 | 400,000 | 355,740 |
| 679,040 | 3,000,000 | 日 本 選 手 権 | 900,000 | 428,218 |
| 157,200 | | 日 本 高 校 大 会 | 200,000 | 191,695 |
| 163,100 | 100,000 | 全 国 勤 労 者 大 会 | 200,000 | 205,630 |
| 100,000 | 400,000 | 全 国 民 体 育 大 会 | 400,000 | 100,000 |
| 28,200 | | 日 本 泳 法 大 会 | 350,000 | 148,740 |
| | | 外 国 関 係 | 1,000,000 | 865,867 |
| | | オ リ ン ピ ッ ク 関 係 | 4,000,000 | |
| | 4,000,000 | 小 計 | 13,000,000 | |
| | 25,510,000 | 総 計 | 25,510,000 | |

日本史上競泳100傑 (5)

(昭和35年5月20日 現在)

今号は男子平泳を採録するが、この種目は日本が最も得意とする種目で、オリンピック大会ではアムステルダム(鶴田)ロサンゼルス(鶴田)ベルリン(葉室)と3連覇をした。ところがその後、平泳規約の不備を衝いてバタフライ(蛙足)泳法が台頭し、その記録がオーソドックス記録を凌駕するに至った。1952年国際水連はバタフライは平泳ではないことを決めて平泳とバタフライを分離した。

日本はその後この種目で潜水泳法をマスターし又々メルボルン(古川)で制覇したが、国際水連は更に潜水泳法は平泳として適当でないとして規約を改め、1957年5月1日より潜水を禁止し、今日に至っている。

よって本表は

1. 記録を下記のように2通りに分けた(紙面の都合で50傑とした)

① 1957年4月30日までの記録(潜水を認めたもの)

② 1957年5月1日以後の記録(潜水を認めない)

2. 1952年以前の平泳として泳いだ記録でも、バタフライ泳法のものとはとらない(その記録はバタフライの方に入れる。)

本表中 ◎左肩に(日)とあるは当時の日本記録

◎順位は同記録のものは同位とした。但し同じ記録を2回出した者、3回出した者は各々、その上位とした。

◎記録のところに②とあるは最高記録を2回出した者、③あるは3回、但表には1番はじめに出した年月日、場所、大会名のみを記した。

◎次号は女子平泳の予定

(島田)

100m 平 泳

(潜水を認めた記録)

| 順 | 氏名 | 所属 | 時間 | 年齢 | 場所 | 年月日 | 大会名 |
|--------|--------|------|--------|------|----|---------|-------|
| (日) 1 | 木村 基 | 日本 | 1:10.4 | (17) | 大阪 | 30-8-13 | 日米大阪 |
| | 古川 勝 | 大 | 1:10.4 | (20) | 神宮 | 31-7-1 | 日大対中大 |
| 3 | 胡麻鶴 寿 | 日本 | 1:10.5 | (22) | 大阪 | 30-8-13 | 日米大阪 |
| 4 | 吉村 昌彦 | 桜泳会 | 1:11.8 | (19) | 神宮 | 31-8-11 | 日本選手権 |
| 5 | 田中 守 | 早大 | 1:12.2 | (22) | " | 30-9-11 | 日本学生 |
| (日) 6 | 葉室 鉄夫 | 大 | 1:12.4 | (22) | " | 14-9-16 | " |
| 7 | 太田 勝 | 稲泳会 | 1:12.7 | (20) | " | 31-8-11 | 日本選手権 |
| | 増田 勲 | 大 | 1:12.7 | (18) | " | 81-9-9 | 日本学生 |
| 9 | 永井 正員 | 太田高 | 1:12.8 | (17) | " | 31-8-18 | 日本高校 |
| (日) 10 | 小池 礼三 | 慶大 | 1:13.0 | (19) | " | 10-8-4 | 日米予選会 |
| | 窪 昭博 | 五条高 | 1:13.0 | (18) | 大阪 | 30-6-25 | 関西選手権 |
| 12 | 板井 道生 | 桜泳会 | 1:13.6 | (22) | 神宮 | 30-7-22 | 日本選手権 |
| 13 | 鈴木 重一 | 法大 | 1:14.0 | (18) | " | 18-7-11 | 関東選手権 |
| | 豊池 守 | 立大 | 1:14.0 | (19) | " | 31-9-9 | 日本学生 |
| 15 | 村島 吉太郎 | 五条高 | 1:14.2 | (17) | " | 31-8-18 | 日本高校 |
| 16 | 木村 靖 | 聖ポール | 1:14.6 | (20) | " | 31-8-10 | 日本選手権 |
| 17 | 西前 義貞 | 中大 | 1:14.7 | (19) | " | 31-9-7 | 日本学生 |
| 18 | 吉村 喜代造 | 大 | 1:14.8 | (21) | " | 18-7-11 | 関東選手権 |
| | 中沢 潔 | 早大 | 1:14.8 | (20) | " | 29-9-12 | 日本学生 |

| | | | | | | | |
|--------|-------|------|---------|------|----|---------|-------|
| 20 | 戸上雅雄 | 桜泳会 | 1:15.0 | (20) | " | 30-7-23 | 日本選手権 |
| | 最上義則 | 中大 | 1:15.0 | (18) | " | 31-9-9 | 日本学生 |
| 22 | 古川敏 | 早大 | 1:15.2 | (18) | " | 14-9-17 | " |
| | 清池健蔵 | 中大 | 1:15.2 | (18) | " | 28-9-13 | " |
| | 杉山明男 | 桜泳会 | 1:15.2 | (19) | " | 29-8-13 | 日本選手権 |
| | 宮下宗重 | 橋本高会 | 1:15.2 | (17) | " | 31-8-18 | 日本高校 |
| 26 | 梶川孝義 | 稲泳会 | 1:15.4② | (18) | " | 28-7-30 | 日本選手権 |
| 27 | 小島孟 | 法政二高 | 1:15.4 | (17) | 山梨 | 31-8-5 | 関東高校 |
| 28 | 中村仁三 | 八幡製鉄 | 1:15.6② | (23) | 神宮 | 28-8-2 | 日本選手権 |
| 29 | 若林国達 | 関学大 | 1:15.7 | (20) | 大阪 | 30-9-4 | 関西学生 |
| 30 | 水貝利重 | 早大 | 1:15.8 | (22) | 神宮 | 28-9-11 | 日本学生 |
| | 大石竜一 | 桜泳会 | 1:15.8 | (19) | " | 29-8-14 | 日本選手権 |
| 32 | 小手川寛 | 旭化成 | 1:15.9 | (21) | 山口 | 31-7-22 | 西部実業団 |
| 33 | 長久俊三 | 慶大 | 1:16.0② | (23) | 神宮 | 14-9-16 | 日本学生 |
| 34 | 伊藤三郎 | 明大 | 1:16.0 | (22) | " | 12-8-14 | 日本選手権 |
| | 大浦誠一郎 | 立大 | 1:16.0 | (20) | " | 15-9-15 | 日本学生 |
| | 藤垣亮太郎 | 近水 | 1:16.0 | (23) | 宝塚 | 22-7-13 | 近畿選手権 |
| | 秋満真 | 白水会 | 1:16.0 | (18) | 神宮 | 29-8-14 | 日本選手権 |
| 38 | 石井弘 | 駿台ク | 1:16.1② | (21) | " | 31-8-10 | " |
| 39 | 岡田達男 | 日大 | 1:16.2 | (22) | " | 9-9-14 | 全国学生 |
| | 野田務 | 明大 | 1:16.2 | (19) | " | 12-9-17 | 日本学生 |
| | 平山綽保 | 日大 | 1:16.2 | (20) | " | 28-9-13 | " |
| | 藤丸武 | 聖ポール | 1:16.2 | (19) | " | 31-8-10 | 日本選手権 |
| 43 | 林慶輔 | 八幡製鉄 | 1:16.3 | (20) | 白杵 | 31-6-3 | 三市対抗 |
| 44 | 宇田久寿秀 | 日大 | 1:16.4② | (21) | 神宮 | 24-7-22 | 日本選手権 |
| | 藤田享弘 | 橋本高 | 1:16.4② | (17) | " | 31-8-18 | 日本高校 |
| 46 | 大谷勝 | 法政二高 | 1:16.4 | (17) | 振甫 | 28-8-30 | " |
| | 田子森政明 | 明善高 | 1:16.4 | (16) | 瀬高 | 31-7-22 | 福岡高校 |
| | 山田長利 | 大島高 | 1:16.4 | (17) | 神宮 | 31-8-18 | 日本高校 |
| 49 | 若林博義 | 慶大 | 1:16.5 | (19) | " | 31-9-7 | 日本学生 |
| (日) 50 | 鶴田義行 | 明大 | 1:16.6 | (28) | " | 6-10-3 | 日本選手権 |
| | 下阪篤 | 日大 | 1:16.6 | (19) | " | 25-7-24 | " |
| | 寺崎博之 | 桜泳会 | 1:16.6 | (20) | " | 29-8-14 | " |

200m 平泳

(潜水を認めた記録)

| 順 | 氏名 | 所属 | 時間 | 年令 | 場所 | 年月日 | 大会名 |
|-------|------|-----|---------|------|-------|---------|--------|
| (日) 1 | 古川勝 | 日大 | 2:33.2 | (20) | 神宮 | 31-9-8 | 日本学生 |
| 2 | 吉村昌弘 | 日本 | 2:36.7 | (20) | メルボルン | 31-12-6 | オリンピック |
| 3 | 胡麻鶴寿 | " | 2:37.6 | (22) | 大阪 | 30-8-14 | 日米大阪 |
| 4 | 増田勲 | 日大 | 2:38.4 | (18) | 神宮 | 31-9-8 | 日本学生 |
| 5 | 木村基 | 城東高 | 2:39.8② | (17) | 高知 | 30-7-2 | 高知選手権 |
| (日) 6 | 葉室鉄夫 | 日大 | 2:40.4② | (19) | 神宮 | 12-8-16 | 日本選手権 |
| 7 | 田中守 | 早大 | 2:40.4 | (21) | " | 29-9-11 | 日本学生 |

| | | | | | | | |
|--------|-------|------|---------|------|--------|---------|--------|
| | 戸上雅雄 | 桜泳会 | 2:40.4 | (20) | 神宮 | 30-7-22 | 日本選手権 |
| 9 | 太田勝 | 早大 | 2:41.1 | (20) | " | 31-9-8 | 日本学生 |
| (日) 10 | 小池礼三 | 慶大 | 2:41.2 | (19) | " | 10-8-5 | 日米予選会 |
| 11 | 木村靖 | 立大 | 2:42.0 | (20) | " | 31-9-8 | 日本学生 |
| 12 | 永井正員 | 太田高 | 2:43.4 | (17) | " | 31-8-19 | 日本選手権 |
| 13 | 窪昭博 | 五条高 | 2:43.6 | (18) | 大阪 | 30-6-26 | 関西選手権 |
| | 石井弘 | 駿台ク | 2:43.6 | (21) | 神宮 | 31-9-8 | 日本学生 |
| 15 | 大浦誠一郎 | 立大 | 2:43.8② | (20) | 立大 | 15-6-10 | 立大記録会 |
| 16 | 大豊地守 | " | 2:43.9 | (19) | 神宮 | 31-9-8 | 日本学生 |
| 17 | 梶川孝義 | 稲泳会 | 2:44.4② | (18) | " | 28-7-30 | 日本選手権 |
| 18 | 大石竜一 | 日大 | 2:44.6 | (20) | " | 30-6-12 | 三大学対抗 |
| | 中沢潔 | 稲泳会 | 2:44.6 | (21) | " | 30-7-23 | 日本選手権 |
| 20 | 藤垣亮太郎 | 早大 | 2:45.0 | (19) | " | 18-7-11 | 関東選手権 |
| | 秋満真 | 白水会 | 2:45.0 | (18) | " | 29-8-15 | 日本選手権 |
| | 塚本尋 | 中大 | 2:45.0 | (18) | " | 29-9-11 | 日本学生 |
| 23 | 野田務 | 明大 | 2:45.2 | (19) | " | 12-8-16 | 日本選手権 |
| | 清池健蔵 | 中大 | 2:45.2 | (18) | " | 28-9-12 | 日本学生 |
| 25 | 清鶴田義行 | 日本 | 2:45.4 | (28) | ロサンゼルス | 7-8-12 | オリンピック |
| 26 | 伊藤三郎 | " | 2:45.5 | (21) | ベルリン | 11-8-13 | " |
| | 林慶輔 | 八幡製鉄 | 2:45.5 | (20) | 山口 | 30-9-11 | 西部実業団 |
| 28 | 木村隆司 | 和歌山県 | 2:45.6 | (17) | 甲子園 | 31-9-23 | 国体高校 |
| 29 | 杉山明男 | 桜泳会 | 2:45.8 | (19) | 神宮 | 29-8-13 | 日本選手権 |
| 30 | 板井道生 | 中大 | 2:46.0 | (20) | " | 28-9-12 | 日本学生 |
| | 西前義貞 | 中大 | 2:46.0 | (18) | " | 30-9-10 | " |
| 32 | 宇田久寿秀 | 日大 | 2:46.4 | (21) | " | 24-7-22 | 日本選手権 |
| | 広達夫 | 中大 | 2:46.4 | (22) | " | 29-9-11 | 日本学生 |
| 34 | 林田陸夫 | 日大 | 2:46.6 | (16) | " | 11-9-20 | " |
| | 大谷勝 | 法政二高 | 2:46.6 | (17) | 振甫 | 28-8-29 | 日本高校 |
| | 水貝利重 | 早大 | 2:46.6 | (22) | 神宮 | 28-9-12 | 日本学生 |
| 37 | 辻野浩 | 中大 | 2:46.7 | (20) | " | 31-9-7 | " |
| 38 | 仙葉元昭 | 成蹊高 | 2:46.8 | (17) | " | 29-8-22 | 日本高校 |
| | 五味茂雄 | 日大 | 2:46.8 | (20) | " | 25-7-24 | 日本選手権 |
| | 宮下宗重 | 橋本高 | 2:46.8 | (17) | " | 31-8-19 | 日本高校 |
| | 小島孟 | 法政二高 | 2:46.8 | (18) | " | " | " |
| 42 | 藤家衛 | 立大 | 2:47.0 | (21) | " | 29-6-6 | 三大学対抗 |
| | 鈴木富士夫 | 中京商 | 2:47.0 | (16) | 浜松 | 30-6-26 | 浜名高校 |
| 44 | 北野正武 | 法政犬 | 2:47.1 | (19) | 大阪 | 31-6-17 | 法大対関大 |
| 45 | 吉村喜代造 | 日大 | 2:47.2 | (18) | 神宮 | 15-8-2 | 関東選手権 |
| 46 | 秋浜敏郎 | 国泰寺高 | 2:47.3 | (17) | 船岡隼 | 31-8-4 | 中国高校 |
| 47 | 古川敏 | 早大 | 2:47.6 | (18) | 神宮 | 14-9-17 | 日本学生 |
| | 鈴木重一 | 法政大 | 2:47.6 | (18) | " | 18-7-11 | 関東選手権 |
| | 下阪篤 | 日大 | 2:47.6 | (18) | " | 24-9-9 | 日本学生 |
| | 大山勝 | 法政二高 | 2:47.6 | (17) | " | 30-8-21 | 日本高校 |

| | | | | | | |
|------|------|--------|------|----|---------|------|
| 和氣統 | 瀬戸田中 | 2.47.6 | (14) | 吳市 | 31-8-26 | 全国通信 |
| 若林博義 | 慶大 | 2:47.6 | (19) | 神宮 | 31-9-7 | 日本学生 |

100m 平泳

(潜水を認めない記録)

| 順 | 氏名 | 所属 | 時間 | 年令 | 場所 | 年月日 | 大会名 |
|-------|--------|-------|---------|------|-----|---------|-------|
| (日) 1 | 増田 勲 | 日本 | 1:12.6 | (21) | 大阪 | 34-7-26 | 日米大阪 |
| (日) 2 | 古川 勝 | 日大 | 1:13.3 | (21) | 神宮 | 32-9-8 | 日本学生 |
| | 木村 基 | 日本 | 1:13.3 | (21) | 大阪 | 34-7-26 | 日米大阪 |
| 4 | 中川 清 | 早大 | 1:14.0 | (19) | 神宮 | 34-9-13 | 日本学生 |
| 5 | 太田 勝 | " | 1:14.3② | (22) | " | 33-9-7 | " |
| 6 | 大崎 剛彦 | " | 1:14.3 | (19) | " | " | " |
| 7 | 吉村 昌彦 | 桜泳会 | 1:14.6 | (21) | " | 33-8-14 | 日本選手権 |
| | 篠田 博史 | 白水会 | 1:14.6 | (20) | 都屋内 | 35-4-3 | 室内選手権 |
| 9 | 永井 正員 | 桜泳会 | 1:14.7 | (19) | 神宮 | 33-8-14 | 日本選手権 |
| 10 | 敷石 義秋 | 山鹿高OB | 1:14.9 | (18) | 都屋内 | 35-4-3 | 室内選手権 |
| 11 | 山中 堂志 | 白水会 | 1:15.0③ | (20) | 神宮 | 34-7-10 | 日本学生 |
| 12 | 菊地 満隆 | 富鉄釜石 | 1:15.0 | (21) | 大阪 | 34-8-30 | 全国勤労者 |
| 13 | 重松 盛人 | 今治北高 | 1:15.1 | (16) | 高知 | 34-8-8 | 四国高校 |
| 14 | 塚本 尋務 | 中大 | 1:15.2 | (21) | 神宮 | 32-9-6 | 日本学生 |
| | 杉山 明男 | 日大 | 1:15.2 | (22) | 高知 | 32-9-14 | 日大対高知 |
| 16 | 名倉 健蔵 | SBタイヤ | 1:15.4 | (19) | 大阪 | 34-8-30 | 全国勤労者 |
| 17 | 梶川 孝義 | 常磐炭鉱 | 1:15.5 | (22) | 鎌倉 | 32-9-1 | " |
| | 高木 憲一 | 五条高 | 1:15.5 | (18) | 天理 | 34-8-2 | 奈良高校 |
| 19 | 豊池 守英 | 聖ポール | 1:15.6 | (20) | 神宮 | 32-8-18 | 日本選手権 |
| | 宮本 宗重 | 山鹿高 | 1:15.6 | (17) | 高知 | 33-8-23 | 日本高校 |
| | 宮下 宗重 | 日大 | 1:15.6 | (21) | 都屋内 | 35-4-3 | 室内選手権 |
| 22 | 三木 圭三 | 白水会 | 1:15.7 | (20) | 神宮 | 32-8-18 | 日本選手権 |
| | 平井 牧立 | 立大 | 1:15.7 | (22) | " | 33-9-7 | 日本学生 |
| | 和氣 統彦 | 瀬戸田OB | 1:15.7 | (18) | 都屋内 | 35-4-3 | 室内選手権 |
| 25 | 中村 昌彦 | 宇和島高 | 1:15.9 | (17) | 高知 | 33-8-23 | 日本高校 |
| 26 | 樋口 裕 | 高知商高 | 1:16.0 | (17) | " | 34-6-27 | 高知選手権 |
| 27 | 松浦 正恒 | 宇和島東 | 1:16.2② | (17) | " | 33-8-23 | 日本高校 |
| | 衛藤 孝 | 臼杵高 | 1:16.2② | (17) | 臼杵 | 33-8-16 | 国体大分 |
| 29 | 加藤 浩時 | 中京商 | 1:16.2 | (17) | 振甫 | 34-6-28 | 愛知選手権 |
| 30 | 溝口 啓輔 | 明大 | 1:16.3 | (20) | 神宮 | 34-9-11 | 日本学生 |
| | 谷 譲二 | 立大 | 1:16.3 | (21) | " | " | " |
| 32 | 鈴木 吉孝 | 九州 | 1:16.5 | (17) | 瀬高 | 33-6-22 | 日大対九州 |
| 33 | 木村 隆司 | 川崎重工 | 1:16.6 | (20) | 大阪 | 34-8-30 | 全国勤労者 |
| 34 | 提 勲 | 大阪交通局 | 1:16.8 | (19) | " | 33-8-3 | 大阪選手権 |
| | 吉田 猛 | 臼杵高 | 1:16.8 | (17) | 臼杵 | 34-8-30 | 国体大分 |
| 36 | 福井 甫 | 立命大 | 1:17.0 | (19) | 大阪 | 33-8-30 | 関西学生 |
| | 野々村 嘉昭 | 長良高 | 1:17.0 | (17) | 岐阜 | 33-8-31 | 岐阜県高校 |
| | 梶原 時光 | 明善高 | 1:17.0 | (17) | 石橋 | 34-8-30 | 国体福岡 |

| | | | | | | | |
|----|-------|-------|---------|------|-----|---------|-------|
| 39 | 三井公慶 | 大 | 1:17.1 | (19) | 神宮 | 33-9-7 | 日本学生 |
| 40 | 中川平悟 | 日体大 | 1:17.3 | (20) | " | 32-9-8 | " |
| | 岡崎貞彦 | 高知商高 | 1:17.3 | (16) | 高知 | 34-9-13 | 高知体育 |
| 42 | 渡辺成孝 | 同志社大 | 1:17.4 | (21) | 大阪 | 33-8-30 | 関西学生 |
| | 松本健次郎 | 佐伯鶴城 | 1:17.4 | (15) | 熊本 | 34-8-9 | 九州高校 |
| | 日下部礼二 | 神港新聞 | 1:17.4 | (21) | 大阪 | 34-8-29 | 全国勤労者 |
| 45 | 滝沢進 | 専修大 | 1:17.6② | (21) | 神宮 | 34-9-5 | 関東学生 |
| 46 | 山脇謙治 | 近畿大 | 1:17.6 | (19) | 大阪 | 32-8-31 | 関西学生 |
| | 中田馨二郎 | 東筑高OB | 1:17.6 | (18) | 都屋内 | 35-4-3 | 室内選手権 |
| 48 | 藤田享弘 | 福岡県 | 1:17.7 | (20) | 大分 | 34-7-5 | 九州各県 |
| | 森昭 | 関学大 | 1:17.7 | (19) | 大阪 | 34-9-5 | 関西学生 |
| 50 | 芦谷文夫 | 立命大 | 1:17.8 | (23) | " | 32-8-31 | " |
| | 中野勇治 | 中国 | 1:17.8 | (18) | 恩田 | 34-7-19 | 中国対九州 |
| | 木村智彦 | 掛川西高 | 1:17.3 | (18) | 都屋内 | 35-4-3 | 室内選手権 |

200m 平 泳

(潜水を認めない記録)

| 順 | 氏名 | 所属 | 時間 | 年令 | 場所 | 年月日 | 大会名 |
|-------|--------|-------|--------|------|-----|---------|-------|
| (日) 1 | 増田 勲 | 日本 | 2:39.3 | (21) | 神宮 | 34-7-21 | 日米対抗 |
| 2 | 木村 基 | " | 2:40.7 | (21) | " | " | " |
| 3 | 大崎 剛彦 | " | 2:41.5 | (20) | 呉 | 34-7-29 | 日米豪国際 |
| (日) 4 | 古川 勝 | 日大 | 2:42.0 | (21) | 神宮 | 32-9-7 | 日本学生 |
| 5 | 豊池 守 | 聖ポール | 2:42.1 | (20) | " | 32-8-16 | 日本選手権 |
| 6 | 太田 勝 | 早大 | 2:42.3 | (22) | " | 33-9-6 | 日本学生 |
| 7 | 吉村 昌弘 | 日本 | 2:42.5 | (21) | 大阪 | 33-8-23 | 日豪大阪 |
| 8 | 中川 清 | 稲泳会 | 2:42.7 | (19) | 都屋内 | 35-4-2 | 室内選手権 |
| 9 | 篠田 博史 | 白水会 | 2:42.9 | (19) | " | " | " |
| 10 | 高木 憲一 | 五条高 | 2:43.2 | (18) | 天理 | 34-8-2 | 奈良高校 |
| | 重松 盛人 | 今治北高 | 2:43.2 | (16) | 高知 | 34-8-9 | 四国高校 |
| | 敷石 義秋 | 山鹿高OB | 2:43.2 | (18) | 都屋内 | 35-4-2 | 室内選手権 |
| 13 | 菊地 満隆 | 富鉄釜石 | 2:44.2 | (21) | 大阪 | 34-8-29 | 全国勤労者 |
| 14 | 和気 統 | 瀬戸田OB | 2:44.5 | (18) | 都屋内 | 35-4-2 | 室内選手権 |
| 15 | 永井 正員 | 日大 | 2:44.6 | (19) | 神宮 | 33-7-6 | 日大対中大 |
| 16 | 山中 堂志 | 中大 | 2:44.9 | (20) | " | 34-9-12 | 日本学生 |
| 17 | 宮下 宗重 | 日大 | 2:45.2 | (21) | 都屋内 | 35-4-2 | 室内選手権 |
| 18 | 名倉 健蔵 | BSタイヤ | 2:45.6 | (19) | 大阪 | 34-8-29 | 全国勤労者 |
| 19 | 末竹 国夫 | 臼杵商高 | 2:46.0 | (17) | 臼杵 | 34-8-30 | 国体大分 |
| 20 | 松本 健次郎 | 大分県 | 2:46.2 | (15) | 大分 | 34-7-5 | 九州各県 |
| 21 | 梶川 孝義 | 常磐炭鉱 | 2:46.6 | (22) | 鎌倉 | 32-8-31 | 全国勤労者 |
| | 岡崎 貞彦 | 高知商高 | 2:46.6 | (16) | 高知 | 34-9-13 | 高知体育 |
| 23 | 中村 昌彦 | 字和島東高 | 2:46.7 | (17) | " | 33-8-24 | 日本高校 |
| 24 | 杉山 明男 | 日大 | 2:47.0 | (22) | 神宮 | 32-9-6 | 日本学生 |
| 25 | 東 英明 | 明大 | 2:47.2 | (18) | " | 34-9-11 | " |
| 26 | 三木 圭三 | 白水会 | 2:47.3 | (20) | " | 32-8-16 | 日本選手権 |

| | | | | | | | |
|----|-------|-------|--------|------|-----|---------|-------|
| 28 | 衛藤孝 | 白杵高 | 2:47.4 | (16) | 白杵 | 34-6-21 | 大分県予選 |
| 29 | 仙葉元昭 | 成蹊大 | 2:47.4 | (21) | 神宮 | 33-8-31 | 関東学生 |
| | 福井甫 | 立命大 | 2:47.5 | (19) | 大阪 | 33-8-31 | 関西学生 |
| | 平井牧 | 立大 | 2:47.5 | (22) | 神宮 | 33-9-6 | 日本学生 |
| | 樋口裕 | 高知商OB | 2:47.5 | (18) | 都屋内 | 35-4-2 | 室内選手権 |
| 32 | 塚本尋務 | 中大 | 2:47.7 | (21) | 神宮 | 32-9-7 | 日本学生 |
| | 宮本英 | 山鹿高 | 2:47.7 | (17) | 高知 | 33-8-22 | 日本高校 |
| 34 | 渡辺成孝 | D S C | 2:47.9 | (22) | 西京極 | 34-6-28 | 京都選手権 |
| 35 | 中田馨二郎 | 東筑高 | 2:48.0 | (18) | 浜松 | 34-8-22 | 日本高校 |
| 36 | 佐藤行男 | 早大 | 2:48.1 | (19) | 瀬高 | 34-8-2 | 早大対九州 |
| | 野々村嘉昭 | 長良高 | 2:48.1 | (17) | 振甫 | 34-8-10 | 中部高校 |
| 38 | 滝沢進 | 専修大 | 2:48.2 | (21) | 神宮 | 34-9-11 | 日本学生 |
| | 木村智彦 | 掛川西OB | 2:48.2 | (18) | 都屋内 | 35-4-2 | 室内選手権 |
| 40 | 川南宏一 | 鶴谷中 | 2:48.4 | (14) | 白杵 | 34-8-30 | 全国通信 |
| 41 | 加藤浩時 | 中京商高 | 2:48.6 | (17) | 振甫 | 34-7-31 | 日米豪交歓 |
| 42 | 辻野浩 | 中大 | 2:48.8 | (22) | 神宮 | 33-9-5 | 日本学生 |
| 43 | 木曾雄吉 | 立大 | 2:49.1 | (19) | 〃 | 34-9-11 | 〃 |
| 44 | 川辺富久 | 鶴見工高 | 2:49.2 | (16) | 鎌倉 | 33-8-17 | 国体神奈川 |
| | 中本周作 | 五条高 | 2:49.2 | (18) | 天理 | 34-8-2 | 奈良高校 |
| | 平野満 | 天理高 | 2:49.2 | (15) | 〃 | 34-8-30 | 国体奈良 |
| | 溝口啓輔 | 明大 | 2:49.2 | (20) | 神宮 | 34-9-11 | 日本学生 |
| 48 | 鈴木富士夫 | 東芝 | 2:49.3 | (20) | 鎌倉 | 33-8-17 | 国体神奈川 |
| | 木村隆司 | 川崎重工 | 2:49.3 | (20) | 大阪 | 34-8-28 | 全国勤労者 |
| 50 | 吉田猛 | 白杵高 | 2:49.4 | (17) | 白杵 | 34-8-30 | 国体大分 |

ローマ・オリンピック大会も愈々近づいたが、今度の大会で水泳は何個のメダルを獲得するだろうか、注目の的となっているがアムステルダムよりメルボルン大会までの5回の大会で水泳が獲得したメダルの数は次の通りとなっている。

| 氏名 | 金 | 銀 | 銅 |
|-------|-------------|---------|--------|
| 高石勝男 | | 1 800リ | 1 100自 |
| 新井信男 | | 1 〃 | |
| 米山弘 | | 1 〃 | |
| 佐田徳平 | | 1 〃 | |
| 鶴田義行 | 2 200平・200平 | | |
| 宮崎康二 | 2 100自・800リ | | |
| 河石達吾 | | 1 100自 | |
| 大横田勉 | | | 1 400自 |
| 北村久寿雄 | 1 1500自 | | |
| 牧野正藏 | | 1 1500自 | 1 400自 |
| 小池礼三 | | 1 200平 | 1 200平 |
| 清川正二 | 1 100背 | | 1 100背 |
| 入江稔夫 | | 1 100背 | |
| 河津憲太郎 | | | 1 100背 |

| | | | |
|-------|-------------|--------------|---------|
| 遊佐正憲 | 2 800リ・800リ | 1 100自 | |
| 豊田久吉 | 1 800リ | | |
| 横山隆志 | 1 800リ | | |
| 前畑秀子 | 1 200平 | 1 200平 | |
| 新井茂雄 | 1 800リ | | 1 100自 |
| 鵜藤俊平 | | 1 400自 | 1 1500自 |
| 寺田登 | 1 1500自 | | |
| 葉室鉄夫 | 1 200平 | | |
| 杉浦重雄 | 1 800リ | | |
| 田口正治 | 1 800リ | | |
| 鈴木弘 | | 2 100自・800リ | |
| 橋爪四郎 | | 1 1500自 | |
| 後藤暢 | | 1 800リ | |
| 浜口喜博 | | 1 800リ | |
| 谷川禎治郎 | | 1 800リ | |
| 山中毅 | | 2 400自・1500自 | |
| 古川勝 | 1 200平 | | |
| 吉村昌弘 | | 1 200平 | |
| 石本隆 | | 1 200平 | |
| | 17 | 21 | 8 |



坂本宗隆

アメリカ

○レインウッド招待 1/30~31 50m

| | | |
|---------|-----------|-------------|
| 女 400自 | 1. ハウス ⑭ | 5:08.6 |
| 〃 1500自 | 1. 〃 | 20:05.6(米新) |
| 〃 100バ | 1. ボトキン ⑯ | 1:12.6 |
| 〃 200バ | 1. ルースカ | 2:42.4 |

○全米学生選手権 3/24~26 ダラス 25y

| | | |
|--------|---------------|-------------------|
| 50y自 | 1. ハンター | 21.9 |
| | 2. パークス | 22.5 |
| | 3. マクデヴィット | 22.5 |
| 100y自 | 1. ヴラスク | 49.4 |
| | 2. レガッキー | 49.5 |
| | 3. パークス | 49.9 |
| | 4. マクデヴィット | 50.0 |
| | 5. ヘンリックス (豪) | 50.4 |
| 220y自 | 1. ウィンターズ | 2:02.1 |
| | 2. ハリスン | 2:02.3 |
| | 3. シンツ | 2:03.0 |
| | 4. プレアー (南ア) | 2:03.2 |
| 440y自 | 1. ラウンサヴェル | 4:24.5 |
| | 2. ハリスン | 4:24.5 |
| | 3. プレアー (南ア) | 4:24.7 |
| | 4. シンツ | 4:25.0 |
| 1500m自 | 1. チェーズ ⑳ | 17:48.7(米学新) |
| | 2. ダーントン ㉑ | 17:52.6 |
| | 3. ハリスン | 17:53.9 |
| 100y平 | 1. ベターセン | 1:01.1(米新) 1:03.1 |
| | 2. クラーク | 1:03.5 |
| 200y平 | 1. 〃 | 2:17.6(米新) |
| | 2. ムリケン | 2:19.0 |
| 100yバ | 1. トロイ | 53.1 |
| | 2. ラースン | 53.2 |

| | | |
|--------|----------------------------------|------------|
| | 3. デヴァイン | 53.9 |
| 200yバ | 1. トロイ | 1:57.8(米新) |
| | 2. デヴァイン | 2:02.2 |
| | 3. パートン | 2:02.8 |
| 100y背 | 1. ビティック | 54.4(米新) |
| | 2. マッキニー | 55.3 |
| 200y背 | 1. ビティック | 2:00.1 |
| | 2. ビーヴァー | 2:05.1 |
| 400y継 | 1. 南カリフォルニア大 | 3:18.5 |
| | (ラースン, モールトン, レディントソ, ヘンリックス) | |
| 400y縄継 | 1. インディアナ大 | 3:40.8 |
| | (マッキニー, ミキ, トロイ, シンツ) | |

○全米室内選手権 3/31~4/2 ニューヘブン

25y (1500m自のみ 50mコース)

| | | | |
|-------|----------|------------|------------|
| 100y自 | 1. ファーレル | 48.9 | 48.2(米新) |
| | 2. カウフマン | 49.5 | 48.8 |
| | 3. ハンター | 49.1 | 49.1 |
| | 4. ラースン | 49.2 | 49.1 |
| | 5. クラーク | 48.8 | 49.4 |
| | 6. アルカイヤ | 49.6 | 49.5 |
| 220y自 | 1. ファーレル | 2:01.0(米新) | 2:00.2(米新) |
| | 2. ハリスン | 3:03.9 | 2:03.1 |
| | 3. ブリック | 2:04.3 | 2:04.0 |
| | 4. シンツ | 2:04.0 | 2:04.6 |
| | 5. ヴァース | 2:04.0 | 2:04.9 |

予選でヘンリックス 2:05.5, ソマーズ 07.1, ブリ
ーン 10.2 でいづれも落選

| | | | |
|--------|----------------|--------|---------------|
| 440y自 | 1. ソマーズ | 4:27.1 | 4:22.6 |
| | 2. ハリスン | 4:25.7 | 4:23.8 |
| | 3. チェーズ | 4:28.5 | 4:24.2 |
| | 4. ラウンサヴェル | 4:26.6 | 4:25.3 |
| | 5. シンツ | 4:29.1 | 4:26.1 |
| | 6. ブリーン | 4:26.8 | 4:28.4 |
| 1500m自 | 1. 〃 | | 18:00.8 |
| | 2. ソマーズ | | 18:09.7 |
| | 3. チェーズ | | 18:34.1 |
| | 4. ダーントン | | 18:43.8 |
| | 5. バーガス | | 18:50.3 |
| | 6. グズマン (墨) | | 18:55.1 |
| 100y平 | 1. ネルスン | 1:02.8 | 1:02.4 |
| | 2. マンシュ | 1:04.4 | 1:03.9 |
| | 3. ジャストレムスキー | | 1:03.6 1:04.0 |
| | 4. ラビノヴィッチ (加) | | 1:04.0 1:04.3 |

| | | | |
|--------|--------------|------------|-----------------------------------|
| 220y平 | 1. ムリケン | 2:37.9 | 2:34.8(米新) |
| | 2. クラーク | 2:35.6 | 2:34.9 |
| 100yバ | 1. トロイ | 53.4 | 53.1(米新) |
| | 2. レガッキー | 53.5 | 53.3 |
| | 3. デヴァイン | 54.4 | 54.1 |
| 220yバ | 1. トロイ | 2:16.8(米新) | 2:12.4(米新) |
| | 2. ラースン | 2:18.2 | 2:15.9 |
| | 3. ラウンサヴェル | 2:18.4 | 2:17.8 |
| | 4. デヴァイン | 2:25.0 | 2:20.0 |
| 100y背 | 1. ビティック | 55.2 | 54.4(米新) |
| | 2. シェーファー | 56.3 | 55.4 |
| | 3. マッキニー | 56.3 | 56.1 |
| 220y背 | 1. ビティック | 2:16.9 | 2:13.1(米新) |
| | 2. マッキニー | 2:15.9(米新) | 2:14.9 |
| | 3. マセド | 2:19.2 | 2:17.2 |
| 200y混 | 1. マギル | 2:05.3 | 2:03.3 |
| | 2. ウオルフ | 2:06.3 | 2:05.3 |
| 400y混 | 1. ハリスン | 4:31.2(米新) | 4:28.6(米新) |
| | 2. ラースン | 4:37.4 | 4:30.7 |
| 440y継 | 1. 南カリフォルニア大 | 3:16.0(米新) | (ラースン, ウインターズ, レディントン, ヘンリックス) |
| | 2. ニューヘブン | 3:16.4 | |
| 400y混継 | 1. 南カリフォルニア大 | 3:42.0 | (ビティック, ラースン, デヴァイン, ヘンリックス) |
| 1m飛板 | 1. ホール | 440.10 | |
| | 2. ゴーマン | 420.10 | |
| | 3. ゲルラッハ | 392.10 | |
| 3m飛板 | 1. ゲルラッハ | 446.65 | |
| | 2. ハーパー | 432.80 | |
| | 3. ホール | 420.50 | |

得点: ①南カリフォルニア大 79 ②ニューヘブ
ン64 ③ハードード大25

個人得点: ①ハリスン17 ②ビティック16

南加大学(ローズは不出場)は3連勝, ニューヘブンのエール大学は南加大におさえられ3年2位に甘んじている。ハーバードは短距離に選手を揃え3位に進出してきた。

アメリカの室内シーズンは, すべて短水路で, 距離もメーター制と合致しないものが多いため, 比較が困難ではあるが, 全般的に層が厚く, 豪州よりも幾分充実しているように思われる。これからの戸外シーズンの成績が見ものである。

南 米

| | | | |
|-----------|--------------|-------|--------|
| ○プエノスアイレス | 1/15 | | |
| 100mバ | 1. ニコラオ | | 1:03.4 |
| ○南米選手権 | 2/5~14 | コロンビア | カリ |
| 100m自 | 1. ドスサントス(伯) | | 58.4 |
| 100m平 | 1. ブエノ(〃) | | 1:17.2 |
| 100mバ | 1. ニコラオ(亜) | | 1:03.5 |
| | 2. ファンフル(〃) | | 1:04.5 |
| 200mバ | 1. 〃 | | 2:24.7 |
| 100m背 | 1. ディズ(亜) | | 1:07.2 |
| 200m背 | 1. 〃 | | 2:27.5 |

南 ア フ リ カ

| | | | |
|-------------------|-------------|--------------|-------------|
| ○北トランスヴァール選手権(南阿) | 2/16 | 長水路 | |
| 女110y自 | ブレアー | | 1:04.3(南ア新) |
| ○南ア選手権 | 3/上旬 | 50m海水 | |
| 100m自 | 1. ウイルスン | | 59.2 |
| 200m自 | 1. マクラクラン | | 2:06.5(南ア新) |
| 400m自 | 1. 〃 | | 4:33.4(〃) |
| 1500m自 | 1. 〃 | | 18:30.6 |
| 100m背 | 1. マクゴワン | | 1:07.6 |
| 400m混 | 1. マクラクラン | | 5:22.4(南ア新) |
| 800m継 | 1. トランスヴァール | | 8:54.3 |
| 女100m自 | 1. マイボー | 1:06.5 | 1:06.7 |
| | 2. ブレアー | 1:06.1 | |
| 〃200m自 | 1. サルトマン | 2:26.9 | 2:26.9 |
| | 2. マイボー | 2:26.4 | 2:27.2 |
| 〃400m自 | 1. 〃 | 5:14.0(南ア新) | |
| | 2. サルトマン | 5:15.9 | |
| | 3. ウイルスン | 5:15.7 | 5:16.4 |
| 〃800m自 | 1. 〃 | 10:48.3(南ア新) | |

中 共

| | | | |
|-----------|--------|----|-------------|
| ○海軍, 上海友好 | 4/18 | 上海 | 50m |
| 200mバ | 1. 曾紀文 | | 2:25.7(中共新) |

イ タ リ ー

| | | | |
|--------|------------|---------|----------------|
| ○ローマ | 3/中旬 | | |
| 200mバ | 1. デネルレイン | | 2:22.8 |
| 100m背 | 1. アヴェロン | | 1:06.8 |
| | 2. ショルメイヤー | | 1:06.8 |
| ○春季選手権 | 4/下旬 | フォロイタリコ | 50m |
| 100m自 | 1. ペロンディニ | | 57.6 |
| 200m自 | 1. デネルレイン | | 2:08.1(伊新) |
| 200mバ | 1. 〃 | | 2:18.0(欧新) |
| | | (31.2 | 1:05.3 1:42.0) |
| 100m背 | 1. エルサ | | 1:06.9 |
| | 2. ショルメイヤー | | 1:06.9 |

ジュニア
100m背 1. アヴェロン 1:06.7

ハンガリー

○ブダペスト 4/上旬
800m自 1. カトナ 9:38.4(洪新)
100m平 1. クンサギ 1:14.8
200m背 1. チャカニー 2:25.1

西ドイツ

○チューリッヒ (スイス) 3/12
女100m平 1. ウルセルマン (37.0)1:19.1(世新)
//200m平 1. // 2:51.9

イギリス

○カーディフ 4/9 55y
110y自 1. クラーク 58.0
220y自 1. マーティンダイ 2:10.9
440y自 1. ブラック 4:32.7
220y平 1. ローリンソン 2:45.7
110y背 1. サイクス 1:04.2
女110y自 1. ステュワード 1:04.7(英新)
2. ウイルキンソン 1:05.9
3. ノアクス 1:06.0
//440y自 1. サムエル 5:12.4
//220y平 1. ゴスデン 2:56.1
2. ロンスブロー 2:57.0
//110y背 1. ステュワード 1:13.1
2. エドワーズ 1:14.6

○イギリス対ソ連 4/29~30 ブラックプール
(ロンドン郊外) ダービーバス 55y 塩
米、豪およびオランダと肩を並べるイギリスの女子
陣に対して、日本やフランス級のソ連は、元より不利は
まぬがれないが、遠征の疲労か男子も意外に不振で、各
種目の首位も大部分はイギリスに奪われ、総合得点
106-75で惨敗した。

男子

110y自 1. コノブレフ (ソ) 57.8
2. ルイコフスキー (ソ) 58.0
3. ケンドリュウ 58.2
440y自 1. ブラック 4:27.5(欧新)
2. アンドロソフ (ソ) 4:38.8
1650y自 1. チャンピオン ⑩ 18:52.4
2. パプコ (ソ) 18:53.8
220yバ 1. ブラック 2:18.9
110y背 1. サイクス 1:05.1

2. マンドルイキン (ソ) 1:05.8
3. クワルディン (ソ) 1:05.9
440y混継 1. ソ連 4:20.5
2. イギリス 4:20.8

女子

110y自 1. ステュワード 1:05.1
2. フーグ (ソ) 1:06.4
440y自 1. ロー 5:05.1
2. サムエル 5:14.1
220y平 1. ゴスデン 2:55.0
2. ロンスブロー 2:57.5
110yバ 1. ワット 1:13.5
2. バインズ 1:14.0
110y背 1. ステュワード 1:12.6
2. エドワーズ 1:12.8
3. ヴィクトロワ (ソ) 1:13.0
440y継 1. イギリス 4:27.0

なお、男子 220y平、880y継および女子 440y 混継
は不明。

ソ連

○ブラウダ杯 4/7~10 キエフ 50m
100m自 1. コノブレフ 57.2
2. モルガチュフ 57.9
3. ルイコフスキー 58.1
4. ポタニン 58.2
5. エフレモフ 58.3
400m自 1. アンドロソフ 4:35.7
2. ニキーティン 4:38.3
3. ニコラーエフ 4:38.3
1500m自 1. ラヴリネンコ 18:30.6
2. パプコ 18:33.5
3. セミヨーノフ 18:39.9
200m平 1. アントニアン 2:40.7
2. コレスニコフ 2:40.9
3. ゴロフチェンコ 2:41.8
200mバ 1. コズミン 2:23.4(ソ新)
2. キセリョフ 2:24.5
3. アボヴィアン 2:26.0
100m背 1. バルビエル 1:04.3
2. シーマル 1:05.0
3. タラーゾフ 1:05.2
800m継 1. 陸軍中央クラブ 8:39.6
(ニキーティン, ニコラーエフ,
ボヴィッチ, ストルヤノフ)
400m混継 1. 陸軍中央クラブ 4:23.3

(バルビエル, コレスニコフ,
アボヴィアン, ノーヴィコフ)

| | | |
|---------|-----------|--------|
| 女100m自 | 1. フーグ | 1:06.9 |
| 〃400m自 | 1. 〃 | 5:20.4 |
| 〃200m平 | 1. マウレル | 2:56.1 |
| 〃100mバ | 1. ポズニアク | 1:14.9 |
| 〃100m背 | 1. ヴィクトロワ | 1:14.8 |
| 〃400m継 | 1. シナモ | 4:33.7 |
| 〃400m混継 | 1. 〃 | 5:05.6 |

ソ連の強化策

ソ連は、あらゆるスポーツにおいて、圧倒的な強味を発揮しているが、水泳だけは意の如くならず、のび悩みの状態である。ソビエト・ニュースによれば、これを打開するため、このほどフィルソフ・ソ連水泳連盟議長は、3~4年後を目標とした次のような強化策を発表した。

A 8, 9才からはじめて16才で一流に

ソ連水泳界は、世界の激しい進歩に比べると足踏み状態にあり、児童体育学校での幼年からの訓練と、コーチ方法が悪いため期待を裏切っている。

豪州のイルザ・コンラツが13才で超一流となったのに、ソ連で同じことができないわけではない。8~9才から練習をはじめれば、女子で16~7才、男子で17~8才でスポーツ・マスター級となり、世界記録にいとめるし、またそうでなければならない。

優秀選手は8~10人のスポーツ・マスターから1人しか生れない。従って3~4年の間に、ソ連代表チームのメンバーを一新するためには、毎年80~100人のスポーツ・マスターをつくりださねばならない。そしてこれには750~900人の一級選手を必要とする。このような状態になって、はじめてソ連の急速な発展が期待できる。

B プールを学童に開放

体育団体や学校のコーチ陣の強化は勿論だが、プールの使用方法の改善が急務である。プールの管理者は利益をあげることに夢中で、プールの中は大混雑を呈している。スポーツ用プールは水浴場ではない。

ソ連の学童は皆、競泳種目のどれか一つの型を習得すべきである。健康増進と水の犠牲をなくすのにも役立つ。プールはこの計画の実現に協力せねばならない。このためまづ近くの学校生徒の練習を組織だてねばならない。

すでにモスクワのレーニン中央競技場のプールは近くの第23, 40小学校に特別の練習時間を割当て、一

方学校側でもPTAの協力によりこの時間を正課とする熱意を見せている。

C 児童体育学校では3組に分けて練習

体育教育専門の児童体育学校では、次の3組に分けて練習を行うべきである。

イ、初心者のうちから選ばれた最年少者の組

ロ、さらに選抜された才能のある生徒の組

ここでは2~3年間基本をみっちり勉強し、水泳の愛情、根気強さ、向上心などをうえつける。

ハ、ロの組から選ばれた最優秀生徒の組

ここでは4~5人が1組となり、1~2に1名のコーチがつき、1日1.5~2時間づつ、週4~5回練習する。

D コーチの守るべき6原則

練習内容を質的に改善するため、コーチは次の6原則を基本とすべきである。

1. いろいろな方法による体力の鍛錬
2. 競泳種目別の詳細な技術的研究
3. 1年を通じての規則正しいトレーニング
4. 練習量を多くすること
5. 練習の基礎的段階および競技前のハードトレーニング
6. 精神的鍛錬

ソ連の多くの選手は特別の体操、重量揚、スキー、マラソンその他の予備運動をしているが、一年に2~3カ月にすぎず、量的にも質的にも輕易にすぎ、しかも一定のノルマがきめられていない。これではスタミナが養えない。

多くのコーチは選手が十分泳法をマスターしないうちに好記録を出させようと無理している。これでは記録のび方が頭打ちとなる。

練習回数は週3回以上、基礎的段階および競技前にはさらにふやす。1週間の練習距離は新人または3級は6~8000m、2級は12~13000m、1級およびスポーツ・マスターは2~30000mとする。ソ連の選手でもこの位を泳いでいるのも多いが、豪州あたりと比べるとスピードがはるかに劣る。

競技参加回数を増加する。世界一流の選手は1年に50回の競技会に出て、常に斗争心を養い、意志の鍛錬をする。ソ連では平均15~16回にすぎないので、今年これを少くとも倍にする。

急速な進歩をもたらす最後の条件は、目標を高くすることである。ソ連のコーチが、選手に与える目標記録は低すぎるので、選手の心中に精神的な劣等感をいだかせ、世界記録への挑戦をさまたげることにもなる。まづこの障害をとりのぞかねばならない。

◎ 連 盟 日 誌 ◎

—昭和34年度—

- | | |
|--|--|
| <p>8月1日(土) 全国ジュニア指導会 (振甫プール)</p> <p>2日(日) " (")</p> <p style="padding-left: 40px;">アメリカチーム歓送会 (松坂)</p> <p style="padding-left: 40px;">" 羽田発帰国</p> <p>3日(月) シンクロ委員会</p> <p>6日(木) 常務理事会</p> <p>7日(金) 記録委員会</p> <p>8日(土) 各地域高校</p> <p>9日(日) "</p> <p>12日(水) 日本選手権シンクロ競技大会 (目白プール)</p> <p style="padding-left: 40px;">競泳座談会</p> <p>13日(木) 学生水球委員会</p> <p style="padding-left: 40px;">通信競技打合せ会 (レバンテ)</p> <p style="padding-left: 40px;">日本代表チーム水球合宿練習会終る (浜松市プール)</p> <p>17日(月) 日本泳法委員会</p> <p style="padding-left: 40px;">国民皆泳週間始る</p> <p>18日(火) 全国勤労者大会打合せ会 (精養軒)</p> <p style="padding-left: 40px;">水球打合せ会</p> <p style="padding-left: 40px;">学生実行委員会</p> <p>19日(水) 常務理事会</p> <p style="padding-left: 40px;">北村常務理事歓送会</p> <p>20日(木) 国民皆泳全国学童水泳大会 (中央会場 品川第一小学校プール)</p> <p>21日(金) 日本高校選手権水上競技大会(第1日)</p> <p>22日(土) " (第2日)(浜松市プール)</p> <p>23日(日) " (第3日)</p> <p>24日(月) 高校選抜水球合宿練習会始る (浜松市プール)</p> <p>25日(火) 日本泳法競技大会 (天理プール)</p> <p style="padding-left: 40px;">学生実行委員会</p> <p>26日(水) 記録委員会</p> <p style="padding-left: 40px;">関東学生水球トーナメント戦</p> <p>27日(木) " (成城大プール)</p> <p>28日(金) 全国勤労者水上競技大会第1日</p> <p>29日(土) " (第2日)(大阪プール)</p> <p>30日(日) " (第3日)</p> <p style="padding-left: 40px;">日本中学水泳通信競技大会 (全国)</p> <p style="padding-left: 40px;">関東学生大会メンバー交換会(岸体育館)</p> <p>31日(月) 編集委員会</p> | <p>9月1日(火) 水球委員会</p> <p>3日(木) 常務理事会</p> <p>4日(金) シンクロ委員会</p> <p>5日(土) 北村常務理事 羽田発渡欧</p> <p style="padding-left: 40px;">関東学生選手権水上競技大会(第1日)</p> <p>6日(日) " (第2日)(神宮プール)</p> <p>7日(月) 日本学生大会メンバー交換会</p> <p>8日(火) 学生水球委員会</p> <p>9日(水) 安部名誉主事 FINA理事会出席の為</p> <p style="padding-left: 40px;">ローマへ(羽田発)</p> <p>11日(金) 日本学生部会代表委員会(神宮貴賓室)</p> <p style="padding-left: 40px;">日本学生選手権水上競技大会(第1日)</p> <p>12日(土) " (第2日)(神宮プール)</p> <p>13日(日) " (第3日)</p> <p>16日(水) 常務理事会</p> <p>20日(日) 国民体育大会水上競技大会(第1日)</p> <p>21日(月) " (第2日)(神宮プール)</p> <p>22日(火) " (第3日)(都屋内プール)</p> <p>23日(水) " (第4日)</p> <p>25日(金) 競泳委員会</p> <p>26日(土) 飛込委員会</p> <p style="padding-left: 40px;">編集委員会</p> <p>10月1日(木) 常務理事会</p> <p>2日(金) オリンピック候補選考会 (精養軒)</p> <p>5日(月) 水球小委員会</p> <p>6日(火) 水球委員会</p> <p>7日(水) オリンピック候補選考会 (精養軒)</p> <p>10日(土) 水球委員会</p> <p>14日(水) 強化合宿練習会打合せ会</p> <p>15日(木) 常務理事会</p> <p>16日(金) 学生実行委員会</p> <p>11月6日(金) 水球委員会</p> <p>9日(月) 室内プール練習打合せ会</p> <p>12日(木) 常務理事会</p> <p>16日(月) 競泳委員会</p> <p>19日(木) 強化合宿打合せ会</p> <p>20日(金) 施設委員会 (精養軒)</p> <p>21日(土) オリンピック競泳、飛込強化合宿練習始る(国立競技場プール 都屋内プール)</p> <p>27日(金) シンクロ委員会</p> <p style="padding-left: 40px;">オリンピック審判器(オメガー)打合せ会</p> <p style="padding-left: 40px;">競泳委員会 (日本青年館)</p> <p>28日(土) 指導者泳法研究会始る (日本青年館)</p> |
|--|--|

編集委員会
 30日(月) 強化合宿及び泳法研究会終る
 12月2日(水) 記録委員会
 飛込委員会
 3日(木) 常務理事会
 4日(金) 学生水球委員会
 14日(月) 日本泳法委員会
 16日(水) オリンピック候補選考委員会(精養軒)
 17日(木) 常務理事会
 18日(金) 学生常任委員会(いろは)
 19日(土) 水球委員会
 26日(土) 事務所閉む

18日(木) 通信競技打合せ会
 19日(金) オリンピック回顧座談会(精養軒)
 20日(土) 日本泳法研究会(伊東温泉プール)
 21日(日) " (" " ")
 23日(火) 通信競技打合せ会
 25日(木) 常務理事会
 3月3日(木) 学生水球委員会
 5日(土) 記録委員会
 清川氏(帰国につき)懇談(精養軒)
 7日(月) 体協関係打合せ会
 9日(水) 水球強化合宿練習会始る
 (都屋内プール・東大室内プール)
 10日(木) 常務理事会
 15日(火) 競泳委員会
 体協関係打合せ会
 16日(水) シンクロ委員会
 17日(木) 学生実行委員会
 18日(金) 飛込委員会
 19日(土) 編集委員会
 飛込委員会
 20日(日) 水球強化合宿練習会終る
 競泳強化合宿練習会始る
 (都屋内プール・国立競技場プール)
 22日(火) オリンピック関係打合せ会
 (スポーツマンホテル)
 23日(水) 強化合宿コーチ打合せ会(精養軒)
 学生実行委員会
 シンクロ講習会始る(国民体育館プール)
 24日(木) 常務理事会
 25日(金) 顧問、評議員会(精養軒)
 27日(日) シンクロ講習会終る
 28日(月) 競泳委員会(スポーツマンホテル)
 ギャートン博士との座談会(中国飯店)
 29日(火) 競泳合宿練習会終る
 オリンピック関係打合せ会
 31日(木) 委員長会議 以上

—昭和35年度—

1月4日(月) 事務所開く
 7日(木) 常務理事会
 10日(日) オリンピック競泳強化合宿練習会始る
 (都屋内プール・国立競技場プール)
 14日(木) 競泳委員会(スポーツマンホテル)
 15日(金) 初泳ぎ(都屋内プール)
 18日(月) 学生水球委員会
 19日(火) 競泳強化合宿練習会終る
 関東学生総務委員会(岸体育館)
 21日(木) 常務理事会
 27日(水) 水球委員会
 30日(土) 全国理事会(精養軒)
 日本学生代表委員会(" ")
 31日(日) 定例代議員会(" ")
 2月3日(水) 飛込委員会
 4日(木) 常務理事会
 8日(月) 通信競技打合せ会
 10日(水) 学生実行委員会
 11日(木) 常務理事会
 15日(月) 日本泳法委員会
 16日(火) 水球委員会

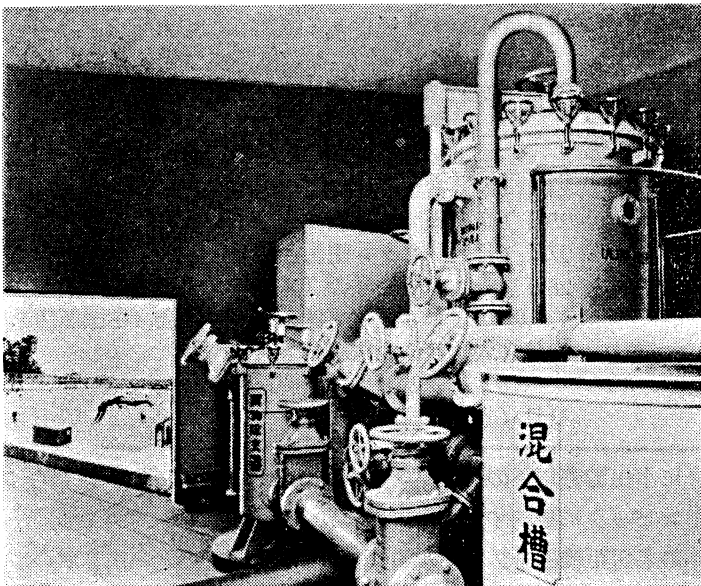
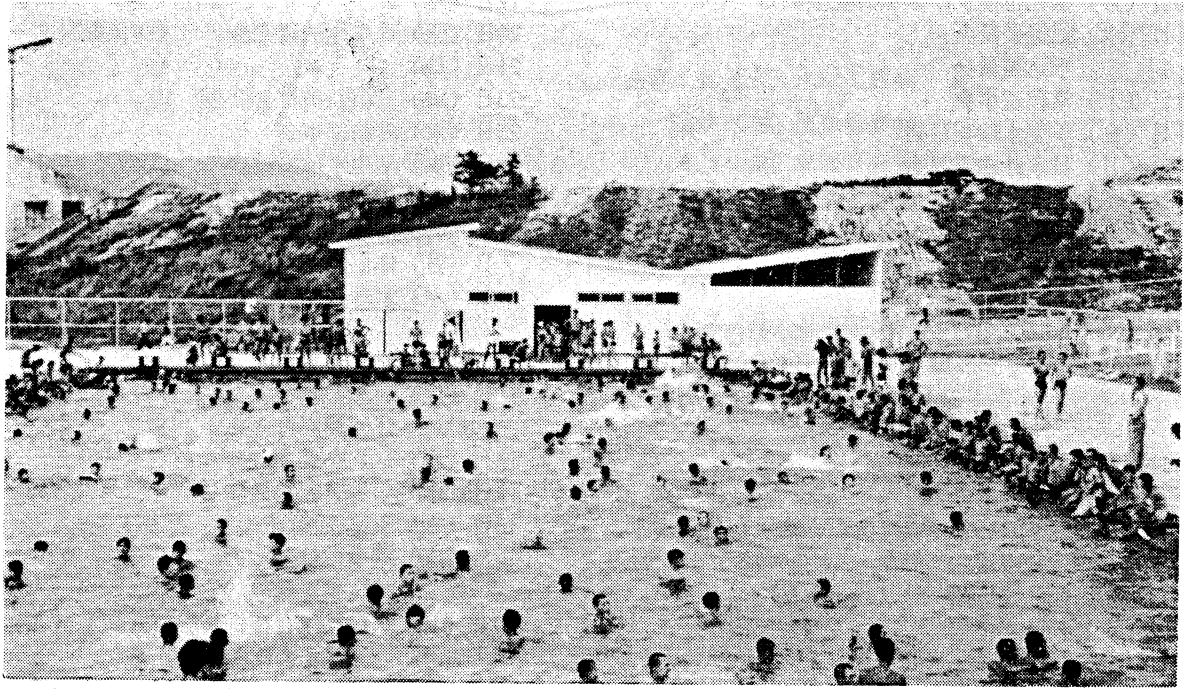
編集後記 ローマ大会のコーチングスタッフはさき小出監督以下のベテランの決定を見て愈々オリンピック気運もたかまってきた。本号の内容もできるだけオリンピックに集約すべく意図したが、代表選手も未決定等のため残念ながら次号に期待して戴くこととした。往年の名短距離選手ブラシルの真木氏よりなつかしい便りがあったが、異境で日伯親善に努力される同氏の健康と発展を祈ってやまない。なお、名取先生を囲み体協強化本部主催の第1回指導者講習会に受講した諸氏との座談会を催したが、水泳の科学的管理が叫ばれる昨今意義深いものがあつた。(栗村)

編集委員(いろは順)印委員長)金田平八郎、上野佐太郎、栗村 中丸、坂本亮四郎、三枝美貴子、佐藤 幸男、菊池 章、島田桃一郎、島田 博史、鈴木 祐一

| | | |
|-----------------------|---|--|
| <p>日本水泳連盟 機関誌</p> | <p>昭和35年6月10日印刷 昭和35年6月15日発行 日本水泳連盟</p> | <p>東京都千代田区丸の内2-2 丸ビル722区</p> |
| <p>水 泳</p> | <p>編集兼 発行人 栗村 中丸 印刷所 株式会社成島印刷所 東京都中央区日本橋本石町3の4 電話日本橋(241)1701・6509・7082</p> | <p>発行並 申込所 日本水泳連盟 電話和田倉(201)3090・4885番 振替口座東京5178番</p> |
| <p>第133号</p> | | |

プール建設とウルトラ・フィルター

(循環濾過装置)



ウルトラ・フィルターは

- (1) シーズン中一回も換水しない
- (2) シーズン中コースライン明瞭
- (3) シーズン中飲料適の水で泳げる

プール建設 競泳・学校・温泉・娯楽プール各種

標準施工 (鉄筋コンクリート)

簡易施工 (ブロック積で特に廉価にあがる)

ウルトラ・フィルター, ヘヤーキャッチャー, ポンプ・フィルター, 薬品注入器, 塩素滅菌装置
(実施例) 大阪府立豊中プール (上記写真), 東京北園高校, 箱根小涌園 (外人専用及一般用), 熱海富士屋ホテル, 横浜本町小学校, 大阪文里中学校, 大阪府PL教団, 三和銀行宝塚, 兵庫伊丹小学校, 山口宇部興産プール, その他

ミウラ化学装置株式会社

東京都目黒区下目黒3丁目541番地

電話 (712) 2265番

大阪市住吉区帝塚山東2丁目13番地

電話 (67) 0251番(代)